



取り上げるにあたって、15曲ばかり聴いてみた。意外にも、成人式3回を経た、私にもフィットする。メロや歌詞は、その時代の青春の代弁者、とっていい音楽だろう。多くの若者たちの持つ、恋や悩み、不満や不安などを、平易に昇華させている。そして、ほぼ等身大・同じ位置からの、応援歌。聴いていると、確かに、エネルギーや勇気を、たくさん与えてくれる。昔でいえば、ソフト寄りのグループサウンズ、トワ・エ・モア、加山雄三や森田健作の音楽。それらの、現代版に近い感じを持った。期待の持てる、グループである。

(詞・曲 ファンキー・モンキー・ベイビーズ、川村結花)

あとひと粒の涙で ひと言の勇気で 願いがかなう その時が来るって 僕は信じてるから
君もあきらめないで----

(収集プロフィール)

FUNKY MONKEY BABYS (ファンキー・モンキー・ベイビーズ) は、2004年結成の日本の男性音楽グループである。メンバー全員が東京都八王子市出身。

*地元・八王子で個々に音楽活動をしていたファンキー加藤 (MC/リーダー)、モン吉 (MC)、DJケミカル (DJ) の3人が04年元旦に結成した2MC1DJのヒップホップ・ユニット。

熱く激しいライブ・パフォーマンスが話題に。

概要

2人のボーカルと1DJのグループ。グループ名の由来は、それぞれソロ活動をしていたファンキー加藤とモン吉が最初にグループを結成し「ファンキー」と「モンキー」で「Funky Monkey Babys」となったことである。また3つの単語の頭文字から「FMB」と略されることもある。ちなみに「ベイビーズ」の綴りは「Babys」ではなく「Babies」が正しい。

DJケミカルは結成当初はライブDJとして参加していたが、後に正式メンバーとして加入。DJプレイをしないDJとして有名である。曲中ラップを多用するが押韻は少ない。趣味も好きな音楽のジャンルもバラバラの3人だが、尊敬するアーティストはサザンオールスターズで共通。

メンバー

ファンキー加藤 (かとう しゅんすけ)、1978年12月 -) MC、リーダー、アーティスト写真の立ち位置は向かって左。

モン吉 (つかもと さとる、1979年2月 -) MC、アーティスト写真の立ち位置は向かって右。

DJケミカル (たのくら ともふみ、1982年5月 -) DJ、アーティスト写真の立ち位置は向かって中央。

沿革

ケツメイシがパーソナリティーを務めていた『MOTHER MUSIC RECORDS』の中のデモレンジャーで決勝戦へ進むも、ナイス橋本に敗れ準優勝となった。

2006年8月26日、静岡県静岡市清水区を本拠地とする清水エスパルスのイベント「CHALLENGE 5」の中で、彼らの『ALWAYS』が採用され、実際にスタジアムで歌った。その後もエスパルスとはホームページ上のORANGE-TV.jpに出演するなどの関係がある。その後彼らは『ミュージックステーション』や『HEY!HEY!HEY!』などに出演するようになった。

2010年8月、YouTube内の公式チャンネルにおいて、日本人アーティストとして史上初の累計2000万回再生を突破。

*「ちっぽけな勇氣」は、生きていく中で自分の未来に不安を覚えて自問自答を繰り返す、そんな人々に少しの答えを与えてくれそうな直球の応援歌。家族への愛情を歌った「My Home」を含め、訴えを押し付けるわけではなく、ひたすら熱い歌声が大切なものとは何かを教えてくれる。

*告白 J-POPのメインストリートで勝負するメロディ・ラップの第一人者であり、ピュアな恋と青春を歌い続けるファンモンが「最高の自信作」と言い切る力作。8枚目のシングルは、キャッチーなサビ、胸キュンの歌詞、生ストリングスの迫力など、これがファンモンの世界の中心だ。

*桜 日常に生まれる些細な出来事を題材にしたリリックと親しみやすいメロディは本作でも魅力的。涙腺を刺激する心地良いサウンドが満喫できる。

*ファンモンBEST 2010年最初のヒット・アルバム、2MC&1DJのヒップホップ・ユニットによるベスト盤。とにかくどこから聴いてもキラキラ・チューンの嵐で、ポップで切なくてキャッチーなメロディが飛び込んでくる。ズドンとまっすぐに心に届いてくる歌詞にも注目。エモーショナルでグッとくるメロディ。

*「大切」は、ファンモンらしい、あふれ出す思いを真正面から全力投球していったミッド・バラード。あなたの大切さをここまで堂々と告白されたら、投げかけられた相手は、涙ぐむほどの感動。

*気の利いたタイトルの「あとひとつ」は、第92回夏の高校野球応援ソング。直球の青春ワードをミディアム・スローでど真ん中に投げ込んだと思いきや、さらりと夏恋ソングに転じる身の軽さが、好調を物語る。仕事や部活、恋愛、勉強など身近なことをテーマにした、すべての頑張る人へ向けたナンバー。

シングル (PV出演者など)

1st 2006年1月 そのまんま東へ 77位 そのまんま東 (現: 東国原英夫)

2nd 2006 恋の片道切符 31位 山田花子

3rd 2006 ALWAYS 55位 ペナルティ

4th 2007 Lovin'Life 10位 中嶋朋子

5th 2007 ちっぽけな勇氣 8位 脇知弘

6th 2007 もう君がない 8位 戸田恵梨香

7th 2008 旅立ち 10位 石田卓也

8th 2008 告白 4位 船越英一郎

9th 2008 希望の唄／風 11位 北乃きい

DVD 2009 雪が降る街 34位 杉本彩

10th 2009 桜 7位 徳井義実

11th 2009 ヒーロー／明日へ

12th 2010 涙／夢 4位 蒼井優・佐藤隆太・はんにゃ・ほか

13th 2010	大切	6位 成海璃子
14th 2010	あとひとつ	8位 田中将大

バンド暦が浅いせいも、これといった強い個性や、特色がうすい感じがするが、それがこれからの展開かえって面白いのかも。曲全体に、素直で無理の少ない感じがいい。オーケストラ風の曲の運びや、バック・メロディーに、大きなスケール感があって、なかなかの期待感が。

(詞 山村隆太 曲 阪井一生)

君がいない 日々の意味をいま知って すべて何もかも 捨てて駆け出した 星の下で今も
心は----

(収集プロフィール)

flumpool (フランプール、2007～) は、日本の4人組バンド。

*幼稚園からの幼なじみである山村隆太(vo)、阪井一生(gt)、尼川元気(ba)がアコースティック・ユニットを結成したことから伝説は始まった。知人の紹介で小倉誠司(dr)が加入し、07年1月よりflumpool (フランプール) と改名。

*無名の新人ながら、08年9月からau KDDI『LISMO』キャンペーンに抜擢され、そのCMソングとして配信限定リリースされた「花になれ」が180万ダウンロード(有料・無料含む)を記録。続く第2シングル「Over the rain」も70万DLのヒットとなり、08年11月にリリースしたデビュー・ミニアルバム『Unreal』はアルバム・チャート初登場2位にランクイン、大型新人バンドとしてブレイク。

09年2月には、初の全国ライブ・ツアー「flumpool tour 2009『Unreal』」を開催。先行応募受付では、公式サイトのみでの先行受付にも関わらず10万通の応募が殺到。また同月にはメジャー・デビュー後初めてのシングル「星に願いを」をリリース、オリコン初登場2位を獲得。

7月には、手塚治虫の生誕80周年記念の映画『MW-ムウ-』の主題歌「MW～Dear Mr. & Ms. ピカレスク～」をリリース。映画の世界観と見事なまでにリンク。flumpoolでは触れることのなかった力強い作品に。

*「君に届け」は、ストリングスの流れが心地よい、すがすがしくも胸キュンのポップ・チューン。せつないバラード「僕の存在」、ライブ音源「Quville」を含め、2008年にKDDI「LISMO」キャンペーン・アーティストへの抜擢を経てデビューした4人編成バンドの、豊かな感性。ピュアな気持ちをストレートに表現したラブ・ソング。爆発しそうな感情を上手に伝えられないもどかしさと、一生懸命に伝えようとするひたむきさが歌われている。

*独特の世界観を持つ山村隆太(vo)の歌詞と幻想的な雰囲気を持つ阪井一生(g)のメロディという持ち味が十分発揮された。

*「星に願いを」離れ離れになってしまった大切な人への変わらぬ想いを描いたアップ・ナンバーで、軽快かつ情熱的なメロディが感動を誘う仕上がりだ。

*「残像」愛する人を失う気持ちを切なく歌い上げた。カップリングの「Birds」はタイトル曲とは対照的にアッパーなロック・チューン。「今年の桜」は卒業シーズンに向けてしっとりリミックスした。彼らの今の魅力を凝縮したような内容の濃いシングル。美メロに乗せて愛する人を失なう気持ちを切実に歌い上げたバラード。

*「reboot～あきらめない詩～/流れ星」2008年後半から2009年にかけて一気にブレイクし

たflumpool、その第二章を告げる両A面シングル。清らかでドラマティックなストリングスに導かれた「reboot」では諦めずに生きていく決意、「流れ星」では、ツアーのなかで感じたファンへの感謝を。

略歴

2007に大阪府で結成。バンド名は、英語で4（メンバー数が4人）を意味する「four」の頭文字から「f」、塊を意味する「lump」、溜まりを意味する「pool」を合わせた造語。

2008年10月、配信限定シングル「花になれ」でメジャーデビュー。

特徴

同じ事務所の、三浦春馬作品の主題歌を担当する事が多い。（ブラッディ・マンディ、君に届け）ミニアルバム『Unreal』以降のシングルやアルバム曲は、全曲、作詞を山村、作曲を阪井が手掛けている。

メンバー

山村隆太（やまむら りゅうた、1985年1月 - ）

ボーカル・ギター担当。

阪井一生（さかい かずき、1985年2月 - ）

ギター担当。

尼川元気（あまかわ げんき、1984年11月 - ）

ベース担当。

小倉誠司（おぐら せいじ、1984年2月 - ）

最年長メンバーでリーダー。ドラム担当。

2002年

幼稚園からの幼馴染みの山村、阪井、尼川の3人で、前身となるアコースティックギター弾き語りユニットである309を結成。後にcubeと改名、4枚の自主制作CD-Rを発表。

2007年

flumpoolへ改名。知人の紹介で知り合った小倉がドラムで加入し、バンド活動へ転向する。以降は大阪城ホール前で路上ライブ、ライブハウスを中心とした音楽活動。

7月24日、自主制作シングル「ミライカナイ」を発表。

2008年

7月、収録曲「labo」のMVを制作。

8月27日、タワーレコードおよびTSUTAYAにて初回5,000枚完全限定生産で、インディーズシングル「labo」を発売。

9月1日よりau KDDI『LISMO』キャンペーンアーティスト。9月20日より楽曲「花になれ」が起用。

9月、フジテレビ系全国ネット『めざましテレビ』にて特集が組まれ、テレビ初出演する。

10月、配信限定でシングル「花になれ」を発表。

11月19日、メジャー初のCD作品となるミニアルバム『Unreal』を発売。発売に合わせ、公式サイト上に特設ページ『怖乱風流 ～Red Dracul Scar Tissue～』を開設。オリコン週間アルバムチャー

トで初登場2位。

2009年

2月25日、初のCDシングル「星に願いを」を発売。オリコン初登場2位を記録。

12月23日、1stフルアルバム『What's flumpool!?!』を発売。

12月、『第60回NHK紅白歌合戦』へ初出場。

2010年

2月、シングル「残像」を発売。オリコン初登場3位を記録。

6月、4thシングル「reboot～あきらめない詩～/流れ星」をリリース。オリコン初登場2位を記録。

「reboot～あきらめない詩～」は日本テレビ系・南アフリカ2010サポートソングとして起用された。

7月7日、TOKYO FMのSCHOOL OF LOCK!内の彼らのコーナーであるflumpool LOCKS!で山村が手術から復帰。

9月、シングル『君に届け』をリリース。映画『君に届け』の主題歌となる。

12月、『第61回NHK紅白歌合戦』に2年連続2回目の出場。『君に届け』を歌唱。

2011年

1月26日、2ndフルアルバム『Fantasia of Life Stripe』をリリース。

インディーズ

1st 2007年7月 ミライカナイ

2nd 2008 labo

CDシングル

枚 発売日 タイトル

1st 2009 星に願いを

2nd 2009 MW ～Dear Mr. & Ms. ピカレスク～／夏Dive

3rd 2010 残像

4th 2010 reboot～あきらめない詩～／流れ星

5th 2010 君に届け

配信限定シングル

1st 2008年10月 花になれ

2nd 2008 Over the rain ～ひかりの橋～

3rd 2009 フレイム

4th 2009 見つめていたい

最近、知った方だが、その世界は、とてもユニークで面白く、かつ哲学的である。歌唱力も、かなりなものだ。聴いているときよりも、聴いたあとから、ぐんと何かの迫ってくる感じ。PVも、凝っていて、そこに展開される世界観が、新しい才能を予感させる。

「ラフ」(詞・曲 田村歩美)

もしも 世界の最終列車に間違っただらどうしようかな こわいわ 街のタクシーも 富裕層用で並ぶのもこわい だからどうせなら-----

(収集プロフィール)

たむらばん(シンガ・ソングライター田村歩美のソロ・プロジェクト、1973?~)岐阜県高山市出身。県立斐太高校・早大文学部卒。日作詞・作曲やアレンジはもちろん、ジャケットやウェブ・ページのアート・ワークまで手掛ける真のマルチ・アーティスト。

*07年1月から<MySpace>において自ら楽曲プロモーションを開始。4ヶ月で1万人のファンを獲得。18万PV、24万回のストリーミングを達成。それがきっかけとなり<コロムビア>からのデビューが決まり、日本初の「MySpace発メジャーデビューアーティスト」として、08年4月にデビュー、アルバム『ブタベスト』をリリース。

また音楽以外でもその才能は評価されており、08年に発売された2ndシングル「ゼロ」のビデオ・クリップでは、イラストレーター田村歩美としてSTUDIO4° Cとコラボ/映像製作に参加。

*小学校低学年の時に台湾で暮らした経験がある。小学生の時にアマチュア無線の免許を取得。2002年より音楽活動を開始。当初はライブハウスで活動を主に行っていたが、2007年よりMySpaceが日本進出したのを期にMySpace上で活動を開始し、楽曲を発表するようになる。同年に配信限定シングル「責めないデイ」「ハイヨーメイヨー」を同時配信し、メジャーデビュー。

作詞作曲にとどまらず、編曲もこなし、ジャケットなどのイラストも手掛けている。また、『フロムエー』とのコラボ企画、shing02のアルバム『歪曲』収録曲「接近」にラップで参加。

略歴

2003年3月 自主盤「たむらばん」ライブ会場限定販売。

2003年12月 1stアルバム「ひとりあそび」発売。

2005 1stミニアルバム「人のいろは」発売。

2007 MySpaceにてフレンズ1万人突破。

2007 インターネット限定アルバム「ハロウ」発売。

2007 MySpaceメジャー部門1位獲得。

2008 MySpaceにて50万ページビュー達成。

2008 2ndシングル「ゼロ」発売。

2010 5thシングル「SOS」発売。

2010 6thシングル「ラフ」発売。

2010 3rdアルバム「ナクナイ」発売。

配信限定曲

責めないデイ (2007年10月)

ハイヨーメイヨー (2007)

お前ぶただな (2007)

アミリオン (2007)

回転木馬 (2007)

ライ・クア・バード (2007)

ぶっ飛ばすぞ (2008)

へぶん (2008)

ハリウッド (2008)

オオカミ少年ケンのテーマ (ロッテCM)

自主盤

たむらぱん (2003年3月)

プレイス

アイノウ

じゅ

ばれてるよ

女の子

お呼び宿

先日、華の昭和名歌に収録した、昭和前期の北廉太郎から、約70年を経て、西野カナへ。その表現された音楽性は、驚くほどの違いがある。が、私は、基本的なもの、感情や思慕、あてどない思い、などは、そう変わっていないと思う。表現された意匠（聴いて貰うための、衣装・装飾）は、似ても似つかないが、その内側にある、人間的なものは、そう変わっていない、と思う。どちらも、人への思いであり、悩みであり、生きていることへの、思いであるような。西野は、唄は文句なく上手い。ちょっと、きつめな感じはするが。これからの、平成後期の、有力ディーバであるのは確かだろう。

（詞 Kana Nishino・GIORGIO 13/曲 GIORGIO CANCEMI）

会いたくて会いたくて 震える 君想うほど遠く感じて もう一度聞かせて嘘でも あの日のように 好きだって-----

（収集プロフィール）

西野カナ（にしのかな、1989～ ）は、三重県松阪市出身の歌手。エスエムイーレコーズ所属。三重大学附属中学校、梅村学園三重高校卒。現在は、名古屋市在住で市内の大学文学部に在学中。子供の頃に、2度アメリカで過ごす。話す言葉は三重弁松阪弁で、出演するテレビ・ラジオ番組も同様。高校生の頃、津軽の民謡を習っていた。

略歴

16歳の頃に、母親が本人に内緒で応募したオーディションで、その歌声が応募総数約4万名中ナンバーワンの評価を得る。各種記事などにある「1/40000の奇跡のガーリーヴォイス」はここから。

2006年、SMEよりデビューが決定。デビューまでの約3年間で歌手活動に向けて準備をしていた。

音楽番組『COUNT DOWN TV』の「2009年ブレイクすると思うアーティストランキング」で、2位に輝いた（1位はflumpool）。

2010年の紅白歌合戦に、初出場することに。

*2度の渡米経験を経て洋楽に目覚め、アギレラ、ロペス、シアラなどのシンガーをはじめ、HIP HOP/R&B/レゲエなど様々なジャンルの音楽にのめり込む。また、洋楽を聴く一方で、日本文化に根付いたミュージック・カルチャーにも興味を持ち、日本民謡も習い始める。

05年、＜Sony Music＞主催のオーディションに参加。その天性の歌声が、レーベルの目に留まる。06年に、メジャー・デビューが決定。07年、デビューへの準備を進めると同時に、英文学を学ぶため大学に進学。渡米経験、日本民謡経験の2つの感性を合わせ持つ彼女は、オーストラリア人作家ユニットNERVOとシングル「I」を制作。08年2月に世界初のデビュー・シングル日米先行配信を敢行。

09年3月には、幅広い層からの支持を得ているバイリンガル・ラッパーWISEを迎えた5thシングル「遠くても feat.WISE」を発売。そして09年6月、デビューから通算6枚のシングルを含む1stアルバム『LOVE one.』をリリース。世界の歌姫シンディ・ローパーにも認められたその天性の歌声でリアルな恋愛を唄い、ケータイ世代と言われている若年層を中心に絶大な人気。

* I あどけなさが残るキュートなヴォーカル、自身が手掛けた等身大の歌詞、キャッチーで耳に残るメロディが一体となり、ガーリーな魅力。

* Style. キュートなガーリー・ヴォイスが印象的なアーティスト、西野カナ。ニューウェイヴとエレクトロをミックスさせたアッパー・チューンで、ティーンらしい素直なメッセージが魅力。

* MAKE UP ガーリーなヴォーカルが魅力の西野カナの4thシングル。タイトルどおり“メイク”がモチーフになっており、女の子ならではのキュートな詞世界と、煌びやかなサウンドが印象的な失恋応援ソング。

* Best Friend 今春旅立ちを迎える世代、すでに社会人となった人にも鮮明に、学友の温かさを喚起させる切ないナンバー。美しい旋律と繊細なヴォーカルが胸に迫る。「ONE WAY LOVE」はクールなサウンドにのせ、あなたと友達以上になりたいと歌う。両曲とも友達という立場を異なる観点で歌っており、興味深い。

* Dear・・・/MAYBE 10～20代前半頃の、少女～大人の境界線を往き来する女性の心を代弁したシンガーとして同性から高い支持を得ている彼女。この8枚目のシングルは、好きな人に対する“逢いたい”“あなただけの私でいたい”という思いを、二つの心模様を通して吐き出していく。その女心に素直に共鳴できる。

* 他の女性に心変わりをしてしまった元彼のことを思い続け、“会いたくて”と繰り返す切ない失恋ソング。リアルに傷ついた心を本人がそのまま歌詞に反映、痛いほどの苦しい歌詞を、ピアノやストリングスを取り入れた繊細なサウンドで。

* to LOVE ケータイ世代のカリスマとしてブレイクした西野カナの2ndアルバム。「もっと...」「Dear...」など、配信サイトで1位を独占した曲が満載。

主な曲

1st 2008年2月	I
2nd 2008	glowly days
3rd 2008	Style.
4th 2009	MAKE UP
5th 2009	遠くても feat.WISE
6th 2009	君に会いたくなるから
7th 2009	もっと...
8th 2009	Dear.../MAYBE
9th 2010	Best Friend
10th 2010	会いたくて 会いたくて
11th 2010	if
12th 2010	君って

久しぶりに、Jポップ。私のようなオジジの視聴範囲でも、ときどきテレビで見かけるし、いま大変な売れっ子らしい。10曲ばかり聴いてみた。唄は、とても上手い。声量が豊かで、言葉がよく伝わる。メロディーの基底が、ややガチャガチャし過ぎるが。

「深愛」(詞 水樹 奈々 曲 上松範康)

雪が舞い散る夜空 二人寄り添い見上げた 繋がる手と手の----

(収録プロフィール)

水樹 奈々(みずき なな、1980～) 愛媛県新居浜市出身の、日本の声優・歌手。堀越高校、代々木アニメーション学院卒業。

学生時代まで

幼い頃より両親の歌謡教室で歌やピアノを学び、地元ではのど自慢大会荒しと呼ばれる。「せとうちのど自慢10周年記念全国大会」で優勝し、グランドチャンピオンになった際、審査員の目に留まりスカウトされて上京。堀越高等学校の総合TRAITコース(旧称「芸能活動コース」)へ入学。同校では、KinKi Kidsの堂本剛や女優のともさかりえと同級生だった。在籍中は、代々木アニメーション学院声優タレント科にも並行して通い学業と両立させた。1997年3月、代々木アニメーション学院声優タレント科を卒業。

1998年3月、堀越高等学校総合TRAITコースを卒業。このとき、学業優秀、品行方正の卒業生10人に贈られる堀越賞を受賞した。

デビューから現在

1998年、プレイステーション用ゲーム『NOeL～La neige～』の門倉千紗都役で声優デビュー。

2000年12月、シングル『想い』で歌手デビュー。

2001年、『シスター・プリンセス』をきっかけに、桑谷夏子・小林由美子・望月久代とともに声優ユニットのPrits(プリッツ)を結成。以降はシングル3作、アルバム1作を発表した。2002年、アニメ『七人のナナ』で、共演者の秋田まどか・浅木舞・中原麻衣・名塚佳織・福井裕佳梨・桃森すももと共に声優ユニットのnanaxnanaを結成し、主題歌を担当した。

2004年10月、10作目のシングル『innocent starter』がオリコン・週間シングルチャートにおいて9位となり、初めてオリコンTOP10入りする。2005年10月の週間シングルチャートで12作目のシングル『ETERNAL BLAZE』(2005年10月発売)が初登場2位となる、自己最高位記録を更新した。2006年1月のオリコン・週間音楽DVDチャートで『NANA CLIPS 3』が1位となる(総合DVDチャートでは3位)。

2008年10月1日に発売した18作目のシングル『Trickster』が、オリコン・週間シングルチャートで当時の自己最高タイの2位を獲得、累計売上では当時の自己最高を更新した。19作目のシングル『深愛』が、2009年1月のオリコン・シングルデイリーで1位を獲得(週間では2位)。

声優

当初、歌手としてスカウトされたはずであったが、水樹をスカウトした人からどういうわけか「声優に興味があるか」と聞かれている。

デビュー作は1998年に発売されたゲーム『NOeL～La neige～』の門倉千紗都役。なお、デビュ

一当時は堀越学園を卒業する直前であり、本人曰く「ギリギリ間に合った」とのこと[。幼女から成人女性と幅広く声を演じており、時には少年の声も演じている。役柄としては、気弱で大人しい女性、活発で破天荒な女性、クールな女性、二面性のあるキャラクター、人格そのものが異なる同一のキャラクターなど様々な声を演じている。

歌手

1993年、中学2年生の時に、本名名義で『つがざくら』というカセットを出している。なおこの曲は、2010年2月20日に行われた『アニメロミックス presents NANA MIZUKI LIVE ACADEMY 2010 Powered by Windows7 mania Office』の愛媛公演（新居浜市市民文化センターでの凱旋公演）にて披露された。また、これ以前にも小学3年生の時に、自主制作でカセットを出している。キングに移籍し、メジャーレーベルへ所属するきっかけになったのは、当時声を当てていたゲーム会社の音楽部門が、高い歌唱力を持ちながら歌手として芽が出ない水樹に楽曲を提供し、本人が歌手として生きるかどうかを決めるため「単独ライブ」を自力に近い状況で行い、偶然その現場に居合わせた現プロデューサー三嶋氏に認められたことによるという。

当初、住吉中プロデュースによる楽曲を発表したが、矢吹俊郎と出会い、POWER GATE以降は彼のプロデュースを受けることとなる。以降、基本的には矢吹が関係しつつ、上松範康などElements Garden所属の音楽家をはじめとした多数の作曲家から楽曲提供を受けるようになった。

*元々は演歌歌手を志していたため、武道館でコンサートを開催出来るほどの歌手になっても、「新宿コマ劇場での歌謡ショー開催」という夢を。その夢は2008年10月、同年12月31日を以って新宿コマが閉館する事から企画が立案され、18作目のシングル『Trickster』発売記念の本人座長公演として実現。

2010年10月に、キングと台湾の金牌大風音楽文化との提携により、アルバム『IMPACT EXCITER』をはじめ、水樹初の海外盤発行を遂げた。

人物

尊敬する人及び好きな歌手として美空ひばりを挙げている。好きな楽曲は「天城越え」など。

昔、吉祥寺にある時給800円のエステの受付のアルバイトをやっていたこともある。

歌手としてデビューした頃は、単発での契約がほとんどだったので、次の歌の仕事があるのかわからないような状況で仕事をしており、常に恐怖感と隣り合わせだったと語っている。

2007年頃、ヨガにはまっていた時期があり、柚木涼香や鈴木達央などの声優仲間や歌手のSuaraも勧誘。

子供の頃から自然科学が好きで、日本科学未来館を訪問した時は「大興奮! 一日じゅういても飽きません!」と語っている。水樹が、特に関心があるのは天文・宇宙関係。

歌手／声優として高い人気を誇る彼女。歌手としては2000年12月にシングル「想い」でデビューして以来、シングル／アルバム多数リリース。

*「深愛」は自身が出演するアニメ作品の主題歌。クラシカル&ダイナミックなメロディ・ラインにアルパ奏者・上松美香が参加、濃やかにつまびかれる旋律が情念深い楽曲世界を盛り立てる。愛らしさを携えながらも芯の通った清々しさを聴かせるヴォーカルが良い。

*PHANTOM MINDS クランチされたギターとピアノをバックにした「PHANTOM MINDS」は、曲をドラマティックに包み込むストリングスをバックに、伸びやかな彼女の歌声が響きわたる、ポップで希望に満ちたナンバー。

*Silent Bible 情熱的なビートの上をストリングスが優美に響く「Silent Bible」、リリカルなピアノが爽快に跳ねる「Polaris」など曲調はさまざまだが、自由に涼やかな美声を響かせる彼女。

*IMPACT EXCITER 8枚目のアルバム。スピーディなデジタル・ロックを歌う格好良さは健在だが、ミディアム・チューン「夏恋模様」での穏やかなヴォーカルや、上松美香が作曲及びアルバムで参加した壮大なラブ・バラード「7月7日」でのエモーショナルなヴォーカルなど、等身大の女心を歌うナンバーにとりわけ耳を奪われた。

60歳以上という私達の年代だと、ラップやヒップホップは音楽というより、お念仏か言葉遊びのように受け取りがち。私も、10年前頃にクレバをはじめ聴いたとき、そういう感じだった。評論の必要上、あれこれ聴いている内に、だんだんその面白さが分かってきたが。リップスライムは、紛れもなく、この分野での中心的存在。オーソドックスなものから、歌謡曲のテイストを取り込んだ、明るく楽しいものまで、幅が広い。リズムに乗せる、日本語の咀嚼度も完璧。またゆるいパフォーマンスも、楽しく元気を与えてくれる。

(詞 RYO-Z/ILMARI/PES/SU 曲 DJ FUMIYA)

Steppers 日々 Step up ビーツに乗り込み And you don't stop. Shake your Body 変幻自在 でも基本はリズムキープ----

(ウィキペディアより)

RIP SLYME (りっぴ すらいむ、2001~)

94年に開催された『YOUNG MCS IN TOWN 新人ラッパーコンテスト』で優勝したことをきっかけに数々のイベントに出演、若手ラッパーとして注目を浴びる。そして01年、シングル「ステッパーズ・ディライト」でメジャー・デビュー。翌年のシングル「FUNKASTIC」がスマッシュ・ヒットを記録し、シーンに新風を吹かせた。彼らの素晴らしさは、洗練された独自のポップ・センスと、コアなリスナーを唸らせる高次元で織り成されるラップのかけ合い。優れた作品を量産しているアーティストは、彼らの他にいない。リリースごとに違ったアプローチを打ち出す多彩なシングル群はもちろん、オリジナル・アルバム『FIVE』(01年)、『TIME TO GO』(03年)、『MASTERPIECE』(04年)、『FUNFAIR』(07年)のどれもが大ヒット。

現メンバー

RYO-Z (リョージ、1974年7月-) 東京都出身。MC担当。一番思い出のある曲: 「At The Lounge」

ILMARI (イルマリ、1975年6月-) 影響を受けた: ファーサイド、ブラック・アイド・ピース、マイクロフォン・ペイジャー

PES (ペス、1976年12月-) 東京都出身。MC担当。一番: 「Zeek Ryo-Z」

SU (スー、1973年11月-) 神奈川県出身。MC担当。影響を受けたアーティスト: ファーサイド、ギターウルフ 最近好きなアーティスト: ジュラシック5、Cocco

DJ FUMIYA (フミヤ、1979年3月-) 神奈川県出身。DJ担当。影響: ファーサイド、DJプレミア、イーストエンド

RYO-Z (リョージ、1974~) 東京出身。MC。影響: リーダーズ・オブ・ニュー・スクール、ファーサイド、ライムスター、スパノヴァ

FUMIYA (フミヤ、1979~) 出身地: ?。DJ。影響: ファーサイド、DJプレミア、ビースティー・ボーイズ、イーストエンド

前略・メジャー時代

2001年

3月 『STEPPER'S DELIGHT』

1stアルバム『FIVE』。

2002年

3月、ピチカート・ファイヴのトリビュート「戦争に反対する唯一の手段は。」で『nonstop to tokyo』をカバー。

7月、2ndアルバム『TOKYO CLASSIC』を発売。初のオリコン初登場1位。

日本のヒップホップアーティストとして初めて日本武道館でライブを成功させた。ヒップホップをメジャーシーンに浸透させた。

2003年

7月、3rdアルバム『TIME TO GO』をリリース。

7月20日、日本のヒップホップ界史上、初となる野外5万人LIVE「SUMMER MADNESS '03」を国営昭和記念公園で行い、成功させる。

2006年

1月、11枚目のシングル『Hot chocolate』をリリース。カップリング曲には"RIP SLYME vs HOTEL"名義で、ロックミュージシャンの布袋寅泰とのコラボレーションによる『FUNKASTIC BATTLE』を収録。（「MTV TOYOTA MASH UP PROJECT」の一環として作られた曲であり、マッシュアップという手法で布袋の『BATTLE WITHOUT HONOR OR HUMANITY』とRIP SLYMEの『FUNKASTIC』をミックス）

2007年

「TOKYO HEART」をテーマにした東京メトロのCMに、新曲『Tales』がタイアップされた。PVは、宮崎あおいを起用。

5月、3作目のDVD『Cut It Now!』を発売。

7月、13thシングル『熱帯夜』をリリース。

2008年

7月に15thシングル『太陽とビキニ』を発売。

2009年

2月に16thシングル『STAIRS』を発売。

2010年

5月 シングル「マタ逢う日マデ2010～冨田流～」を発表。ベストアルバム「GOOD TIMES」8月発売。

ラップで、日本語をここまでメロに適合させているグループは少ない。ほとんどの曲が、メロ、リズム、活舌、ノリ、シンプルなパフォーマンスなど、完璧とっていい仕上がり。この曲は、楽しい引越しというストーリーで、ラストに一抹の哀愁を感じさせる、普遍的な日常の物語である。

(詞・曲 ET-KING)

いつでも夢の途中ではぐれて バラバラになってしまうや---いつかまたここで会おうや 俺らいつまでたってもアホウや これは神様がくれた魔法や----

(収集プロフィール)

ET-KING (イーティー・キング、1999～) は5MCと1DJと1総合司会からなるヒップホップユニット。ライブでは全員はっぴを身にまとって行われる。大阪でデビューし、大阪・通天閣のふもと大国町で7人共同生活を送っていたが、現在は別々に生活している。別名、大阪大国町纏屋ET-KING (はっぴにも)。

*グループのリーダーにしてトラック・メイキングもこなすイトキン (MC)、元レゲエサウンドのセレクト兼MCとしての経験を持つKLUTCH (MC)、ヒューマン・ビート・ボックスを得意とするセンコウ (MC)、トラック・メーカー&トータル・インフォメーション担当のTENN (MC)、独特の声質と親近感溢れる作詞が魅力のBUCCI (MC)、ターンテーブル集団“CULT RENGE”にも所属しているBOOBY (DJ)、そしてライブでのナビゲーターを務めるコシバKEN (総合司会)。05年に大型ヒップホップ・イベント<流派NIGHT>のオーディション企画“R-Battle”でグランプリを獲得し、06年に両A面シングル「ドーナッツ／夏大盛り」でメジャー・デビューを果たす。全員ハッピーを身にまとい、お祭りさながらに、気合十分、迫力満点に繰り広げられるライブ・パフォーマンスも話題となった。3rdシングル「愛しい人へ」(07年)は若者に絶大な支持を得て大ヒット。

*大阪は通天閣のふもとの大国町から全国へ飛び出し、にぎやかなダンスホール・レゲエから泣かせる歌ものまでヴァリエティ豊かな音楽性を持つ。これは2006年のメジャー・デビュー以降の全シングルを収めたベスト盤で、大阪弁のノリを生かした気安く聴きやすい楽曲がズラリ揃った。

*「サクラサク」卒業シーズンを彩る、熱い友情を優しく描写した応援ソングで、季節感を満載したナンバーだ。

メンバー

メンバーは大阪府や兵庫県、長崎県など様々な地域の出身。

TENN (MC)

センコウ (MC)

BUCCI (MC)

イトキン (トラックメーカー・プロデューサー) リーダー

KLUTCH (MC)

DJ BOOBY (DJ)

コシバKEN（総合司会）

概要

1999年、イトキン、TENN、KLUTCHの3人で結成する。当初はバンドとして活動予定だったが、3人共がヴォーカルを希望した為ヒップホップグループとして活動。その後センコウ、BUCCI、DJ BOOBYが加入。

2003年頃にコシバKENが加入し、7人となった。

2006年、ユニバーサルよりメジャーデビュー。

2007年、『愛しい人へ』は、デジタル・ダウンロード件数100万件を突破した

この所、演歌・歌謡曲系の歌手が続いたせいも、昨夜は久し振りに鬼束を2時間ちかく聴いて、ポップスへの渴きを癒した。私がこの歌手を知ったのは、やはり「トリック」からだ、改めて15曲ばかり聴いてみて、当然ながら、ただならぬ実力を持つ方という印象である。とくにこの曲は、壮大なバラードでありながら、細かいディテールも違和感なく、かなり取り込んでいる。これによって、日常的な感情や出来事がうまく織り込まれ、リアリティーから恍惚へという、鬼束の必殺技が、宙へ飛ぶ。

(詞・曲 鬼束ちひろ)

言葉にならない夜は 貴方が上手に伝えて 絡み付いた 生温かいだけの蔦を 幻想だと伝えて 心を与えて 貴方の手作りでもいい-----

(ウィキペディアより)

鬼束ちひろ (おにつか ちひろ、1980～) は、日本の女性シンガーソングライター。宮崎県日南市出身。県立日南高校。

概要

家族構成は、父・母・弟・妹の5人家族であり、自身は長女。小学生の頃より部活で陸上を始める。中学時代は陸上部のキャプテンを務め、短距離400mリレー走選手として九州大会にも出場歴がある。プライベートでは、お笑いコンビのシャカを誕生日パーティーに招待するなど社交的な面がある。休日の過ごし方は「家でゴロゴロしたり一人で買い物したりする」。生活パターンは、昼夜逆転の生活を送っており、楽曲制作は専ら夜中(2～3時頃)に行っている。自身の性格に関しては「人見知りしない性格」と分析。また、所謂「熱しやすく冷めやすいタイプ」であり、例えば茶そばを3日間連続で食べ続けて飽きるなどのエピソードを公言。

*モットーは「やられたらやり返す」(コワ～)。好きな言葉は「疾風怒涛」(まじっすか?)。テレビ・ドラマ『TRICK』の主題歌「月光」で一躍脚光を浴びた彼女は、フェイヴァリット・ミュージシャンにポーラ・コール、キャロル・キング、ジョニ・ミッチェル、ジュエルなどを挙げる。自分の感情を躊躇なく晒し、怨念(?)のこもった歌声で、刃(やいば)のように鋭い言葉を聴く者の喉元に押し付ける。一見冷たい音世界に感じられるが、よく耳を傾ければ、そこには普遍的な慈愛が漂っていることに気づくだろう。その後01年にリリースした1stアルバム『インソムニア』が爆発的ヒットを記録し、一躍トップ・アーティストの仲間入り。その後、活動休止期間を経て、06年より小林武史プロデュースのもとレコーディングを開始。

*「帰り路をなくして」は、激動の時代を生きる力強さをダイナミックかつストレートに歌い遂げた、鬼束ならではの壮大なバラードとなっている。

*「僕等バラ色の日々」淡々と歌いながらも一瞬にしてガツンと扇情する鬼束らしいナンバー。「NOW」のピアノやチェロといったクラシックな音たちが生み出す臨場感に、ゾクゾク。

*「私とワルツを」哀愁漂うスロー・バラードだが、鬼束は決して激情にまかせて歌っていない。彼女の丁寧で繊細な歌声は、慈愛に満ちた詞の内容とあいまって、胸に染み入るような聴き心地。

趣味

好きなものは、小説は『星の王子さま』。漫画は古谷実の『行け!稲中卓球部』や井上雄彦の『SLAM DUNK』など。映画は『アメリカン・ビューティー』や、『バトル・ロワイアル』など。また、『もんしえん』、『ぐるりのこと。』では賞賛のコメントを寄せている。食べ物はマックやコーラ、梅干、チョコレート。コーラは常時ステージドリンク、梅干に関しては「白いご飯と梅干さえあれば大丈夫」とまで発言。お笑い好きでもあり、好きな芸人はシャカ、田上よしえ、ルート33など。特にシャカはお気に入り、出演した番組中でも「色々浮気をするけれど結局シャカに帰ってくる」と話しており、どちらかと言えば大熊啓誉（ボケ担当）の方が好き。好きな詩人には銀色夏生を挙げており、中学時代からのファンであり「モロに影響を受けた詞も書いていた」。好きな四字熟語に「疾風怒濤」を、単語に「虎」を挙げ、モットーに「（良い意味でも悪い意味でも）やられたらやり返す」を挙げている。

音楽性

必ず詞先で、曲作りを行う。これは鬼束が楽曲において歌詞を最重要視しているためであり、もし歌詞と曲がマッチしていない時でも、「詞の世界を壊したくない」「直感を大事にしたい」との理由で歌詞を変更することはいっさいなく、曲のほうを無理やり詞に合わせたり、曲のフレーズに詰め込む等の手法を用いる。曲作りは大抵夜中自宅の部屋の中で行い、思いついた歌詞を書き上げ（本人は「（歌詞が）降りてくる」と表現・説明することもある）、それに曲をつけるという方式が主である。

作詞を始めたのは小学4年生の時の夏休みの自由課題がきっかけ。現在の作詞スタイルを確立させたのは中学2年生の時、アラニス・モリセットの世界観に影響されてからで、その時の詞は上京する際にすべて焼却処分した。活動休止前の制作スタイルとしては感情をぶちまけるように歌詞を書くというのが主、活動再開後は「自分が他の歌手だったら」というように自分を客観的に見て歌詞を書いたり、映画の映像から見た印象をモチーフとして書く（「everyhome」は『フォレスト・ガンプ』、「Sweet Rosemary」は『ギルバート・グレイプ』、「bad trip」は『 Spanien』等）ようにもなっている。

歌う時は左手を上下運動させたり、身体でバランスを取る。気持ちがいい・解放感がある・バランスがとりやすいという理由から、裸足で歌うことが多い。裸足でのステージが印象深い故に、裸足の歌姫と形容。裸足で歌い始めるようになったのはシングル「月光」発売頃で、歌うときは腕時計やチョーカーなど身体を締め付けるものは着けない。これは束縛感を嫌うためであり、厚着もしない。本人いわく末端冷え性であるが、足はおろか一切の防寒対策はしない。本人にとってライブはファンとのコミュニケーションの場であり、ステージングや自身の歌唱において完璧さを求める。

楽曲については、ピアノを基盤としたアンプラグドやアコースティックな生音での楽曲が主体で、ストリングスが用いられる楽曲も多い。鬼束の圧倒的な個性が出発点で、それゆえに、ピアノと鬼束のボーカルだけのパフォーマンスが究極の帰着点。鬼束自身もアコースティックやカントリーな楽曲を好み、作曲もキーボードにて行っていることから、このスタイルを理想と考えていると思われる。

好きなアーティストは、アマンダ・マーシャル、メリッサ・エスリッジ、レネ・マーリン、ステ

レオフォニックス、グー・グー・ドールズ、ボン・ジョヴィ、トーリ・エイモス、Wink、岡村靖幸など。

変遷と活動休止

移籍の発端となったのは2003年に声帯結節を発症してからの活動の流れに違和感を覚えたことで、「いい日旅立ち・西へ」のあたりから周囲と波長が合わなくなってきた」「楽曲自体には問題はなかったが、周囲を信用できなくなってきた無理が生じた」と語った。

活動休止直後に大量服薬による自殺未遂を経験した。その後も2005年のストーカー被害事件（2005）もあり精神的に不安定な状態が続き、「休んでいる時はただ（精神的に）落ちているだけだった」「リスナーとしての自分は残っていたけど表現者としての自分がまったくなかった」と語っている。

経歴

幼少から、音楽好きの両親の影響で（特に母親の影響が強い）洋楽に触れる。小学2年生の時に友達に誘われてエレキギターを習い始め、中学3年生の時まで習い続ける。

中学時代に母親にカーペンターズを聴くよう勧められてから音楽に興味を持つ。高校2年生の時にジュエルのアルバム『心のかげら』によってその音楽と存在に衝撃を受け（後に自身はライブやテレビでジュエルの楽曲「Foolish Games」「You Were Meant For Me」をカバー）、その瞬間からシンガーソングライターを志す。17歳の時に、文化祭でエイズに関する劇をやった事に感化され、初めての楽曲「call」を作る。

学校の閉塞感や同調を強制させるシステムにもともと嫌悪感を抱いていた事や、歌手志望のために大学受験をする気がなかった事等から、高校3年生の頃は学校へはほとんど行かなかった。

1999年

3月 宮崎より上京し、作曲活動に入る（「We can go」、「月光」、「シャドウ」などはその当時に作られた）。

2000年

2月9日 シングル「シャイン」で東芝EMIよりデビュー。

2月10日 フジ系『めざましテレビ』でTSUTAYA渋谷店インストアライブの様子が放送され、テレビ初登場。

8月9日 2枚目のシングル「月光」発売。テレビ朝日系ドラマ『TRICK』の主題歌になり、ロングヒット。約60万枚のセールスを記録。

2001年

3月7日 初のアルバム『インソムニア』発売。約150万枚のセールスを記録。

2002年

2007年

5月、復帰作となる12枚目のシングル「everyhome」を発売。

2009年

3月、公式サイトで活動再開を発表。

2010年

4月、デビュー10周年を迎え、『ONE OF PILLARS 2000-2010』を発売。

シングル

- 1st 2000年2月 シャイン
- 2nd 2000 月光
- 3rd 2000 Cage
- 4th 2001 眩暈/edge
- 5th 2001 infection/LITTLE BEAT RIFLE
- 6th 2002 流星群
- 7th 2003 Sign
- 8th 2003 Beautiful Fighter
- 9th 2003 いい日旅立ち・西へ
- 10th 2003 私とワルツを
- 11th 2004 育つ雑草
- 12th 2007 everyhome
- 13th 2007 僕等 バラ色の日々
- 14th 2008 蛍
- 15th 2009 X/ラストメロディー
- 16th 2009 帰り路をなくして
- 17th 2009 陽炎

華の平成名歌200 第 : ÜSKÜDAR'A GİDERİKEN / ウスクダラ おおたか静流

原曲はトルコの伝統曲で、日本では昭和30年頃（1954発売）に中ヒットした、江利チエミの唄で、かなり有名な曲。勿論、この曲はPVも含めて、おおたかが現代の視点から解釈しなおし、再構成したもので、新しいエキゾティシズムを作り出すのに成功している。特有の、抑揚をセーブしたような調子と、トルコ音楽をベースに、日本的なほのかな哀愁や倦怠、恋の誘惑などを融合させた、ハイブリッドなりテラシー・アンニュイ。

ウスクダラ 夜毎に花開く 夢ちりばめた 恋の都 千夜の思いを 抱きしめて あなた 私
の色に染まる ウスクダラ 西から陽がのぼり 東の男を誘い出す 闇のはざまに 細く長く
あなた 危ない橋を渡る----

（収集プロフィール）

おおたか静流（おおたかしずる、1953～ ）は東京都出身のミュージシャンである。武蔵大学人文学部卒業。7歳よりクラシックを習い始め、大学在学中に音楽活動を開始。その後民族音楽（日本の伝統音楽・西洋の伝統的声楽）・ジャズ・ワールドミュージックなどノンジャンルの独自の音楽性を追求。

1989年に加藤みちあきとのユニット「dido」（ディド）でデビュー。ソロ歌手としては1990年イチクよりデビュー。

シングル

花～すべての人の心に花を～（1990年11月）- AXIACMソング

悲しくてやりきれない（1992）- 映画「シコふんじゃった。」挿入歌・エンディングテーマ、ザ・フォーク・クルセダーズのカバー

あなたの時代が来た（1992）- 野村證券CMソング

水の恋唄（1995）- NHK時代劇「とおoryんせ～深川人情濡通り」テーマ曲

夏の空に（1996）- JRA'96「夏競馬」CMソング、c/w:「SAJA DREAM」は映画「鉄塔 武蔵野線」主題歌

ひがらがさ（1997）- NOVA/簡易保険CMソング

夏のページ（1998）- 映画「ズッコケ3人組」主題歌

The Water of Life（1999）- キリンビバレッジ「Supli」CMソング

葉広の里/ほたる - （滋賀県山東町イメージソング）

アルバム 中期まで略

Sugar Land（2006）

Serenade（2008）

この昼ドラを、私はたまに見ていた。山口百恵が何本も主演した、大映ドラマのような、ドロドロかつジェット・コースターのような展開のドラマ。主に湖畔の豪華な別荘を舞台に、現実ではあり得ないような、古臭くギシギシとした男女の愛憎劇で、それなりに面白かった。オープニングに流れる、この初めて聴く歌声は、物憂く倦怠に満ち、だるくどことなく不気味で、底知れぬ恐怖を感じさせた。今回、7、8曲聴いてみて、すごい才能だと感じる。大物になるより、いい作品を作り続けて行って欲しい。名声やエピソードがいくらあっても、最後に残るのは、作品だけなのだから。

もう見逃して 真実なんて この手で捨てたの いらないの 窓の外から 紅蓮の瞳 何かをつぶやく 生ぬるい-----

(収集プロフィール)

柴田淳（しばた じゅん、1976年11月-）は、女性シンガーソングライター。東京都世田谷区出身。多摩大学経営情報学部卒。

*東京育ち。幼少の頃より両親の影響でクラシック英才教育を受けてきた彼女だが、高校生のとき、シング・ライク・トーキングの「離れずに暖めて」を聴いたのがきっかけでポップ・ミュージックに傾倒。洗練されたサウンド・プロダクツに、思わず口ずさみたくなるようなメロディ・ライン。クラシック音楽では、けっして味わうことのできない興奮に襲われたようだ。

01年10月に＜ドリーミュージック＞第1号アーティストとしてデビュー。シングル「ぼくの味方」をリリース。02年3月に発売した1stアルバム『オールトの雲』は、彼女が持つ世界観と秘められたポテンシャルの一部を世に放つ作品。03年1月には、CHEMISTRYが発表した2ndアルバム『Second to None』収録の「月夜」に歌詞を提供、作家としても活動をスタートする。

03年2月には、「片思い」「隣の部屋」など日常の出来事をリアルに描いた2ndアルバム『ため息』をリリース。

06年4月には「花吹雪」を発表し、07年2月には、ポップス・ロック・ジャズ・テイストから純和風な楽曲までバラエティに富んだ内容に仕上がった5thアルバム『月夜の雨』をドロップ。

メジャー・デビュー以来、定期的に日記を更新。文章のボリュームと面白さから“ブログの歌姫”という異名。

*ゴーストライター 个性的かつ色彩感にあふれるポップな音楽を得意とする。本人が“今の私そのもの”と語る本作には、繊細で芯のある歌声と歌詞が。

*愛をする人 映画『おろち』の主題歌。映画のテーマを活かしつつ、普遍性を持たせた深い一曲。美しいメロディとストレートな歌詞、そして透明でありながら情念に濡れた歌声が最大の武器。

*カラフル 優雅に奏でられるストリングスに、歌う喜びに包まれたような華やかで伸び伸びとしたヴォーカルが絡む。柴田淳の歌声は、シングルに耳を傾けるだけで、光にあふれ、ほろ苦さに味付けされた世界を描き出す。

*しば裏 2001年のデビュー「ぼくの味方」以来少しも変わらない透明感ある歌声と特徴的なメロディ、繊細な歌詞の魅力で独自の世界観を創りあげている。

*月夜の雨 シリアス、ユーモラス、エキセントリックと、彼女の多様な内面が鮮やかに作品化。自身が描き出す登場人物にどっぷりと憑依し、歌声の表情・重みを巧みに操作。言霊使いとしての才覚も全開。

*紅蓮の月 ピアノ中心のアコースティック・サウンドをバックに端正なメロディを歌い上げるヴォーカルは生真面目でピュアな印象。

*花吹雪 印象的なメロディに自分自身を投影できるちょっと切ない歌詞、そして独特の透明感ある歌声で人々を魅了する。本作は、出会いや別れなど人生の節目の季節である春にふさわしい内容。

*幻 昼ドラマ『危険な関係』の主題歌。ピアノに乗せた透明感と耽美な雰囲気漂うバラード。

*ひとり もっと声を張りたいたいところの少し手前で、抑え気味に唄っているところが逆にドラマ性を高めて聴き手への浸透圧を強めている。粘っこさと乾いた味の微妙なバランスが、最大の魅力。

*未成年 曲調はオーソドックスな作品然としており、メロディもストレート。しかし、少年犯罪や幼児虐待の横行する日本の現状に目をやる歌詞のメッセージ性は強い。

*月光浴 歌い手にとって、一番大切な“声と心”を持っている人と感じさせられる作品だ。余計な飾りは必要ない。むしろ、装飾品を極限まで削り落とした後の潔さと力強さ、穏やかな喜びに満ちあふれている。この作品が、柴田の原点。

*オールドの雲 なんといっても印象に残るのは声で、乾いているような湿っているような、不思議な感覚がある。総体的に内省的な感じを与えるが、淡々と情景を描写している。

*それでも来た道 ものすごく寂しい歌をものすごく寂しげに唄っている。なのに、この歌は前に進んでいる。たどたどしい足取りで。古典的だけど、古びない力がある。

*ぼくの味方 聴き手の年齢や時代を問わない楽曲の普遍性、聴く人の心を素直に包むヴォーカル、ありそうでなかなか出会えない自然な声、本来の意味での柔らかなポップスを聴かせる。

人物

積極的なインターネット活動から、ブログの歌姫、失恋を綴った曲を多数発表していることから「失恋ソングの女王」等とも呼ばれる。

家族構成は両親と姉の4人家族。父親は東京都出身、母親は北海道中標津町出身であることから、自らを「道産子ハーフ」と自称。

芸能関係では俳優の小栗旬や生田斗真、女優の遠藤久美子、音楽関係では歌手の中島美嘉や石嶺聡子、コブクロ等とも親交がある。

最も影響を受けたSing Like Talkingや塩谷哲の他に、スガシカオ、山下達郎等を挙げている。自身の目標を「スガシカオの女版になること」と語っており、また山下達郎に関しては、「シンガーソングライターの神様」と呼び尊敬。洋楽にも影響を受けており、好きなアーティストとしてメタリカ、レッド・ホット・チリ・ペッパーズ、モトリー・クルー等を挙げている。

略歴

報道カメラマンの父と保育士の母のもと、2人姉妹の次女として東京都に生まれる。

両親の意向で、3歳からピアノを始める。ピアノ教室で本格的な英才レッスンを積むも、小学校4年生の時に辞める。高校時代に音楽に目覚め、自らの意思で再びピアノのレッスンを受け出す。この頃から、特にSing Like Talkingの「離れずに暖めて」を聴いて衝撃を受けるなど、ポップスに傾倒するようになる。その後、塩谷哲の「LIFE WITH YOU」のピアノ演奏に影響され、歌手を志す。

多摩大学進学後、20歳を迎えたのを機に（親の承諾なしで履歴書が出せるようになったため）プロの歌手を目指し、数々のボーカルオーディションを受けるも、合格できない日々を送る。そのため、当時まだ面識の無かった塩谷に手紙を送りアドバイスを求めたところ、「君は一生懸命上手に歌おうとしているが、音楽とはただ上手に歌えば感動するものではない」という旨の返事をもらい、これを機に作曲を独学で始めるようになる。その後楽曲制作を行うようになるが、1曲を書き上げるのに1年近くの時間を要したという。

1999年

JUN名義でソロ活動を行う。この頃、ふとしたはずみで演歌の歌手オーディションに出場し、グランプリを受賞する。デビューに向けて話が進められるも、演歌歌手として活動していくことに納得できなかった柴田本人が異を唱え、話を白紙に戻す。

2000年

1月、NACK5『MUSIC CHALLENGER』に柴田ぢゅん名義「月光浴」でエントリー。グランプリは逃すも、番組の選定する優秀曲として取り上げられ、デビューのきっかけをつかむ。

2001年

6月、Tokiola Recordsよりじゅん名義で、「ぼくの味方」を発表。

10月31日、ドリーミュージック所属第1号アーティストとして、シングル「ぼくの味方」でメジャーデビュー。

2002年

3枚のシングルと1枚のアルバムを発表。

6月、NHK総合『ポップジャム』で地上波全国ネットの歌番組に初出演。

2003年

2枚目のオリジナルアルバム『ため息』は、オリコンチャートに21週ランクインするロングヒットとなった。

2004年

この年から2005年にかけて、音楽活動や作品発表が思うように進まず、メンタルヘルスに関する話題が多くなる。特に、アルバム『ひとり』発表からシングル「ちいさなぼくへ」の発表までの10ヶ月間は事実上の音楽活動休止状態となったため、引きこもりになっていたことを多方面で告白した。また、精神的に脆弱であった当時を振り返って「引退を余儀なくされそうになった」「デビュー前以来、2度目の挫折」とも発言。

2005年

初めてニュース番組やドキュメンタリー番組においてナレーターに挑戦した年。

2006年

移籍後初の作品発表となった12枚目のシングル「花吹雪」は、オリコンチャートトップ10入りを

記録した。

7月発売のシングル「紅蓮の月」が、東海テレビ制作昼ドラマ枠の主題歌に起用される。

2008年

インターネットラジオの放送を開始したり、新たなブログを開設したりと、インターネット上での活動にも力を入れた年であった。

2009年

前年に出演した塩谷哲主催のコンサートイベント『Saltish Night vol.XII』の出演によって挫折を味わい、引退を考えるほどのスランプに陥った。

音楽活動

代表曲として「月光浴」や、オリコンチャート5位を記録した「HIROMI」（2007年）など。

楽曲制作

楽曲にはピアノ・ストリングス・アコースティックギター等が頻繁に使用される。発表する楽曲の多くがバラードであり、テンポの速いものでも「カラフル」程度のミディアムテンポ。

作詞はパソコンや携帯電話を使用して行う。過去にはメモ帳を使用して歌詞を書くこともあり、「ため息」（2003年）はメモ帳に書かれた歌詞をもとにして制作された。楽曲制作は作曲が先行で、後に歌詞を付ける手法。楽曲のテーマは予め決めて制作することはなく、作詞中に自分の経験や心情を反映させる。

世界観

自らが経験してきた過去の経験が基となっている。「癒し系」に対して「しみる系」と雑誌メディア等で形容された。自らを失恋経験が豊富であると語り、特に「片思い」は自身の実体験、「HIROMI」は友人の実体験をそれぞれ基にしていると公言。また、実体験以外にも、「小鳥と風」等は、自身から独立した人物や事象に関して歌詞を書いている。

また、人生観や存在意義をテーマとした内向的な歌詞の楽曲も多く発表。アルバム『わたし』発表時期の楽曲は、当時の精神状態が如実に反映され、自身の存在意義を問うものが顕著に表されている。また、「もうふのなか」（2007年）の歌詞は、学生時代の人間関係を回顧して歌詞を書いたと公言。小学生時代にクラスで孤立し、高校生時代には所属していたバドミントン部でいじめにあった等の背景があり、これらの出来事が直に反映。

シングル（インディーズ）

ぼくの味方（2001年6月）

シングル

1st 2001年10月 ぼくの味方

2nd 2002年2月 それでも来た道

3rd 2002 月光浴

4th 2002 片思い

5th 2003 隣の部屋

6th 2003 ため息/夢

7th 2003 あなたとの日々

8th 2004 未成年

9th 2004 ちいさなぼくへ

10th 2005 白い世界

11th 2005 幻/おかえりなさい。

12th 2006 花吹雪

13th 2006 紅蓮の月

14th 2007 HIROMI

15th 2007 カラフル

16th 2008 ふたり

17th 2008 愛をする人 - Orochi's Theme

18th 2009 Love Letter

言葉遊びのような、羅列が楽しい。こういった、ストーリーが希薄で、無内容な曲は、昔からときどき発表されるが、ナンセンス・ソングというのだろうか。聴いていると、意味は無いが、楽しく元気が出てくる。

*ELOに影響された、きらめくような曲調と不可解な(ナンセンス、無内容)歌詞を持つこの曲は極めて高い音楽性と普遍性、何より気さくなユーモアを備えており、それをジーンズにTシャツ姿のパフィーが「自然体」「脱力系」等と評された、力みのない、しかし計算されたパフォーマンスで表現した。これは、当時Jポップシーンを席卷していた小室ファミリーの緊張感や露骨な向上心の対極に位置するものであり、わずかな市場の隙間かと思われたそのニッチは実はかなり大きなものであった。“小室系”に馴染めない、あるいは飽き足りないリスナーによる支持が生んだ『アジアの純真』のミリオン・ヒットという形で示された。

(詞・井上陽水 曲・奥田民生)

北京 ベルリン ダブリン リベリア 東になって 輪になって イラン アフガン 聴かせて
バラライカ 美人 アリラン ガムラン-----

(収集プロフィール)

PUFFY 大貫亜美、吉村由美の2人から成る女性歌手コンビ。

「パフィー声」と称される、ふたりの声が渾然一体となった独特のユニゾン唱法を用いるのが特徴。CD上でのハーモニーは、実際にはその多くで2人がユニゾンで歌うハーモニー・パートを多重録音しており、2人がそれぞれ違うパートを歌うデュオとは異なる。当初は奥田民生プロデュースによる一曲限りのユニットの予定であった。

*そのイージー・ゴーイングぶりがたっぷりの脱力感をさらに増長。アジアやアメリカなどにおける注目度の高さから見ても、彼女たちから得られる奇妙な心の弛緩は、万国共通に欲されているものだという気がする。まるで一卵双生児のようなヴィジュアルもインパクト強い。

*「日和姫」椎名林檎が作詞・作曲を手がけたポップかつエッジなナンバー。アニメ『源氏物語千年紀 Genji』のオープニングに起用。

*「マイストーリー」PUFFYの2008のシングル。作曲をスウェーデンのアーティスト、The Merrymakersが手がけたナンバーで、疾走感たっぷり。

現在

2005年、EPICからKi/oonレーベルへ移籍。これはソニーM.E内の配置転換である。また、この年「Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライブ」に出演し、ビートルズの「エブリボディーズ・ゴット」などを歌った。

2006年1月、米国での活躍を認められ、日本へ1000万人の外国人旅行者をと言う『ビジット・ジャパン』の米国に於ける観光親善大使に、国土交通大臣より任命された。6月にアルバム『Splurge』を発表し、兵庫慎司の全曲解説が。このアルバムでは、PUFFY自身ソロ名義も含めて6曲を作詞している。同年結成10周年を迎えた。曰く「こんなに続くとは思わなかった」。

『Splurge』以降の音楽性は、嘗ての様に複数の作曲者から作品の提供を受けるといった傾向に戻っている。

2008年には、アヴリル・ラヴィーンとの東京ドーム公演にゲストとしてライブ出演。シンディ・ローパーやSNUFFのトリビュート盤に参加。2009年7月、アルバム「Bring it!」でフランスデビューを果たし、パリで行われたJapan Expoにてライブ参加。

作品（初期 略）

19th 2005年11月 Hi Hi 作詞：PUFFY・作曲：アンディ・スターマー

20th 2006 モグラライク 作詞・作曲・編曲：奥田民生

21st 2006 Tokyo I'm On My Way 作詞・作曲：デクスター・ホーランド

22nd 2006 働く男 作詞・作曲：奥田民生

23rd 2007 Boom boom beat/お江戸流れ星IV 作詞：PUFFY・編曲・作曲：アンダース・ヘルグレン、デビッド・マイアー

24th 2007 オリエンタル・ダイヤモンド/くちびるモーション 作詞：井上陽水・作曲・編曲：奥田民生

25th 2008 All Because Of You 作詞・作曲：ブッチ・ウォーカー、アヴリル・ラヴィーン 最高位34位

26th 2008 マイストーリー 作詞：PUFFY・作曲・編曲：アンダース・ヘルグレン、デビッド・マイアー

27th 2009 日和姫 作詞・作曲：椎名林檎 最高位38位

28th 2009 誰かが

東京タワーを、真正面から捉えた曲というのは、全ジャンルで探しても、あまり無い。その意味で、面白い曲だ。角松の、明るく楽しい面の曲なのだろうが。私の年代だと、彼等のような曲は、心地よいBGMのように一過性で終わるが、角松の作品は強い魅力があり、また聴いてみたい、という気になる。つまり、高いアーティスト性を持ち、その奥行きが深い作品群、ということだ。

真夜中ゆさぶる 気まぐれの君のcall 今さらだけど 僕もこらえきれない Oh shine 浮かびあがる街を 見下ろしながら-----

(収集プロフィール)

角松 敏生（かどまつ としき、1960～ ）は、東京都出身のミュージシャン、音楽プロデューサー。

*アーバン・ポップ・ミュージック界の大御所。昨今の状況を考えるに、彼はその先駆者的存在。81年にシングル「ヨコハマ・トワイライト・タイム」、アルバム『Sea Breeze』の同時発表でデビュー。都会的な雰囲気、漂う爽快なサウンド、酸いも甘いもかみわけた大人のラヴ・アフェアーがテーマの詞世界で、和製AORの第一人者となる。その後もコンスタントに良質な作品を発表、OLを中心にカリスマ的人気を誇るまでになった。93年の衝撃的な活動凍結までに、計13枚のハイ・クオリティなアルバムを発表。

98年には、活動を再開。翌年発表のアルバム『タイム・トンネル』は、角松流コンテンポラリー・ポップ・サウンドが全面にフィーチャーされた快心作。

デビュー

日本大学文理学部哲学科在学中に、ギタリストとして作成したテープがきっかけで、ボーカリストとして1981年にシングル「YOKOHAMA Twilight Time」ならびにアルバム『SEA BREEZE』でデビュー。

凍結宣言

デビュー当初のスタイルは当時流行していた大瀧詠一・山下達郎直系のリゾート・ポップスであったが、その後渡米し、NYファンク／ヒップホップをリアルタイムで取り入れた独自のダンスミュージックへと発展。

しかし、1990年代初頭の作品から徐々に内省的な作品が増え、インタビューでも思想的・哲学的な内容が多くなっていった。そして自身の音楽に対する絶望感を訴え、1993年をもって歌手としての活動の「凍結」を宣言し、休止。

休止中はベスト版のリテイク&リマスタリング作業をはじめに、ビデオ音楽の担当、作曲・プロデュース活動、新人ボーカリスト発掘のレーベル「vocaland」の立ち上げ等の活動を行う。そのほか、長万部太郎名義で活動したユニットAGHARTA（アガルタ）が1997年に発表した「ILE AIYE～WAになっておどろう～」はNHKみんなのうたにて放送され、翌年には長野オリンピックのテーマ曲として使用された。閉会式ではAGHARTA（アガルタ）としてライブ演奏を行い、世界へ配信放送された。

解凍

そして、1998年に5年間のブランクを経て「解凍」を宣言、自身の歌手としての活動を再開。その後はほぼ年に1作のペースで新作をリリース。また、沖縄音楽やアイヌの民族楽器トンコリを取り入れるなど、民族音楽との「音楽的交易」にも取り組んでいる。

プロデューサー活動

杏里の「悲しみが止まらない」（プロデュース・アレンジを担当。作曲と共同アレンジは林哲司）のスマッシュ・ヒットを皮切りに、中山美穂、ジャドーズらをプロデュース。その他にも岩崎宏美、ジャッキーチェン、西城秀樹のプロデュースなど、積極的な活動を行っている。

エピソード

好きなギタリストは？と聞かれたらはっぴいえんどの鈴木茂さんってことになりますかね？と語っている。

*19歳の時に、当時年上の彼女と別れ、心を痛めていた友人の為に作った曲「Still I'm In Love With You」を聴いたトライアングルプロ社長の藤田浩一の誘いでデビュー。

*翌年にはロサンゼルス録音を行ったが、自分の力量がついていないもどかしさや、意見が通らない事に憤りを感じる。

デビュー前・影響を受けた楽曲

Raindrops Keep Fallin' On My Head（雨にぬれても）＜B. J. Thomas＞

洋楽ポップスとの出会いは幼稚園時代。その当時、自身から心惹かれた初めての曲である。自身の音楽の基本のR&Bやジャズを咀嚼してオリジナリティーのあるものを作るという、バカラック的なアプローチも含まれコード展開や転調のしかたとかも参考にしたと語っている。

Hey Jude ＜The Beatles＞

小学4年生当時、テレビドラマか何かの主題歌でオーケストラ版の「Hey Jude」を聴いてすごく気に入り、兄からビートルズの曲だと教わりシングル盤を購入。それを聞いてさらに衝撃を受け小学5年生からギターを始め、当時はビートルズのコピーばかりをしていた。

今日はなんだか＜シュガー・ベイブ＞

シュガー・ベイブの『SONGS』（1975）っていうアルバムは擦り切れるほど聴き、当時思春期の自分と相まって、いろんな風景が浮かぶと語っている。

プールサイド＜南佳孝＞

1978年のアルバム「SOUTH OF THE BORDER」収録。角松自身、南佳孝こそシティーポップと呼ばれた最初期のアーティストだと語っている。詞の世界が大人であり、当時高校生だった自分には絶対手の届かない世界だと思った。音の世界観と詞の世界観は、思春期の自身を早く大人にさせたと言っている。

*Tokyo Tower 1998

*INCARNATIO デビュー21年目のこの作品で、日本人の精神性の原点を見詰め、日本人としてのアイデンティティを表現しうるポップスを追究しようとしている。未踏の領域への第一歩を踏みだした充実作。

*君のためにできること しなやかなメロディに乗せて、普遍的な愛を力強く歌い上げたラブ・ソング。“勇気という言葉”を信じ過ぎないようにと、大人の分別をにじませた歌詞が、じわっと染

み込んでくる。「Last Flight」は、空港を舞台にAORサウンドでまとめた80年代感覚あふれる作。
*強烈な色があるわけではないのに、存在をシッカリと示す角松サウンドはJ-POPの源である
シティ・ミュージックの嫡流。神経の行き届いた曲づくり・音づくりで今回も高品質のポップス
を提供。

*前期の特徴だったNYファンク／パンク風のサウンドと内省的な内容をかいまみせながら、明
るさを取り戻した“凍結”解除後の力強さも十分に楽しめる内容。

主な曲

YOKOHAMA Twilight Time(1981)

FRIDAY TO SUNDAY(1982)

スカイ・ハイ(Take You To The SKy Hight)(1983)

Heart Dancing (あいらびゅ音頭) (1984)

Girl in The Box～22時までの君は...(1984)

TOKYO TOWER(1985)

No End Summer(1985)

初恋(1985)

THE BEST OF LOVE(1986)

ドアの向こう～SAYONARA T(1986)

This Is My Truth～Shinin' Star(1987)

SEA LINE(1987)

もう一度...and then(1988)

OKINAWA(1989)

GALAXY GIRL

この駅から...(1991)

サンタが泣いた日(1991)

DESIRE

THE LOST LOVE(1992)

夜をこえて(1992)

君を二度とはなさない(1992)

君たちへ...～BONとYUKARIのBALLAD～(1992)

Realize(1998) ※解凍第一弾

Unforgettable(1998)

You're My Only Shinin' Star(1999)

愛と修羅(2000)

心配/YOKOHAMA TWILIGHT TIME(2001)

Always Be With You(2002)

もどり道 with ANNA

君のためにできること(2003)

これからもずっと(version 2003)

Startin'月のように星のように(2004)

Smile (角松敏生 with 千秋 2006)

青い水から

めざす方向や、声質も作り出す世界も、やはり大塚博堂に近いテイストのある歌手である。実際に、博堂の曲をかなりカバーしている。ただ、原に、博堂や永井龍雲、鈴木一平のような頑固な一途さが薄い分、より広い歌の世界への柔軟性があるようだ。それが歌い手にとって、いい事なのかどうかは即断はできないが。「日暮れたら」などの歌謡曲に近い歌を唄っても、十分な聞きごたえがある。「みぞれ雨」「さよならを言わせて」のようなバラード風の曲が、声質に合っているようだ。この曲は、伴奏がエキセントリックで面白く、歌としてもかなり深いものがある佳曲である。

(詞・鈴木綾乃 曲・堀江童子)

感じる心 捨ててしまえたら どんなに楽に なれるでしょう 離れていった 心の透き間
溢れる涙が 押し寄せる 時間が流れても 何にも変わらぬ 子供のままで いさせてください--
--

(収集プロフィール)

原大輔(はら だいすけ、1954～)は、千葉県八日市場市出身の歌手。1976年フォークデュオ、レイラとしてデビュー。その後、江夏一樹、高梨雅樹と芸名を変える。高梨雅樹の時代に、テレビアニメ「新竹取物語 1000年女王」主題歌「コスモスドリーム」を歌う。

1983年、原大輔と名を変えて、「秋冬」(中山丈二の遺作、7名による競作)をリリース。その後は、中山の友人である作曲家の堀江童子とともに仕事をしていた。また、レイラ時代にジョイントライブをした関係で、大塚博堂にも造詣が深く、13回忌追悼歌「総天然色の日々」も歌ったり、メモリアルイベントに出演することも多い。

*「原大輔全曲集」大人の歌謡曲。原はその大人の鑑賞に耐え得るだけの歌唱力をきちんと備えている。感情の抑制がほどよく効いて、とくに、ピアノシモでの語りかけるようなテクニックは素晴らしい。歌詞の読みも深く、それだけ表情が細かく豊かになっている。

*都会暮らしの寂しい心情を歌った作品が揃った全曲集。大塚博堂や谷村新司のような似たタイプの人のカバーまで、選び抜かれた楽曲。美声とていねいな歌い方は好感がもてる。

*「恋おんな」彼のヴェルベット・ヴォイスと歌唱力が堪能できる、女心を切々と歌った哀愁ソング。

江夏一樹

熱くなれ～ヴー・レー・ヴー～ (ABBA「VOULEZ-VOUS」のカバー)

遠い明日 (映画「遠い明日」主題歌)

高梨雅樹

コスモスドリーム

空から星が降りてくる (子鹿物語)

原大輔

シングル

秋冬/恋唄遊び

恋暮色

流されて

終止符

どうぞお元気で/輝きを共に連れて

戯れに/黄昏

晩秋

つらいけど

めぐり逢い紡いで

TIMELESS LOVE～時を超えて～

わが妻よ/総天然色の日々

はじめて都会に来た日のように

すすきの午前0時

恋おんな

みぞれ雨

ナイトパブ

明日に向かって/お願いこのまま（原大輔&ハローブラザーズ）

ジグソーパズルの絵のように

お酒ください/北の町札幌に雪が舞う

Last Fright～with My Dream～

夢見る頃を過ぎても（with岡本侑子）

秋韻

男と女の部屋/望郷

アルバム

秋冬

恋暮色

つらいけど

旅のはじまり

あの日々に帰りたい

あまり知らない方だったが、ユーチューブ等で10曲ばかり聴いてみた。特に歌唱力があるというタイプではないが、なかなか上手い。その素朴で素直、ヒューマンな世界はとても良い。現代人の多くが、無意識のうちに求めているものだ。「誰泣け」に出て、名が広まったというが、無理なプロモーションをしなくても、大きくなれる実力がある。あせらずに、じっくりと、自己の世界を広げて行って欲しい。

(詞・曲 hanako oku)

終電後の誰もいない道に 二人の悲しげな一つの影 もう二度と---不思議だね どうして人はすぐに 守れない約束をするのだろう 人の心を繋ぎ止めるものなど どこにもないと----

(収集プロフィール)

奥華子(おくはなこ、1978～)は、日本のシンガーソングライター・作曲家である。千葉県船橋市出身。東邦音楽大学トランペット専攻卒業。

*ギターやピアノの弾き語りミュージシャンは多数存在するが、「キーボード弾き語りシンガー・ソングライター」というのはなかなか珍しい。人は、奥華子をそう呼ぶ。

*混じり気ない詞世界を、それ以上に混じり気ない特徴的歌声でまっすぐに歌い上げている。

千葉県船橋市出身の彼女は、東邦音楽大学トランペット専攻卒業という経歴。同県柏市でのキーボード弾き語りスタイルによる路上ライブで注目を集め、05年にシングル「やさしい花」でメジャー・デビュー。デビュー前の04年に、作曲&声の出演をしたCM『TEPCOひかり』(井川遥出演)でも人々の注目を集めたが、やはり彼女の歌手としての存在度を飛躍的に高めたのは、06年公開の大ヒット・アニメーション映画『時をかける少女』主題歌「ガーネット」及び挿入歌「変わらないもの」だろう。赤いメガネ、ジャージが彼女のルックス上のトレード・マークだが、女性の恋愛感情の機微をストレートに描いた歌詞世界、そして素直で優しい歌唱も、彼女のキュートな音楽性を彩る大切なトレード・マークである。

*路上ライブを始めてわずか1年でCD2万枚を手売りしたという。恋心の歌を中心に、あの日の思い出、何のために生きているの、友達とは、など驚くほど素直を感性で歌い上げている。

*まっすぐ、どこまでもまっすぐと伸びていく歌声が印象的。その声に合わせるかのように、歌詞もメロディも屈託なくストレートに綴られている。ふと俯いてしまったときに、すっと手を差し伸べてくれそう。

*ゆったりとしたサウンドが心地よく、人を好きになったことによって自分のことも好きになれたという詞が非常に印象に残る。

*どこか懐かしく、素朴で素直なメロディ、歌声。別れのラブ・ソングでありつつ、これが終わりではなくいつか花咲く日が来ることを願う切ない恋歌。ストリングスやホーンや多彩な音の中。

人物

地元である千葉県船橋市近隣の津田沼(習志野市)や柏市を拠点(後述参照)に、キーボードの弾き語りスタイルで路上ライブを行い、注目を集める。また、多数のCMソングを制作・歌唱している。2004年に井川遥出演『TEPCOひかり』のCMソングを担当したことで世間に広く知られる

ようになった。

2005年7月27日にシングル『やさしい花』でポニーキャニオンよりメジャーデビュー。ニッポン放送系の深夜番組『オールナイトニッポン』のジングル（2005年 - ）を担当している他、劇場版アニメーション映画『時をかける少女』の主題歌「ガーネット」はロングセラーとなった。

大学の専攻はトランペットであるが、トランペット奏者としての活動も、楽曲での使用も特にない。大好物は中華料理。また、うどん・ちゃんぽん・ラーメン・つけ麺など、無類の麺好きでもある。

路上ライブ

インディーズ時代からメジャーデビュー後の現在まで精力的に路上ライブを続けている。首都圏以外に遠征する際も路上ライブを行うことが多い。

インディーズ時代、テレビ東京系『出没!アド街ック天国』の柏編放送回で一番人気のストリートミュージシャンとして取り上げられた。路上ライブを始めてわずか1年間で2万枚の自主制作CDを手売りした。

路上ライブでの多くの出会いを奥は大切にしており、その想いは楽曲「笑って笑って」（インディーズアルバム『vol.best』収録）に。

ファッション

赤いメガネがトレードマークであるが、アンジェラ・アキ同様伊達眼鏡である。これはお客さんに身近でポップな印象を与えると考えたため、人前に出るときは必ずかけるという。路上ライブを始めた当時は、知り合いと遭遇したら恥ずかしいという思いから、奥なりの変装であったそう。過去にはライブでもメガネ無しの時もあった。またbay fmの公開生放送では赤眼鏡を車に置き忘れ、代わりに間違えて持ってきた黒メガネを掛けて歌ったこともある。

また、夏場の暑い日以外はジャージを着てライブを行っており、その所有数は現在50着程であるという。

略歴

1983 - 5歳からピアノを始める。

1987 - 9歳からトランペットを始める。

1996 - YAMAHA TEENS MUSIC FES'96 千葉ブロック大会に出場（ピアノ弾き語り）

1996 - 最初の曲「片想い」完成。

1998夏 - 都内のライブハウスで歌い始める。

2000.2月 - インディーズ盤ミニアルバム「愛のしずく」発売。（1000枚限定生産）

2004.2月 - 初めての路上ライブを渋谷で行う。

2004.7月 - （有）pirisound設立と同時に所属。

2004.8月 - 商用流通網にて初めてリリースされたインディーズ盤シングル「花火」発売。（2000枚限定生産）

2004年10月 - TEPCOひかりのCM曲に起用される。

2006 - 奥華子公式HPが100万アクセス突破。

2008 - 東海大学（湘南キャンパス）の建学祭に来訪。

2009 - 白百合女子大学の白百合祭に来訪。

主要イベント

デビュー前

2004年

2月16日 - 初めての路上ライブ（渋谷）

9月5日 - 初ワンマンライブ（南青山MANDALA）

12月6日 - クラブイクスピアリワンマンライブ

デビュー後

2005年

5月13日 - 「奥華子 ワンマンフリーライブ in 大阪野音」（大阪城音楽堂）

2008年

4月19日 - 2回目の全国ツアー「奥華子CONCERT TOUR '08 ～2nd Letter～」（全国22カ所）

2009年

8月7日 - 「100年に1度の奥華子まつり!」（津田沼公園広場）

2010年

2月13日 - 「バレンタインライブ」（ゲートシティ大崎）入場無料

7月19日 - 「奥華子デビュー5周年ありがとう!! 帰ってきたよ! 大阪城野音」（大阪城野外音楽堂）

作品

インディーズ盤

愛のしずく 2000年2月8日 LSR-102 完売、限定1000枚

弾き語り 2001年3月14日 NS-0001 完売、生産終了

サンタに願いを 2001年12月23日 - 24日 港北モザイクモールにて。非売品

愛のしずく 2002 原宿GIGZOOにて。非売品

自主制作 奥華子vol.1 2004年2月 ライブ会場にて販売

自主制作 奥華子vol.2 2004 GUREM-0002 ライブ会場にて販売

花火 2004年8月26日 PICH-8750 2000枚限定生産、販売終了

サンタに願いを 2004 ファン主催の催しにて。非売品

自主制作 奥華子vol.3 初回限定盤 ライブ会場にて販売

自主制作 奥華子vol.3 2004 ライブ会場にて販売

自主制作 奥華子vol.4 2005 ライブ会場にて販売

シングル

1st やさしい花 2005年7月

2nd 魔法の人 2006

3rd 恋つぼみ 2006

4th ガーネット 2006

5th 小さな星 2006

6th 手紙 2008

7th 明日咲く花 2008

8th あなたに好きと言われたい 2008

9th 笑って笑って 2009

10th 初恋 2010

流しの歌手達を調べていたら、偶然ひっかかったグループ。お涙頂戴が嫌味だけど「誰泣け」に取り上げられて、名が出たらしい。仲山は、唄はまあまあだが、パリッとした二枚目半の容姿と、高めで柔らかな声がいい。大学卒業後に勤めた会社が事業所閉鎖してリストラされ、その体験をもとに曲を作ったのだという。不況に苦しむサラリーマンの応援歌として、時流に乗ったと評されている。まあ、スタッフ達の作戦勝ち、という感じもするけど。日本では、数少ない、社会的要素を含んだ唄として、相当に評価していいだろう。

(詞・曲 仲山卯月)

別れの時は近づいてる 抜け殻みたいな太陽抱き締めて 勝ち組負け組 人によっては 色々あるけど---つまらない区別や劣等感も ごちゃまぜにとに角歩いた月日 俺達は そうさ----

(収集プロフィール)

コーヒーカラーは、日本の音楽ユニット。2004年日本クラウンよりメジャーデビュー。セルジュ・ゲンスブールの曲名が名前の由来。

メンバー

仲山 卯月 (なかやま うづき、1971?~) : ボーカル 埼玉県出身の歌手。

TESHI (てし) : ピアノ・コーラス

コータロー : ドラム (脱退)

*荒川静香のCMで一気に有名になった金芽米の新しいCMソング。コーヒーカラーは男女二人組のユニットで、この曲はファンク・テイストな作りだが、総合的な音楽世界観はなかなか振れていそう。

*倒産の実体験からくる抛り所のない不安と、人生のリベンジに燃える思いが入り混じり、ストレートで冷静な人生感を唄ったサビの文句の一語一語が、大不況の苦境に立つサラリーマン層にハマった。敗者の歌ではなく、勝者の歌でもない。混沌とする社会で、もがき、苦しむ渦中にある者達へ「その姿こそ尊く、輝かしい!」と励ましてくれる〔心の道しるべ〕と言えよう。

*大人向けミュージックを追求するユニット、コーヒーカラー。ヴォーカルの中山卯月が体験したスーパーバイザーという肩書きの嫌な男を歌ったとかで、よく聴くと“こんなヤツいるよな”と誰しもが共感するはず。

*サウンドと歌詞にこだわりが感じられるポップス・バンド。

*USENで火がついた、巷で噂のAORユニットによる第2弾。ダンディなヴォーカルに、ミルクならぬジャズやボッサのエッセンスを一滴落とせば社会派リラクゼーション・サウンドの出来上がり。

*“社会派AOR”を提唱する男女ふたりユニット。仕事や恋愛をはじめとする日常生活の雑事を独自の視点で切り取る、おかしくて悲しい歌詞が、まず、印象的。ソウル、ヒップホップ、シャンソン、ロックを網羅する音楽性も、かなりステキ。

*古めかしい曲調とゆったり歌う落ちついたヴォーカルが、音楽にあふれた現代に聴くと逆に新鮮だ。

シングル

人生に乾杯を! (2004年10月)

Good-Bye Everyday (2005)

スーパーバイザー (2006)

OHI米家族 (2007)

人生に乾杯を! (2009)

アルバム

すてきな瞬間 (2000年3月) インディーズ

黄昏メロウ (2000) インディーズ

Good-Bye Everyday (2005)

旅縁 (2005)

静かに語りかけるような、苦悩をソフトに塗したメッセージ性が、時代錯誤的でありながら、ピュアで新鮮。

(詞・曲 大野靖之)

君がこの星にデビューをしたとき どんな夢を見たんだ ずっと心にたったひとりで 小さな命を守りつづけなくちゃいけないんだ 君がこの星にデビューをした頃 誰かが星になるんだ きっと何万回もこんなことが繰り返され ぼくらは出合えたんだろ----

(収集プロフィール)

大野 靖之 (おおの やすゆき、1982～) は、シンガーソングライターである。千葉県印西市出身。2005年7月「心のノート/あいしてる」でメジャーデビュー。

生い立ち

1982年、大野家の三男として生まれる。

高校生のときに母親を乳癌で亡くし、その後、路上ライブと並行して全国のホスピスや養護施設などを回るようになる。このころにインディーズ時代のアルバム「命唄」をリリースする。

路上ライブから学校ライブへ

この「命唄」の内容が、ある中学校教諭の目にとまったことがきっかけとなり、全国の学校をまわり「学校ライブ」をはじめ。その活動が各メディアに紹介され、2008年7月、青年版国民栄誉賞グランプリ・内閣総理大臣奨励賞を受賞する。

これまでにまわった学校は2009年2月の時点で400校を超える。

コンサート活動

400校を超える学校ライブ以外にも、2005年9月11日にニッポン放送主催の青山梅窓院でのコンサートをはじめ、キリスト品川教会、赤坂BLITS等でもコンサートをひらいている。

*繊細で柔らかい歌声の持ち主。一見弱々しく聴こえるが、歌詞は前向きで、メッセージ的な要素も少なくなく、特に「22歳のひとり言」は14分以上にも及ぶ、家族を考えさせる大作。

*全国の小中学校で年間120回前後のライブをこなしているシンガー・ソングライターで、千葉県八街市非常勤講師という顔も持つ。子どもたちに向けたメッセージをストレートに、といっても重くなることなく、フォーク・ロック・サウンドに乗せて唄っている。

*“歌う道徳講師”との異名を持つ男性シンガー・ソングライター。命の尊さや家族の大切さといったピュアなメッセージを力強く歌ったナンバー。真剣な姿勢に好感が持てるシンガー。

シングル(インディーズ時代)

命唄 (2003年1月)

シングル

心のノート/あいしてる (2005)

陽だまり/頑張れなんて言えないよ (2007)

また逢える日まで (限定配信) (2009)

著書

『先生はストリートミュージシャン』 (日本文芸社)

『頑張れなんて言えないよ-ココロのノート』（扶桑社）

はじめの頃はあれこれと違和感のあった日本のラップ。このユニットでは、全くというほど違和感がない。語数、音数、韻ふみ、すべて基調のリズムとメロディーに合って、念仏のような世界に誘ってくれるようだ。内容もそつなく盛り込まれ、甘酸っぱく、果てしない想いを感じさせてくれる。

(詞 TOC 曲 DJKATSU)

鮮やかな色 四季おりおりの景色求め二人でIt's going going on 車、電車、船もしくは飛行機 計画を練る週末の日曜日 春は花見 満開の桜の下乾杯 頭上広がる桃色はLike aファンタジー 夏は照りつける陽の下でバーベキュー 夜になれば----全ての季節 お前とずっと----今年の春はどこに行こうか? 今年の夏はどこに行こうか? 春の桜も夏の海も あなた----

(収集プロフィール)

Hilcrhymeは、日本のヒップホップユニット。

*日本情緒を垣間見せるリリックをクラブ育ちのスキルで放つラップで放ち、ピアノやストリングスの柔らかな音像にアクの強いビートを潜ませるといふ、クラブにもJ-POPにも寄り過ぎることのないMC TOCとDJ KATSUによる新型ヒップホップ・ユニット。

地元・新潟を中心に圧倒的な支持を集めていた彼らが、09年7月に<UNIVERSAL J>より1stシングル「純也と真菜実」でメジャーデビュー。本作は、メンバー自身が親友の結婚式のために夫婦2人のエピソードを聞いて書き下ろしたものだ。

*親友の結婚を祝う男同士の友情を歌った「純也と真菜実」は、リアルなリリックが心に染みるミディアム・バラード。

*独特の日本情緒を垣間見せるリリックと、ピアノやストリングスの柔らかな音像にアクの強いビートを潜ませたトラックの数々。

概要

2001年にDJ KATSUの主催することになった『熱帯夜』のイベントに、仲間の紹介でTOCがMCとして参加した。その後、DJ KATSUはオーガナイザー兼DJ、MC TOCはMCとして経験を積み、2004年にHilcrhymeとして活動をスタート。

以降、新潟における様々なイベントに出演を重ね経験を積んだ彼らは2007年3月、オールインストデモアルバム「熱帯夜」を新潟2000枚限定で無料配布した。

2007年6月に@Niigata Junk Boxにてワンマンライブを敢行。400人を集客した。

2007年10月にはレゲエ界の雄であり地元の盟友、SCAR-FACE (SUNSCRITT) とのコラボレーション作品『WORDS MAKER』がコンピレーションアルバム「レゲエミリオン4」に収録された。

2008年7月、初の公式音源『もうバイバイ』がデビューシングルとしてリリース。HMVジャパニーズヒップホップ、レゲエ部門のマキシシングル予約ランキングで1位獲得。オリコン・インディーズ・チャートでは4位を記録し、同ビデオクリップはYouTubeで再生回数が10万回を超えた。

翌2009年3月に地元・新潟LOTSで開催されたインディーズ・ラスト・ライブでは600人ものオーディエンスを動員。

地元・新潟を中心に圧倒的な支持を集めていた彼らが、2009年7月にUNIVERSAL Jより1stシングル

ル「純也と真菜実」でメジャーデビュー。本作は、メンバー自身が親友「純也」の結婚式のために夫婦2人のエピソードを聞いて書き下ろしたものである。ビデオクリップではCX系情報番組『めざましテレビ』のキャスターとして活躍中の皆藤愛子がウェディング姿を披露している。同年9月にはセカンドシングル『春夏秋冬』をリリース。着メロランキングでは1位を記録し、オリコンデイリーランキングでも1位となった。

メンバー

MC TOC (1981年10月 -) 新潟県出身 趣味：スノーボード、ビリヤード

2000年、大学の学園祭で学校の先輩がRAP SHOWをしていたのを見て衝撃を受けRAPを始める。

DJ KATSU (1979年11月 -) 新潟県出身 趣味：スノーボード、車

幼少時代は、ピアノ教師の母にピアノを習うが、反抗期を迎えた10歳頃に止めてしまう。1999年に地元の小さなバーで盟友DJ YU-KIと共にイベントを開き、HOUSE DJとしてプレイする。

シングル

インディーズ

もうバイバイ (2008年7月)

メジャー

1st 2009年7月 純也と真菜実

2nd 2009年9月 春夏秋冬

3rd 2009 もうバイバイ

アルバム

熱帯夜 (2007年3月) (デモアルバム)

リサイタル (2010)

私には、やや遠いシーンの唄だが、なかなか面白い。私の子供の頃には、演歌・歌謡曲系が、各メディアで圧倒的に君臨していたが、ロカビリーをはじめ、坂本九やザ・ピーナッツ、森山加代子、森サカエなどのポップス系も常にテレビを賑わしていた。高校に入ると間もなく、ビートルズ・ブームが巨大化し、外国の有名無名の数多くのバンドが次々来日した。そして、和製バンドも次々生まれ、と、いま振り返ると、和洋の美味しい所を、かなり享受していたのだ。

(詞・369・リョージ 曲 369・TASUKU)

朝になれば光がさして当たり前のように 眼をさます 君がいたはずの部屋の中 見渡して慌てて起きる 突然君が----

(収集プロフィール)

369 (ミロク、1980年-) は神奈川県相模原市出身のヒップホップミュージシャンである。

1994年から「D-THE 369」(ディー・ザ・ミロク)として活動開始。1999年、ケツメイシのRYOとも活動するNAMと「NAM&369」を結成。2002年、塚崎陽平、大小原ユウキとSALを結成し、DREAMS COME TRUE率いるインディーズレーベル「DCT records」からCDをリリース。2007年、ソロとしてビクターSPEEDSTAR RECORDSよりメジャーデビューを果たす。

*369とは“3ix、6ock、9lub”の略。その名のとおり、ロックとダンス・ミュージックを融合させた、独自の音楽を追求する男性ソロ・ユニットのデビュー盤。ロック・サウンドにラップを乗せた“エレクトロ・ロック”の意外性と、耳なじみのよさは日本初の新食(聴)感。

*フレンチ・エレクトロやディスコ・パンク、レゲエなどをちりばめ作り上げたサウンドは、無限大の広がり、そして柔らかさとエッジが混在する、何とも言えない新食感。

*日本発で日本初の新食感。時代の寵児、369。ロックとダンスミュージックが完全融合したエレクトロ・ロックのデビューシングル“行かなくちゃ”に続くセカンドシングルは“帰り道”。家と自分のサークルを往復する誰にも届ける、毎日のうた。

家路につく温かさや切なさの心象風景が描く見事なコントラストがハウスビートに乗った、心温まるサウンド&リリック。

*日本発で日本初の新食感。時代の寵児、369。94年よりビースティー・ボーイズとスチャダラパーに感銘を受けてラップをはじめ、神奈川や西東京を中心にクラブ・イベントで“D-THE 369 (ディー・ザ・ミロク)”として活動。99年には、『PETE ROCK JAPAN TOUR』でイベントのサイドMCとして出演、ケツメイシのシングル「手紙 過去〜」にゲストMCとして参加、ケツメイシのRYOとも活動するNAMと共に“NAM&369”を結成、アルファのツボイと“ジサツ”を結成。純日本語によるリアルなメッセージをポエトリー・リーディング・スタイルに乗せた現在の“アンエモーショナル・リアリズム”スタイルを築く。

05年には、これまでのスキルを活かし、ヒップホップのトラック・メイキングのセンスで紡ぎ上げるロックの新天地=ME ROCK=369を追求し始める。

07年5月、フレンチ・エレクトロ/ディスコ・パンク/レゲエなど多彩なジャンルを昇華した“シャッフル・ミュージック”アルバム『369.1』でメジャー・デビュー。ロックとダンス・ミュージックを融合させ、ニュー・レイヴ好きをも唸らせる独自のサウンド“エレクトロロック”を

確立する逸材だということは間違いない。

*ロック、エレクトロ、ラップなど多面性を持つマルチ・ジャンルのアーティストである369のサード・シングルは、去っていった君の気配がいまも霞のように漂っていると歌う強く美しいラブ・バラード。男の心の奥深いところに触れる切なく泣けて浸って歌える名曲だ。

*ヒップホップのセンスと手法をもって作り上げられたポップ・ソングというのも今では珍らしくないが、そんな中でもかなり完成度が高い作品だと思える1、3曲目を聴いていると、日本人×洋楽=ニューミュージックという公式が依然有効であることがよくわかった。

シングル

行かなくちゃ (2007年9月)

午後五時

何も

帰り道 (2007)

ひかり

波浪

霞 (2008)

フジテレビ系アニメ『二十面相の娘』オープニング主題歌

欲望

美しい世界

帰り道 (IGODA HOUSE STYLE MIX)

キャンプファイヤ (2009 369+RYO+TSUBOI+YAIKO)

ヒーロー

マイクマン

アルバム

369.1 (2007)

フワフワ

空中

無気力デイズ

夜

今日の歌

描く

more

うおんぴーろーん、うおんぴーろーん、のフレーズが耳にこびりつく感じが、えぐくプライマリーな曲。全編、明るくファナティックで、とても楽しい。踊りに縁遠い私でも、浮き浮きとしてくる。この二人は、キャラクターが面白い。その辺にいそうで、実はいない、といううような。

(詞・曲 Bro.KORN)

OLY OLY OLY OH! YELY YELY YELY YEAH!!---たりない頭なら、智恵を盗みゃいい ちょうじり合わすなら、うそも必要さ----

(収集プロフィール)

バブルガム・ブラザーズとは、1983年にブラザー・トム (Bro.TOM) とブラザー・コーン (Bro.KORN) のコンビで結成されたデュオ。略称BGB。もともとは漫才師。

*83年のデビュー当時から和製ブルース・ブラザーズもしくは和製サム&デイヴなどと賞賛されていたが、商業的には「Won't Be Long」(90年)でブレイク。シング・アロングできるサビがウケてカラオケの定番曲になり、今でもJポップ・シーンにブラック・ミュージックを受け入れる素地を作った名曲として高く評価されている。その後も映画「七人のおたく」主題歌「JUST BEGUN」(92年)などのヒット曲を世に送り出す。アーティストというよりはおもしろいタレントさんといったイメージがすっかり定着したが、06年11月にEXILE&倅田來未によってカバーされた「Won't Be Long」がリリースされ、元の曲も再評価を受ける。

08年12月発売のシングル「Daddy's Party Night」で活動再開。再びTV等で2人揃った姿を頻繁にみせるように。実はふたりとも元お笑い芸人である。

来歴

1985年発売のシングル「忘れじのエヴリナイト」でデビュー。デビュー当時は「THE BUBBLEGUM BROTHERS」と表記されていたが、シングル『Beautiful People』辺りから「DA BUBBLEGUM BROTHERS」という表記に変わった。

1991年には、前年リリースのシングルWON'T BE LONGがヒットし、『第42回NHK紅白歌合戦』に出場。この年の紅白は当初、HOUND DOGが出場予定であったが、NHKとの選曲のもつれからキャンセルとなり、代役として白羽の矢が立った。

1996年以降はソロ活動が多くなり活動休止状態(2004年6月にライブを行ったことがある)であったが、2008年12月発売のシングル「Daddy's Party Night(懲りないオヤジの応援歌)」で活動再開。

*ほろ苦く切ない大人のR&B「東京JUICE」とユーモラスなファンク「Let's stay Together」という極上のカップリング。相も変わらぬ徹底したエンタテイナーぶりで楽しませ、泣かせ、踊らせてくれる。

*「GET」ルックスが全然、堅気の人じゃないぞBGB。全体に気合いの入った好アルバムですが、なんと言っても、歴史年号や元素記号をラップものにした「DA SCHOOL RAP」が圧倒的にカッコいい。岸田今日子のMCもいい。森高の「ロックンロール県庁所在地」もタジタジ。

シングル

忘れじのエヴリナイト (1985)
不注意なLove Song／SOUL SPIRIT Part II (1985)
潮時・ポーカーフェイス (1986)
ブギーの若大将 (1987)
ガタガタ～そうる別れ話～ (1987)
涙 街角 イルミネーション (1988)
SOUL大臣 (1988年7月21日)
俺のジェリービーンズ (1988)
ヘイ!TAX (1989年7月1日)
WON'T BE LONG／天国へのパスポート (1990)
あの娘のダンスにくびったけ (1990)
Beautiful People／自由人 (1991)
Torokel Lady (1991)
JUST BEGUN (1992)
映画「七人のおたく」主題歌
DA SCHOOL RAP (1992)
Remember The Pearl Night (1993)
GET GOOD GET GOD (1994)
NHK「ワールドカップサッカーアメリカ '94」イメージソング
Hallelujah Hallelujoh (1994)
恋心キュル (1995)
恋の落とし穴～Friday Night Fever～ (1996)
白い砂の少女 (1997)
東京JUICE (2009)
MORNIN'...feat.Metis (2009)

ジャニーズ系としては、まあまあの歌唱力だろう。10曲ばかり試聴してみたが、予想に反して、いい曲が多い。この曲は、中高年にも判りやすい詞と、やや乾いた軽やかなメロディーがマッチして、ハイロールな小世界を作り出している。

(詞・曲 HYDRANT)

ゆらりゆれる光ひとつ 痛み癒すことなく消える---たとえどんな終りを描いても心は謎めいて それはまるで闇のように 迫る真実 たとえどんな----

(収集プロフィール)

嵐(あらし)は、日本の男性アイドルグループ。

概要

1999年、ジャニーズJr.内で人気の高かった人物から選出され結成された男性アイドル歌手グループ。同年9月15日にデビュー記者会見をハワイで行い、11月3日に『A・RA・SHI』でCDデビューを果たす。その時嵐のメンバーの最年長は大野智の18歳であった。

グループ結成、およびCDデビューは、当人たちには十分に知らされないまま進められたもので、結成会見までほとんど話したことがないメンバーがいるほど唐突の出来事であり、嵐というグループとしての持ち味、結束もCDデビューと並行して図らなければならなかった。結成時から各メンバーの知名度、人気は高かったが、結成後しばらくの間はジャニーズJr.活動の場を同じくすることが多く、その人気もJr.の延長であった。

音楽活動、テレビドラマ、映画、舞台、バラエティ番組、報道などメンバー各人がそれぞれの個性を活かしながら活動を行なっている。

メンバー

メンバー各人に関する情報は各人のページを参照。

大野智(おおの さとし、1980年11月 -、東京都出身) : 嵐のリーダー・メインボーカル

櫻井翔(さくらい しょう、1982年1月 -、東京都出身) : ラップ担当

相葉雅紀(あいば まさき、1982年12月 -、千葉県出身)

二宮和也(にのみや かずなり、1983年6月 -、東京都出身)

松本潤(まつもと じゅん、1983年8月 -、東京都出身)

年譜

1999年

11月3日 「A・RA・SHI」でCDデビュー

前々日に行われた握手会には約8万人のファンが殺到した。

2001年

10月3日 初の冠番組『真夜中の嵐』が放送開始

2002年

3月 相葉雅紀が肺気胸のため入院し、4人で活動

映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』で復帰。

10月18日 メンバー5人全員での初主演映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』が公開。

2004年

3月1日 初主演映画の続編『ピカ☆☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY』が公開

前作同様主題歌、挿入歌共に担当。

8月21日、8月22日 『24時間テレビ「愛は地球を救う」』第27代メインパーソナリティを務める。

2006年

3月11日 二宮和也がアメリカ映画『硫黄島からの手紙』撮影のため渡米

4月25日に帰国するまで、4人での活動となった。

7月31日 キャンペーン『JET STORM』でタイ王国、台湾、韓国の3ヶ国をわずか1日で回り、アジア進出を大々的にPR

2008年

年間オリコンシングルランキングで「truth／風の向こうへ」と「One Love」が1位、2位を独占。

2009年

3月2日 「truth／風の向こうへ」が第23回日本ゴールドディスク大賞「シングル・オブ・ザ・イヤー」に輝いた。また、「ザ・ベスト10シングル」には、「One Love」「truth／風の向こうへ」「Beautiful days」の3曲が選出された。

8月 - 2010年1月 デビュー10周年記念ツアーを開催

国立競技場を皮切りに自身2度目の5大ドームツアーを敢行。国立競技場では史上初となる3日連続公演を行った。

オリコン年間チャートで、シングル・アルバム「All the BEST! 1999-2009」・DVD「5×10 All the BEST! CLIPS 1999-2009」で全て1位を獲得し3冠をはたした。さらに、総売上金額でも140億円超で1位を達成し、オリコンチャート史上初となる年間チャート4冠を達成する。

シングル部門では1位は「Believe／曇りのち、快晴」、2位は「明日の記憶／Crazy Moon～キミ・ハ・ムテキ～」、3位は「マイガール」と年間トップ3を独占する。

シングル

1 1999年11月 A・RA・SHI 明日に向かって

2 2000 SUNRISE日本／HORIZON -

3 2000 台風ジェネレーション -Typhoon Generation- 明日に向かって吠えろ

4 2000 感謝カンゲキ雨嵐 OK!ALLRIGHT!いい恋をしよう

5 2001 君のために僕がいる はなさない!

6 2001 時代 恋はブレッキー

7 2002 a Day in Our Life -

8 2002 ナイスな心意気 -

9 2002 PIKA☆NCHI 道

10 2003 とまどいながら 冬のニオイ

11 2003 ハダシの未来／言葉より大切なもの -

12 2004 PIKA★★NCHI DOUBLE 五里霧中

13 2004 瞳の中のGalaxy／Hero Hey Hey Lovin' You

14 2005 サクラ咲ケ 手つなごお

15 2005 WISH イチオクノホシ

二人の記念日

16 2006 きっと大丈夫 春風スニーカー

NA!NA!NA!!

17 2006 アオゾラペダル Kissからはじめよう

夏の終わりに想うこと

18 2007 Love so sweet いつまでも

ファイトソング

19 2007 We can make it! Di-Li-Li

Future

20 2007 Happiness Still...

Snowflake

21 2008 Step and Go 冬を抱きしめて

22 2008 One Love How to fly

23 2008 truth／風の向こうへ スマイル

24 2008 Beautiful days 僕が僕のすべて

忘れられない

25 2009 Believe／曇りのち、快晴 トビラ

26 2009 明日の記憶／Crazy Moon～キミ・ハ・ムテキ～

27 2009 Everything season

28 2009 マイガール 時計じかけのアンブレラ

スーパーフレッシュ

*日本が誇る人気アイドル・グループ。「嵐」の由来は、「世界中に嵐を起こす」という意味のほか、頭文字が五十音でも最初の「あ」、アルファベットでも最初の「A」にくることから、「必ず一番になる」という意味が。

99年9月、ハワイ・ホノルル沖のクルーズ客船にて結成及びCDデビュー会見を行い、2ヵ月後にデビュー。

メンバー個々の活動では、二宮がハリウッド映画『硫黄島からの手紙』に出演、松本はTVドラマ&映画『花より男子』の主演を飾り大ヒットを記録、大野は手作りのアート作品を収めた写真集を発売、全国5ヶ所で個展を開催。また、櫻井はニュース・キャスターとして日本テレビ『NEWS ZERO』に出演中、相葉はバラエティ番組『志村どうぶつ園』で司会を務めるなど、5人全員が個性を発揮するなどして活躍中だ。

*ジャニ系で今もっとも充実しているこの人たち。10周年と聞くとちょっと驚くが、桜井翔のラップを活かした「a Day in Our Life」あたりを機に、格段の成長を見せていった過程は、このベスト盤でも手に取るように。実は難曲が多いのに、丁寧に歌いこなしているメンバーの姿勢もいい

*明日を信じて歩き続けるメッセージ・ソング「Everything」と、切なくも希望に満ちたポップ・ナンバー「season」。

*「Beautiful days」星空の美しさ人と人との絆を歌った彼らのシングル。ピアノの繊細な響きが随所で利いている。「僕が僕のすべて」は悩みながらも一歩踏み出そうとする決意を歌った青春ソング。

私の年齢では、もはやついて行くのが辛いアーティストである。今回、ユーチューブ等で6曲ばかり聴いてみた。歌唱力は、まずまずと言ったところ。詞もメロも、現代を色濃く映している。そしてこの曲は、予想と違って、明快でアグレッシブな、現代の人生の応援歌である。若い世代に向けての発信なのだが、強い曲調を乗り越えると、かなり高い年齢層の人々にも、響く内容をもっているようだ。驚くほど、全編に渡って命令調の、威勢のよい言葉が並ぶ。マゾの人に、大うけだったりして。島田紳助の作詞した「羞恥心」も、若い世代への応援歌だったが、「RIVER」には、もっとハードで乾いたテイストがある。そこは、好みによって、分かれるかも知れない。

(詞・秋本康 曲・井上ヨシマサ)

迷いは捨てるんだ！ 根性を見せろよ！ ためらうな！ 今すぐ 一歩 踏み出せよ！

(ウィキペディアより)

AKB48 (エーケービー フォーティエイト) は、秋元康のプロデュースにより、2005年に誕生した、女性アイドルグループ。

概要

「会いに行けるアイドル」をコンセプトに、専用劇場でほとんど毎日公演を行っている。メディアを通じた遠い存在だったアイドルを身近に感じ、その成長していく過程をファンに見てもらい、共に成長していくアイドル・プロジェクトである。公演は、全てオリジナル曲で行われ、2009年4月現在、190曲を超えるオリジナル曲が発表されている。全ての作詞を、総合プロデューサーの秋元康が担当。

2007年には活動の場を広げ、3月に初の全国ツアーを行い、9月22日には、初の海外公演として、チームBが北京の中国芸術研究院で開催された「日中文化人懇談会2007」に参加。そして大晦日には、紅白歌合戦初出場。

2008年。名古屋・栄を拠点とする姉妹ユニットSKE48が誕生し、2009年8月には、初の日本武道館でのコンサートを開催。公式ブログのタイトルが示すように、東京ドームでのコンサート開催を目標に置いている。以前は、メジャーデビューを目標に。最近では海外にも人気が拡散し2009年には米国とフランスでライブを行った。

*日本が世界に誇るアイドル文化。数多くのメンバーで構成された<東物アイドル>の系譜は脈々と続く。その元祖的存在のおニャン子クラブから約20年後、同グループの仕掛人だった秋元康によって誕生。最大の特徴は“会いに行けるアイドル”ということ。秋葉原に専用劇場を構え、ほぼ毎日コンサートを開催。オタク文化象徴の地で、ファンとアイドルの交歓が日夜繰り広げるなど、独自の文化を形成。話題作を続々リリース、支持層は秋葉原の外へ。

*サビが耳から離れないハイパーでダンサブルなロック・チューンの「言い訳Maybe」、哀愁グルーヴィー歌謡の「飛べないアゲハチョウ」と、武道館公演を成功させたイケイケ感がサウンドに表われている。

*作品ごとに新たな魅力を見せてくれる彼女たちが、本作では“かわいい”だけでなく“カッコいい”一面を披露。

メンバー

板野友美（いたのともみ、1991年7月 - ） 神奈川県
北原里英（1991年6月 - ） 愛知県
小嶋陽菜（はるな、1988年4月 - ） 埼玉県
佐藤亜美菜（あみな、1990年10月 - ） 東京都
佐藤由加理（ゆかり、1988年11月 - ） 静岡県
篠田麻里子（しのだまりこ、1986年3月 - ） 福岡県
高城亜樹（たかじょうあき、1991年10月 - ） 東京都
高橋みなみ（みなみ、1991年4月 - ） 東京都
中田ちさと（なかたちさと、1990年10月 - ） 埼玉県
藤江れいな（ふじえれいな、1994年2月 - ） 千葉県
前田敦子（まえだあつこ、1991年7月 - ） 千葉県
峯岸みなみ（みねぎしみなみ、1992年11月 - ） 東京都
宮崎美穂（みやざきみほ、1993年7月 - ） 東京都「宮男」

チームK

コーポレートカラーは（緑）
秋元才加（さやか、1988年7月 - ） 千葉県「オカロ」
梅田彩佳（あやか、1989年1月 - ） 福岡県「キュラ」
大島優子（ゆうこ、1988年10月 - ） 栃木県「コリス」
大堀恵（めぐみ、1983年8月 - ） 東京都
奥真奈美（おくまなみ、1995年11月 - ） 東京都
小野恵令奈（おのえれな、1993年11月 - ） 東京都
河西智美（かさいともみ、1991年11月 - ） 東京都
倉持明日香（あすか、1989年9月 - ） 神奈川県
小林香菜（かな、1991年5月 - ） 埼玉県
佐藤夏希（さとうなつき、1990年7月 - ） 北海道
近野莉菜（ちかのりな、1993年4月 - ） 東京都
野呂佳代（のろかよ、1983年10月 - ） 東京都
増田有華（ますだゆか、1991年8月 - ） 大阪府
松原夏海（まつばらなつみ、1990年6月 - ） 福岡県
宮澤佐江（さえ、1990年8月 - ） 東京都

チームB

浦野一美（かずみ、1985年10月 - ） 埼玉県「Cindy」
多田愛佳（おおたあいか、1994年12月 - ） 埼玉県「ラブたん」
柏木由紀（ゆき、1991年7月 - ） 鹿児島県
片山陽加（はるか、1990年5月 - ） 愛知県「昭和」
小原春香（こはらはるか、1988年4月 - ） 広島県「きゅるるん」

田名部生来（みく、1992年12月 - ） 滋賀県
仲川遥香（はるか、1992年2月 - ） 東京都
中塚智実（ともみ、1993年6月 - ） 埼玉県出身
仲谷明香（なかや さやか、1991年10月 - ） 千葉県
仁藤萌乃（もえの、1992年7月 - ） 東京都
平嶋夏海（なつみ、1992年5月 - ） 東京都
米沢瑠美（るみ、1991年6月 - ） 埼玉県
渡辺麻友（まゆ、1994年3月 - ） 埼玉県
チーム研究生
浅居円（あさい まどか、1991年7月 - ） 滋賀県「まりん」
石井彩夏（あやか、1991年6月 - ） 神奈川県
石黒貴己（あつき、1993年9月 - ） 埼玉県9期生。
石田晴香（はるか、1993年12月 - ） 埼玉県
石部郁（あや、1991年2月 - ） 山梨
伊藤彩夏（あやか、1993年6月 - ） 9期生。
今井悠理枝（ゆりえ、1994年4月 - ） 埼玉県
岩佐美咲（みさき、1995年1月 - ） 千葉県
植木あさ香（あさか、1995年5月 - ） 千葉県
内田眞由美（まゆみ、1993年12月 - ） 東京都「ドラミ」
大場美奈（みな）9期生。
大家志津香（しづか、1991年12月 - ） 福岡県
郭グレース（かく ぐれーす、1994年4月 - ） 埼玉県
菊地あやか（あやか、1993年6月 - ） 東京都
絹本桃子（ももこ）9期生。
小水七海（ななみ、1995年7月 - ） 神奈川県
小森美果（みか、1994年7月 - ） 愛知県
坂本莉央（りお、1995年6月 - ） 東京都
佐藤すみれ（すみれ、1993年11月 - ） 埼玉県
佐野友里子（ゆりこ、1992年1月 - ） 東京都
島崎遥香（はるか）9期生。
島田晴香（はるか）9期生。
杉山未来（みく、1995年12月 - ） 東京都
鈴木まりや（まりや、1991年4月 - ） 埼玉県
高松恵理（えり）9期生。
竹内美宥（みゆ、1996年1月 - ） 東京都
冨手麻妙（とみて あみ、1994年3月 - ） 神奈川県
永尾まりや（まりや）9期生。
中村麻里子（まりこ、1993年12月 - ） 千葉県

野中美郷（みさと、1991年4月 - ）神奈川県

藤本紗羅（さら、1997年3月 - ）東京都。

前田亜美（あみ、1995年6月 - ）東京都

松井咲子（さきこ、1990年12月 - ）埼玉県

三木にこる（みき にこる、1995年6月 - ）千葉県

村中聡美（さとみ、1988年6月 - ）千葉県

森杏奈（あんな、1994年3月 - ）9期生。

山内鈴蘭（すずらん）9期生。

横山由依（ゆい、1992年12月 - ）京都府

卒業生

宇佐美友紀（ゆき、1984年12月 - ）埼玉県

折井あゆみ（あゆみ、1985年7月 - ）長野県

星野みちる（みちる、1985年11月 - ）千葉県

増山加弥乃（かやの、1994年2月 - ）東京都

大江朝美（ともみ、1989年6月 - ）東京都出身。

駒谷仁美（ひとみ、1988年12月 - ）埼玉県「ひいピンク」

戸島花（はな、1988年7月 - ）埼玉県

中西里菜（りな、1988年6月 - ）大分県

成田梨紗（りさ、1991年3月 - ）東京都「ナタリー」

川崎希（のぞみ、1987年8月 - ）神奈川県「のぞフィス」。

大島麻衣（まい、1987年9月 - ）千葉県

チームK

高田彩奈（あやな、1988年7月 - ）愛知県

今井優（ゆう、1985年4月 - ）埼玉県

早野薫（かおる、1992年12月 - ）東京都。

成瀬理沙

渡辺志穂（しほ、1987年10月 - ）兵庫県

井上奈瑠（なる、1991年12月 - ）大阪府

野口玲菜（れいな、1993年4月 - ）埼玉県

松岡由紀（ゆき、1987年10月 - ）神奈川県

佐伯美香（みか、1989年10月 - ）栃木県

出口陽（あき、1988年3月 - ）三重県「ぴっぴ」。

中西優香（ゆうか、1989年1月 - ）愛知県「チュンチュン

有馬優茄（ありま ゆか、1991年2月 - ）神奈川県

鈴木菜絵（すずき なえ、1992年12月 - ）北海道

富田麻友（とみた まゆ、1993年1月 - ）香川県

畑山亜梨紗（はたやま ありさ、1991年2月 - ）東京都

早乙女美樹（さおとめ みき、1991年6月 - ）栃木県

瓜屋茜（うりや あかね、1992年8月 - ）神奈川県

上遠野瑞穂（かとおの みずほ、1991年11月 - ）東京都

鈴木紫帆里（しほり、1994年2月 - ）神奈川県

シングル

インディーズ

桜の花びらたち（2006年2月）

スカート、ひらり（2006）

メジャー

デフスターレーベル

会いたかった（2006）

制服が邪魔をする（2007）

軽蔑していた愛情（2007）

BINGO!（2007）

僕の太陽（2007）

夕陽を見ているか?（2007）

ロマンス、イラネ（2008）

桜の花びらたち2008（2008）

You, Be Cool!/KINGレーベル

大声ダイヤモンド（2008）

10年桜（2009）

涙サプライズ!（2009）

言い訳Maybe（2009）

RIVER（2009）

いわゆる正統な卒業ソングで、詞も曲も美しくロマンティックでとてもいい。無理のない音楽性と、心地よいボーカル。多くの人にとって、大きな人生の節目である、卒業。それは、解放であると同時に、未知の世界への旅立ちでもある。自己実現を目指しての、憧れや希望と、戸惑いと不安が錯綜する。「YELL」は日常のありふれた言葉を集めながら、人生の深みを呈示し、次第に崇高なまでの高みに昇っていく。

私はいまどこにあるのと 踏みしめた足跡を 何度も見つめ返す 枯葉を抱き秋めく窓辺にかじかんだ指先で夢を描いた---それぞれの夢へと 僕らをつなぐYELL とともに過した日々を胸に抱いて 飛び立つよひとりで次の空へ---ありのままの弱さと 向き合う強さを つかみ僕等----

(収集プロフィール)

いきものがかりは、日本の3人組音楽グループ。

1999年2月にアマチュアバンドとして結成。バンド名はメンバーの水野良樹と山下穂尊の二人が小学生のとき生き物係だったことに由来する。主に海老名市・厚木市など神奈川県央地域を中心とした音楽活動を行う。

2003年8月にアルバム『誠に僭越ながら...』でインディーズデビュー。2006年3月にはシングル「SAKURA」でソニーのレーベルエピック・ジャパンからのメジャーデビュー。

*心に沁みるバラードを得意としているいきものがかりの9枚目のシングルは、話題の映画「砂時計」の主題歌で、ふと人が戻りたくなる場所への想いを込めた切ないバラード。

*時に意地を張ってしまうけれど、その一方でとても素直でキュートな女心を歌った詞と、真っ直ぐに響く歌声がマッチしたキラー・チューンだ。

*J-POPのド真ん中をゆく3ピース。最先端を狙うのではなく、日常というありふれたステージから生まれるフレーズや心の動きを朗々と歌い上げる楽曲スタイルが、実に心地良い。自らのペースに大衆性を引き寄せるカタルシスを持った力作。

*誰にでもあるような経験を、美しいハーモニーとサウンドで、鮮やかに描き音楽に昇華する彼ら。ライブの躍動感も瑞々しい。

*淡々としつつ、いつの間にか現在のJ-POPを代表するほどの存在となった彼ら。このシングルも、どちらも甲乙付けがたい仕上がりでその安定した力を見せつけるが、ここでは力強い「ホタルノヒカリ」よりも、メランコリックな「おもいでのおすま」を推したい。澁みのない吉岡聖恵の声がイイ。

吉岡 聖恵 (よしおか きよえ)

ボーカル担当

1984年2月29日生、静岡県静岡市生まれ(静岡放送『GOGOワイドらぶらじ』にゲスト出演した際に本人が発言)、5歳のときに神奈川県厚木市に移住。

立ち位置は中央。

学歴 - 昭和音楽大学短期大学部音楽科ミュージカルコース(現在は4年制)卒業

兄は水野と山下の高校時代の同級生である。

高校時代に水野と山下が駅前で行っていたストリートライブに飛び入り参加したのが加入のキツ

カケだという。

水野 良樹（みずの よしき）

コーラス、ギター（主にエレキギターを使用）担当。リーダーである。

1982年12月生、静岡県浜松市に生まれ、幼少期に神奈川県海老名市に移住。

立ち位置はカメラから向かって左側。

学歴 - 明治大学政治経済学部で仮面浪人後、一橋大学社会学部卒業。

高校時代は部活には入っていなかった。

作曲はとても時間が掛かり、「山下は30分、水野は30日」と言われるほどである（トップランナーより）。

2009年現在、主にシングルのA面曲の作詞・作曲を担当している。

野球好きで、小学校では少年野球をしていたこともある。読売ジャイアンツの大ファンで、かつて選手時代の原辰徳からサインをもらったこともある。自身のブログでも度々、野球のことを取り上げる。ちなみに高校の先輩には横浜ベイスターズの川村丈夫二軍投手コーチがいる。

メジャーデビュー後、レコーディングの合間に食べる間食で体重が増加し（ピークは「夏空グラフィティ」の時）、デブキャラでいくかダイエットをするかの選択を迫られた。結局、ダイエットを選択し、約14kgもの減量に成功した（『sakusaku』より）。

小さい頃ピアノを習っていた。

小学校の担任の先生がピアノを弾けないため、ギターで音楽の授業をしていたのを見て「カッコいいなあ」と思い、自分もギターを弾き始めた。（「いきもの観察日記～動画編～」より）

山下 穂尊（やました ほとか）

ギター（主にアコースティックギターを使用）、ハーモニカ担当。

1982年8月生、神奈川県海老名市出身。

立ち位置はカメラから向かって右側。

法政大学社会学部卒業。

高校時代は帰宅部だった。

、時折自身のブログで写真と共に紹介されることが多い。また、アニメについてはジブリ系の作品に精通しており、以前テレビ神奈川の『Sakusaku』において話題にしたことがある。

小さい頃はピアノを習っていた。

作詞・作曲を担当した楽曲は「心一つあるがまま」「最後の放課後」など。カップリング曲やアルバム曲を担当する事が多い。

浪人時代、昼食代として500円をもらっていたが、それを使わず全て貯金して20万円を貯めた。

2008年2月13日、メジャー2ndアルバム『ライフアルバム』発売。オリコン週間アルバムランキング初登場2位。

2008年3月30日 - 5月23日、ライブツアー「いきものがかりのみなさん、こんにちはー!! 2008～ライフアルバム～」を開催。

2008年7月9日、10枚目のシングル『ブルーバード』発売。オリコン週間シングルランキング初登場3位で、シングルとしては初のトップ3入りを果たす。

2008年12月24日、メジャー3rdアルバム『My song Your song』発売。オリコン週間アルバムランキング初登場1位を獲得し、シングル・アルバムを通して初の1位獲得作品となる。また、2009年上半期アルバムランキングで5位となった(オリコン調べ)。

2008年12月31日、第59回NHK紅白歌合戦に初出場。

2009年3月4日、初の映像作品集『とっってもええぞう』発売。

2009年度の第76回NHK全国学校音楽コンクール・中学校の部の課題曲『YELL』の作詞作曲を水野が担当。

シングル

1st 2006年3月 SAKURA

2nd 2006 HANABI

3rd 2006 コイスルオトメ

4th 2006 流星ミラクル

5th 2007 うるわしきひと/青春のとびら

6th 2007 夏空グラフィティ/青春ライン

7th 2007 茜色の約束

8th 2008 花は桜 君は美し

9th 2008 帰りたくなったよ

10th 2008 ブルーバード

11th 2008 プラネタリウム

12th 2008 気まぐれロマンティック

13th 2009 ふたり

14th 2009 ホタルノヒカリ

15th 2009 YELL/じょいふる

16th 2009 予定 なくもんか

アルバム

インディーズレーベル

1st 2003年8月 誠に僣越ながらファーストアルバムを
拵えました...

2nd 2004 七色こんにやく

3rd 2005 人生すごろくだべ。

メジャーレーベル

1st 2007 桜咲く街物語

2nd 2008 ライフアルバム

3rd 2008 My song Your song

PV

タイトル PV (ロケ地・使用映像) ディレクター

SAKURA 小田急線富水駅東口 竹内鉄郎

HANABI CG合成 ウスイヒロシ

コイスルオトメ 横浜市青葉区・こどもの国線沿線 番場秀一
二輪花 映画『チェリーパイ』 不明
流星ミラクル 多摩ニュータウン 滝本登鯉
うるわしきひと お台場パレットタウン付近 番場秀一
青春のとびら 映画『モンスター・ハウス』 不明
夏空グラフィティ サイパン島 三木孝浩
青春ライン サンダースネーク厚木 大橋陽
茜色の約束 子供の森公園（怪獣公園） 舟越響子
花は桜 君は美し JR根岸線桜木町駅 三木孝浩
帰りたくなったよ セット撮影・映画『砂時計』
ブルーバード セット撮影（ボウリング場） 河谷英夫
プラネタリウム セット撮影・CG合成 三木孝浩
気まぐれロマンティック ドット絵アニメーション・セット撮影 河谷英夫
ふたり 上田電鉄別所線八木沢駅
ホタルノヒカリ 茨城県筑波山中・セット撮影 大橋陽
YELL 神奈川県厚木市立東名中学校 三木孝浩
じょいふる 神奈川県厚木市立東名中学校 スミス
*ホタルノヒカリ TX系テレビアニメ『NARUTO -ナルト- 疾風伝』 オープニングテーマ
YELL 2009年度NHK全国学校音楽コンクール中学生の部課題曲

グループ名は、下剤からということだが、やはり面白い。俳優の八名信夫が、CDジャケットへの写真利用を求められたとき、グループ名を聴いて「ケ、ケツ-----」と言って、絶句したそう。そして「そんな哀れなバンドから金は取れねえ。ただで、使わせてやれ。」と言ったとか。その後、大ブレイクして、大いに稼いでいる事を知り、後悔したという。ギャラは、いまでも本当に貰っていないということだが。今回、ユーチューブ等で15曲聴いて、聴いてみた。羽賀研二がメインのPVは、映像も音楽もとても楽しい。取り上げたい曲は3、4曲あるが、今回はこの曲で。何かに向かって、進行し続けていくような、メロディーがとてもいい。

(詞・曲 ケツメイシ)

僕の中の高速度列車は 今日もガタガタ言いながら 夢と言う名の駅に向かってひたすら走ってる
夢に向かって走るのか それとも途中----

(収録プロフィール)

ケツメイシは、男性4人で構成されるヒップホップ&レゲエユニット。1993年(平成5年)に結成され、1996年(平成8年)に現在のメンバーで新たに発足して活動を開始した。

概要

グループ名の由来は、中国で古代より下剤などに使用されている薬草「決明子(けつめいし)」で、薬草の効用になぞらえて「全てを出し尽くす」という意味が込められている。メンバーの中の2人は東京薬科大学出身で、薬剤師免許も取得しており、外資系の製薬会社の勤務歴もある。またメンバーの3人は兵庫県出身。

メンバー

Ryo(りょう 1972年11月-) MC担当 神戸市生まれ。2歳の時、東京都港区白金に移り住む。獨協高校、東京薬科大学卒業。最年長であり、影のリーダーとも言われる。かなりのラーメン好き。メジャーデビュー前に結婚、2人の子供がいる。父親は順天堂大学名誉教授、心臓血管外科学医の田中淳。父親はかなり厳しいらしく、今でもRyoは父親との会話は敬語。

Ryoji(りょうじ 1974年12月-) Vo担当 神戸市灘区生まれ、東京都八王子市育ち。現在の妻はタレントの石川亜沙美。2006年7月に石川亜沙美とできちゃった結婚。Ryojiは2度の離婚を経て3度目の結婚。2007年1月、東京都内の病院で第1子となる男児が誕生。

大蔵(だいぞう 1976年3月-) MC担当 ケツメイシのリーダーである。兵庫県 神戸市東灘区生まれ、神奈川県横浜市育ち。東京薬科大学卒業。

DJ KOHNO(ディージェイ コウノ 1977年6月-) DJ担当 広島県廿日市市出身。2003年に結婚。2006年6月に第1子、2007年2月に長男が誕生。

略歴等

1993年に「ケツメイシ」として活動を開始。

トヨタ自動車の運営サイト「GAZOO.com」のCMにてTV初出演。使われた楽曲は『こっちおいで』。

NHKから2005年の「紅白歌合戦」への出場を依頼されるが、辞退した。

アルバムとDVDのジャケットは全て、沖縄県の首里城瑞泉門下で撮影したものである。ケツメイ

シのメンバーがケツノポリスのジャケット撮影の前日に飲みすぎて二日酔いになり、階段を上れなかったために階段の下での撮影となっているらしい。またジャケットの右下の撮影日付の部分がそのCDやDVDの発売日になっている。

ミュージックビデオは、著名人や俳優を起用したものが多い。

有名人にもファンが多く、石川亜沙美（現在はRyojiの妻）、ベッキー、島谷ひとみ、上戸彩、安田美沙子、安田大サーカス、サッカー選手の大黒将志、田中達也、平川忠亮、アンタッチャブルの柴田英嗣などが有名である。

ライブツアーは過去4回全て、沖縄でファイナルを迎えている。

ライブで販売されるTシャツは「ケツT」と呼ばれ、デザインが良いためファンからは普段も着るほど愛用されている。胸や背中にKTMと書かれているのが特徴。

ツアーのグッズはチケットを持っていなくても購入できる。

ライブでは『はじまりの合図』で始まるのがお決まりで、最後に『ビールボーイ』を歌うことが多い。しかし、『はじまりの合図』発売以降、『春だ二晩!ケツメイシ祭り!二日間だけお願いやらせて!』というライブでの二日間だけ『痔持ち一代』で始まった。『ドキッ!! オヤジだらけの歌合戦 目指せ金メダル 2008 ポロリもあるよ!?!』では、『歌謡い』で始まり、『カーニバル』で締めくくられた。沖縄だけ、最後に『ビールボーイ』を歌った。これまでのツアーでは歌われていた『はじまりの合図』『ビールボーイ』を各地で歌わなかったツアーはこれが初めてである。ライブではアンコールの代わりに、会場のファンが『もっと』を歌うことがお決まりである。

『よる☆かぜ』は、香港の歌手陳冠希（エディソン・チャン）に『陳冠希edison夜風』というタイトルでカバーされ、台湾で1位になった。

『トモダチ』は、「若者の心を打つアーティスト、歌詞」として現代社会の教科書に載り、紹介されたことがある。

『幸せをありがとう』はDJ KOHNOの結婚を祝って他のメンバーが「アルバム作成合宿（沖縄）」で極秘に作った曲だが、結婚式までに完成が間に合わなかった。結局結婚式当日は、メンバーでかくし芸を披露した。

ライブは缶ビールを飲みながら行う。大蔵の一気に飲みは早くて有名である。

大蔵はライブでよく「頑張っている自分に拍手!!」と言う。

大蔵は鍼灸師・薬剤師、RYOは薬剤師の資格を持っている。

RYOは2000年に脱サラ。

横浜ベイスターズの吉見祐治は大蔵と交流があり、ケツメイシの曲を登場曲として使用している。

ライブでは客がMCの途中で声をかけたりして、MCの邪魔をすると「しゃべるな」と言うことが多い。

*2MC/シンガー/DJからなるラップ・グループ、ケツメイシ。なんとも心地よいシンフォニーを描き出すキャラ立ったラップのかけ合いと、メジャーな旋律をなぞる歌声は聴き手の心の琴線を実に刺激する。それもなにげない日常の出来事/想いを綴ったストレートなリックあってこそその賜物。それらは、親しみやすいヒップポップ/レゲエ・サウンドと相まって、温かさで解放感に満

ちたナンバーとして届けられるのだ。

*「出会いのかけら」「出会い」をテーマにしつつ、美しいピアノとストリングスを活かしたアレンジ、心地よく流れるビート、せつないメロディはまさにケツメイシの王道。カップリングも含め全3曲が新曲というのもうれしい。

*「また君に会える」やっぱり夏はケツメでしょ！ 「よる☆かぜ」以降、素敵なサマー・チューンで夏を演出してくれる彼らがまたしてもやってくれました。エビちゃんのCMでも話題のナンバーで日焼け確実。リゾート感覚満載で、メロディもフロウもトラックもすべてが軽快で爽やか。

*「トレイン」17枚目のシングルは、ケツメイシ流のポップ・サウンドが光るスプリング・ナンバー。メンバーの人生観から生まれた「走り出さなければ夢は叶わない」というメッセージと、その陰に潜む内省さに説得力が感じられる。温かいメロディとの相性も抜群だ。

*「さくら」シンプルなエイト・ビートとたおやかなイメージを生み出すストリングスを中心としたトラックのなかで舞うのは、「さくら」の季節の切なさをたたえたメロディ&ライム。彼らのヒップホップが持つポップネスは、さらに深化を続けている。

*「涙」純愛ブームに翻弄される泣きたがりオンナ連中(私も含む)に喝を入れる、入魂のマキシ。美しくなめらかなメロディと、それに則って濃やかに語られる「涙」の描写は、こらえきれないほど。流石の一言に尽きる、号泣モノ。このまま、日本ヒップホップ界の頼れる兄貴でいてほしい。

*「はじまりの合図」今回はまったく趣を異にしたラガマフィン風なアップビート・ナンバーのシングルをリリースした。カップリングの曲も含めて、とにかくスマート。

*「花鳥風月」鍵盤音のリフをモチーフに、ゆったりと伸びやかに展開していくサウンドにのせたヴォーカルは朗々たる響きをたたえ、ラップは時折、細やかなフックを与える。決してハデさはないものの、その音楽性の奥行きと豊かな響き。

*「ケツノポリス2」キャッチーな楽曲が並ぶ。ヒップホップ、レゲエ、ソウルなど、ブラック・ミュージックの大衆性にクローズ・アップ。

*「トモダチ」覚えやすいメロディと日常を表現した歌詞で共感を呼ぶケツメイシ。ニュー・シングルは、友人との出会いと別れの季節、初春にぴったり。

*「ケツノポリス」レゲエ、ヒップホップ、R&Bなど、あらゆる音楽ジャンルを貪欲に吸収し、身近な題材で日常を表現する彼らの手法は、すでに完成の域。

草野の歌唱の転調?のところに、言い難い味わいがある。5、6曲聴いてみたが、やや似通ったフレーズを感じる。ロックバンドであるが、フォークの味わいに近いものがある。やはり「ロビンソン」と、この曲が群を抜いて、心に染み込んでくるようだ。

(詞・曲 草野正宗)

君を忘れない 曲がりくねった道を行く 産まれたての太陽と夢を渡る黄色い砂 二度と戻れない
すぐり合って転げた日 きっと想像した以上に騒がしい未来が----

(収集プロフィール)

スピッツ (SPITZ) は、日本のロックバンド。

メンバー

草野マサムネ (くさの まさむね、1967年12月-)

ボーカル、ギター担当。福岡県福岡市出身。

三輪テツヤ (みわ てつや、1967年5月-)

ギター担当。静岡県藤枝市出身。

田村明浩 (たむら あきひろ、1967年5月-)

ベース担当 (リーダー)。静岡県藤枝市出身。

崎山龍男 (さきやま たつお、1967年10月-)

ドラムス担当。栃木県佐野市出身。

*日本のロック・シーンで最も清涼感のある声をもつ男、草野マサムネ(vo&g)を筆頭に、三輪テツヤ(g)、田村明浩(b)、崎山龍男(dr)から成るスピッツは、91年にシングル「ヒバリのころ」でデビュー。95年に発表したシングル「ロビンソン」(もはやロック・スタンダード!)がブレイク。コアなファンのみならず、一般リスナーからの支持もがっちり獲得した。数々のヒット曲を鑑みると、わりとフォークキーで清潔なギター・ポップ・バンドという印象が強い。マンチェ・ブーム以降のブリット・ロックを彷彿とさせるナンバーから、アグレッシヴにギターが疾駆するパワー・ポップ・チューンまでを幅広く展開する、懐の深さも。滑らかなメロディを隠れみのにしながら、実は男の「身もふたもない理想(男根主義的妄想?)」を主軸にしている草野の歌詞は、スピッツ最大の妙。外では優等生で通っているけど、実はものすごい妄想癖を抱えるパンクロッカー、そんな二面性に着目すると、彼らの世界がよりいっそう見えてくる。

概要

進学のために上京した4人が集まり、1987年に結成。新宿ロフト、新宿JAM、渋谷ラ・ママ、下北沢屋根裏など、都内のライブハウスを中心に活動し、1991年にポリドールよりメジャーデビュー。所属事務所はロードアンドスカイ (2001年よりスピッツのマネジメント事業はグラスホッパーとして分社化)。1995年にシングル「ロビンソン」がロングセラーとなりブレイク。

バンド名「スピッツ」は草野が高校時代から暖めていた名前。草野は「s」に「p」が続く単語 (「special」や「crispy」など) が好きであり、辞書でこの単語を見つけ、発音やその意味 (ドイツ語で「尖っている」「辛辣な」) が気に入ったことから命名された。また、結成当初はパンクバンドであったことから (来歴を参照)、昭和時代に人気があった愛玩犬種日本スピッツに

絡め、「小さい犬ほどよく吠える」という後付の意味も込めている

来歴

1986年 - 1990年

1986年春、東京造形大学で草野と田村が出会い、重音部に入部。先輩で後のフライングキッズのメンバーの演奏に刺激され、まったくジャンルの違うパンクをやることを決意。ドラムに同サークル部員を迎え、チーターズ（水前寺清子にちなんだネーミング）を結成。オリジナル曲もそこに、「365歩のマーチ」をパンクアレンジにしたり、「いちご白書をもう一度」をブラック・サバスにして演奏。途中から草野のギターの負担をカバーするため、ギターを一人加え、バンド名もザ・スピッツに変更される。しかし、後に草野がブルーハーツのインディー・シングル「人にやさしく」に衝撃を受け、やる気を無くして活動休止となる。

1987年に草野が東京造形大学を離れ、武蔵野美術大学に入学したことからバンド仲間とは疎遠になり、ザ・スピッツは自然消滅したが、その後も草野と田村の仲は継続。後に草野がライブハウスでやれる本格的なバンド活動の話を持ちかける。田村は、同じく上京していた幼馴染の三輪を誘い、三輪は文化服装学院で同じフォークソング部に所属していた崎山をヘルプで誘う（崎山はドラムスの腕から、既に多くのバンドを掛け持ちしていた）。この四人でスピッツを結成し、7月に文化服装学院の「夏祭り」にて初ライブを行なう。その後、新宿ロフトを目標に、秋から新宿JAM、渋谷ラ・ママ、下北沢屋根裏などでライブ活動を開始。翌年からはホコ天ライブも行なう。

新宿ロフトに出演するようになった頃、多くのレコード会社からデビューの話が持ち掛けられる。その中には、後にスピッツのディレクターとなる、当時ポリドールの新入社員だった竹内修もいた。しかし、メジャーデビューすることによって自分たちのビジョンが変えられることを恐れていたメンバーは、レコード会社の前に事務所を決めたいと提案。1990年夏、事務所ロードアン・ドスカイ及びポリドールと契約する。

1991年 - 1992年

1991年3月25日、ポリドールよりシングル「ヒバリのころ」と、1stアルバム『スピッツ』を同時リリース。翌月に大阪のFM局FM802では同アルバムから「ニノウデの世界」がヘビーローテーションに選ばれ、音楽専門誌ROCKIN'ON JAPANでは90年代型ニューウェーブと紹介されカラーで扱われる等、一部の業界からは注目を浴びるも、CDはオリコンチャートには入らず。

1992年の4月には、前作『名前をつけてやる』収録の「魔女旅に出る」でオーケストラアレンジを担当した長谷川智樹とタッグを組み、全編にわたりオーケストラアレンジを施したミニ・アルバム『オーロラになれなかった人のために』をリリース。

1993年 - 1996年

メンバーはもともとメジャーに対する憧れが無かったとはいえ、バンド活動の継続と、自分達のビジョンを守ってくれるスタッフへの恩返しのためにも、売れることを意識し始める。その一端として、1993年4月より、初めて外部プロデューサーとして笹路正徳を迎え、レコーディングを開始。加えて同年3月から8月までの計6回、渋谷ON AIR（現ON AIR EAST）にてマンスリーライブ“スピッツの春夏夜会”を敢行。最終公演はチケットが完売する。しかし、その翌月の9月に

リリースした4thアルバム『Crispy!』は結果的に不振となり、草野が自分の書く曲や歌声に自信を無くす事態となる。しかし、同アルバムからシングルカットされた「君が思い出になる前に」が初のオリコンチャート入りを果たし、それまで100人単位でしか増えなかったツアー動員も大幅に増えていった。

1994年の4月と7月には土方隆行をプロデューサーに迎えたシングル「空も飛べるはず」と「青い車」をリリース、スマッシュヒットとなる（この時の「空も飛べるはず」の売上はまだ5万枚程度）。9月には再び笹路正徳をプロデューサーに迎えた5thアルバム『空の飛び方』をリリース、オリコン初登場14位を記録する。

1995年4月にリリースしたシングル「ロビンソン」が初のオリコンチャートTOP10入り、通算30週以上チャートにランクインするというロングセラーとなり、売り上げも162万枚の大ヒットとなる。7月のシングル「涙がキラリ☆」も初登場2位、98万枚のセールスとなり大ヒット。

1996年1月にはフジテレビ系ドラマ「白線流し」の主題歌に「空も飛べるはず」が起用されリバイバルヒット、結果的にはシングル初のオリコン首位、148万枚を売り上げる。同年4月のシングル「チェリー」も161万枚の大ヒット。5月には篠崎ストリングスとの共演ライブ「カゲロウの集い」を東名阪で敢行。9月のシングル「渚」でシングル初の初登場1位を記録。10月には7thアルバム『インディゴ地平線』をリリース。これが笹路正徳プロデューサーとの最後のアルバムとなる。

1997年 - 2001年

『花鳥風月』をリリース。10月に渡米。ロサンゼルスで初の海外レコーディングも行い、マイアミにてミックスダウン、その後、再びロサンゼルスに戻りマスタリングも行う。

2002年 -

2002年3月より、「さわって・変わって」に引き続き亀田誠治をプロデューサーに迎え、本格的なアルバムのレコーディングを開始。9月に10thアルバム『三日月ロック』をリリース。

シングル (CD)

※1stシングル「ヒバリのこころ」から20thシングル「流れ星」までは8cm盤、21stシングル「ホタル」以降は12cm盤での発売。

1st single ヒバリのこころ (1991.3)

2nd 夏の魔物 (1991.6)

3rd 魔女旅に出る (1991)

4th 惑星のかけら (1992)

5th 日なたの窓に憧れて (1992)

6th 裸のままで (1993)

7th 君が思い出になる前に (1993)

8th 空も飛べるはず (1994)

9th 青い車 (1994)

10th スパイダー (1994)

11th ロビンソン (1995)

12th 涙がキラリ☆ (1995)

- 13th チェリー (1996)
- 14th 渚 (1996)
- 15th スカーレット (1997)
- 16th 夢じゃない (1997)
- 17th 運命の人 (1997)
- 18th 冷たい頬／謝々! (1998)
- 19th 楓／スピカ (1998)
- 20th 流れ星 (1999)
- 21st ホタル (2000)
- 22nd メモリーズ／放浪カモメはどこまでも (2000)
- 23rd 遙か (2001)
- 24th 夢追い虫 (2001)
- 25th さわって・変わって (2001)
- 26th ハネモノ (2002)
- 27th 水色の街 (2002)
- 28th スターゲイザー (2004)
- 29th 正夢 (2004)
- 30th 春の歌／テクテク (2005)
- 31st 魔法のコトバ (2006)
- 32nd ルキンフォー (2007)
- 33rd 群青 (2007)
- 34th 若葉 (2008)
- 35th 君は太陽 (2009)

ほかでも書いたが、私は、エンディングに入っても、終らないまま、まだそのまま進行してゆくような感じの曲が好きなのだ。この曲は、まさにピッタリ、ジャストライクである。感動を与えてくれたり、悲しみを慰めてくれる曲は、スガにもたくさんある。あくまで個人的な好み、である。スガは、近年、稀にみる大型な才能である。

(詞・曲 スガシカオ 2006)

夏の日差し乱反射してパレードがやってきた 約束の切なさと同じだけ 今日は騒ごう！ サイフの中のセンチメンタルだけじゃ 全部両替しても足りないんじゃない-----

(収集プロフィール)

スガシカオ(1966～)は、東京都渋谷区出身の男性(シンガーソングライター)東京経済大学卒業。

略歴

1995年、インディーズよりミニアルバム「0101」を発売。その後、現所属事務所であるオフィスオーガスタと契約。

1997年2月、キティ・エンタープライズ(現ユニバーサル)より1stシングル『ヒットチャートをかけぬける』でメジャーデビュー。以後、ラジオ局のヘビーローテーション、音楽専門誌を中心に、業界の注目を集める。同年9月、1stアルバム『Clover』発売。

1998年、SMAPのシングル『夜空ノムコウ』に詞を提供。SMAP初のミリオン。

1999年、杏子、山崎まさよしのユニット「福耳」名義でのシングル、『星のかけらを探しに行こう Again』が発売。

2001年、5thアルバム『Sugarless』発売。オリコン初登場1位を獲得。

同年12月、第57回NHK紅白歌合戦に初出場。『Progress』を演奏。

2009年、FM802主催のミートザワールドビート2009に出演。

*ナイーブだけど豪胆そうなキャラ。黒人音楽が根っ子にありそうだが一筋縄ではいかないカンジ。

*「黄金の月」このへんでまた来そうなシンガー・S・ブーム。その先駆けとなるか。印象的なのはやはりその声。癖が強くせに胸の中に優しくスッと入ってくる不思議な魅力がある。単なるフォーク調で済ませないグルーヴィな音作りも意欲的。

*シンガー・Sにしては珍しくロックの匂いがしない人だ。そしてルーツとなっているのが、マーヴィン・ゲイやPファンクといった70'sファンク及びソウルなのは明らかだ。

*「FAMILY」胸に迫りくる言葉。心の扉にかけた鍵をこじ開け、ドロドロした内面を刺激してくるファンキーなサウンド。聴き手の心にやるせない痛みを残す。リアル、という言葉が今一番似合う。

*「あまい果実」お得意のミディアム・ナンバー。チャゲアスばりの壮大壮麗な展開を後半見せるものの、特有の「暗い狭い湿っぽい」感じはやっぱりこの人ならではの。

*「Sweet」巷の意見では「ポップになったね派」と「よりディープになったよ派」と分かれているようだが、そのこと自体がこのアルバムの懐の広さを物語っている。どちらにしる彼独自の

グルーブ感や自由度より強化され、ポテンシャルも圧倒的にアップ!

*「SMILE」プリンスもシットするかもしれない柔軟性たっぷりの硬派なファンク。じんわり染みるバラードの芯にもファンクの汁がじゅわ。切なさとともに付き合う力量の確かさは稀有。

ぎゅっと圧縮したのち大胆に引き算したかのようなサウンド実験各種も興味深い。

*「TIME」変質性と執着性をさらりと唄う妙に加え、明るく華やかに移ろう完成度の高いメロディに敬服。洒脱に突き抜けちゃうんだ、厭味もケレン味もなく。構築される楽曲世界のインパクトに、思わずヘヴィ・ローテ。

*高揚感を駆り立てる夏にふさわしいアッパー・チューンとなったタイトル曲「Party People」

*「FUNKAHOLIC」タイトルどおりにファンクが音の核になっているが一番耳に残るのは優しいヴォーカルで、曲ごとにさまざまな人と丁寧に制作して繊細なポップに仕上がった。スガのストイックなギターも聴きどころ。

*「フォノスコープ」聴き手の意識にすんなり入り込んでいくキャッチーなサビ・メロ、縦横無尽に響かせるファルセット&フェイク、スガ節の魅力をふんだんに盛り込んだグリッターなシングル。

*「ALL SINGLES BEST」ジャパニーズ・ファンクの礎を築いた男の軌跡に、感嘆するばかり。

*97年デビュー、翌98年にリリースされた『FAMILY』でブレイク。大半をデジタルで創りながらどこか生の感触がするサウンドを展開し、ブレイク・ビーツっぽい音処理が施されたりズムにエレピ/オルガン/ワウ・ギターが絡む様は、“ニュー・クラシック・ソウル”との共通項も。歌詞における「町内会」「転勤」「課長」といった小市民的な言葉選びも、彼の人柄を彷彿させる。そして何よりもハスキーな声! 曲間での「ウー、イエー」、歌に入る前の「アーッ」などが、たまらなく黒っぽく色気を放っている。近年では、ミッチェル・フルーム的な打ち込みで泥臭さを押し出すカラーも取り入れる。

人物

サラリーマン時代、クリエイティブな職業のため楽しくやっていたが、ミュージシャンを目指すため退社を決意した際、上司から「昇進させるから辞めないでくれ」と説得された。ただ、給与規定を見たところ係長になっても給料は月700円上がるだけであり、自分の価値はそんなものかと思ひ、辞めたという。サラリーマン時代の経験が役に立ったこととして、企画書を書く仕事においてスガの女性上司が「自分の作品をかわいがり過ぎるな」と言っていたことを挙げた。

歌手として軌道に乗るまでは経済的に窮迫し、「(家におかずになるもの、味のするものが何もなくて)一度だけご飯に胃薬をかけて食べた」とインタビューや『Music Lovers』で告白している。その後4年くらいひっきりなしに仕事に来て、合間に作った2ndアルバム『FAMILY』で高い評価を得る。

ヘビースモーカーであったことは有名であり、1日2箱半以上吸っていたが、2002年3月より禁煙。

音楽性

ファンクやソウルミュージックをバックボーンとしたサウンドメイキングと、男心を赤裸々に書いてリアルに言葉が迫ってくる歌詞が特徴。

歌詞は考えると理屈っぽくなってしまいうので、何も考えないで書く。特にまじめじゃない歌詞は酒を呑みながら4時間くらいで書く。4時間を超えるとべろべろに酔っ払う。酒が入ってないと自分を守ろうとしてしまい、カッコつけてしまう。

デビュー当時から、そのざらついた感触の、だが良い意味で耳に残る声がラジオ業界を中心に注目される。初期の頃は大人の女性を中心に人気を獲得、ライブ会場の客層も女性が大多数を構成。近年では「エッジの効いた」作詞で男性ファンも増加。

作家の村上春樹のファンであり、その作品に影響を受けている。また、戦後の代表的な詩人である鮎川信夫にも影響を受けたという。

最も影響を受けたのはFLYING KIDSだと公言。特にファーストアルバム『続いてゆくのかな』が出た直後「自分のやりたかったことを全部やられた」とショックを受けて、1年程音楽活動から遠ざかったという。

エピソード

UFOに多大な興味があり、必要以上に造詣が深い。今までに何回かUFOを目撃している。

スガの主張は、以下の通り。

浦島太郎は宇宙人で亀はUFOである、という説がお気に入り。

ミニ・アルバム（インディーズ）

0101(1995年)

やがて

あいとはいったい

愛について

愛について(Original Demo Tape)

TOWER RECORDSオリジナルレーベルDIG UP LABELより発売

シングル

1st ヒットチャートをかけぬける 1997年 2月

2nd 黄金の月 1997

3rd ドキドキしちゃう 1997

4th 愛について 1997

5th ストーリー 1998

6th ぼくたちの日々 1998

7th 夜明けまえ 1999

8th あまい果実 1999

9th SPIRIT 2000

10th AFFAIR 2000

11th 8月のセレナーデ 2001

12th 青空/Cloudy 2002

13th アシンメトリー 2002

14th サヨナラ/気まぐれ 2003

15th 秘密 2004

16th クライマックス 2004
17th 光の川 2004
18th 奇跡/夏陰/サナギ 2005
19th 19才 2006年 4月26日
20th 真夏の夜のユメ 2006
21st 午後のパレード 2006
22nd フォノスコープ 2007
23rd NOBODY KNOWS 2008
24th コノユビトマレ 2008
25th Party People 2009
オリジナルアルバム
枚 タイトル
1st Clover 1997
2nd FAMILY 1998
3rd Sweet 1999 3位
4th 4Flusher 2000
5th SMILE 2003年 5月7日 2位
6th TIME 2004
7th PARADE 2006 3位
8th FUNKAHOLiC 2008
その他
Sugarless (2001) 1位
主な曲
あまい果実
夜明けまえ
愛について
AFFAIR
アシンメトリー
正義の味方
黄金の月
夜空ノムコウ
気まぐれ
青空
SPIRIT
ストーリー
Thank You
Disc-1
午後のパレード

真夏の夜のユメ

19才

奇跡

夏陰～なつかげ～

サナギ～theme from xxxHOLiC the movie～

光の川

クライマックス

秘密

サヨナラ

アシンメトリー

青空

Cloudy(アルバムには初収録となる)

Disc-2

夜空ノムコウ(additional track)

8月のセレナーデ

AFFAIR

SPIRIT

*SMAP(ビクター)

『ココニイルコト』（作詞・作曲・編曲）『SMAP 011 ス』収録

『夜空ノムコウ』（作詞）CW『リンゴジュース』（作詞・作曲）（ミリオンセラー）

森高千里(アップフロント)

『たんぽぽの種』（作曲・編曲）『Sava Sava』収録

『まひるの星』（作曲）

KAT-TUN(J storm)

『Real Face』（作詞）（ミリオンセラー）

嵐(J storm)

『アオゾラペダル』（作詞・作曲）

今春、突然メンバーが倍増して、その賛否で賑わった。私も、はじめ戸惑ったが、今回のプレスサーチで、その結びつきの深さが分かってきたようだ。とまれ、アーティストとしての仕事は、以降も順調で、見慣れてきたせいも、違和感は徐々に薄らいできた。

(詞・K. Matsuo 曲・Jin N/Kiyoshi M)

日曜日の夜はベッドが広い眠らない想い抱いたまま朝を待つ 帰る場所があるあなたのこと
好きになってはいけない----

(収集プロフィール)

EXILE (エグザイル) は、日本の音楽 (J-POP) とダンスパフォーマンスの融合を目指す14人組のヴォーカル&ダンス・ユニット。「総合エンターテインメント・グループ」と紹介されることもある。音楽に留まらず雑誌・アニメ・劇団・アパレルなど活動を自己制作とする。俳優などのソロ活動をするメンバーもいる。

*昨今、R&Bシーンでは男性アーティストも活躍、そのスタイルはロー・ビートでじっくり聴かせるタイプが中心。そんな中であって、「歌」と「踊り」の融合によりダンス・ミュージック本来の躍動感や楽しさを鮮やかに表現しているグループ、EXILE (J Soul B.から改名)だ。

パワフルかつアッパーに切り込むヴォーカルは汗がほとばしるようなヴァイブを放ち、ファンク・オリエンテッドなサウンドはボトムの太さでダンサー心を昂ぶらせる。はたまたミディアム～スロウでは、情熱的かつ美しいコーラスによって、ソウルフルな雰囲気を出し、彼らの表現力は無限のポテンシャルを秘めている。

2001年～ 第一章

1991年、ダンスグループ「ZOO」のメンバーだったHIROが「JAPANESE SOUL B.」を結成し、さらに「BABY NAIL」等で活動していたダンサーMATSU、USA、MAKIDAI、RYUZY、NORIが加入した。この時点ではボーカルはいない。

2001年9月、デビューシングル『Your eyes only～曖昧なぼくの輪郭～』を発売。ドラマ挿入歌に起用され、オリコン最高4位を記録。さらに2003年の2ndアルバム『Styles Of Beyond』は自身初のオリコンチャート1位を獲得。3rdアルバム『EXILE ENTERTAINMENT』がミリオンを達成、『NHK紅白歌合戦』に初出場。

2004年6月、15thシングル『real world』において自身初のシングルチャート1位を記録。

2007年～ 第二章

2006年6月、5人目のパフォーマーとしてAKIRAを加えた。同年9月22日、参加者約1万人に及ぶオーディション「EXILE Vocal Battle Audition 2006～ASIAN DREAM～」において優勝を飾ったTAKAHIROが新ボーカリストとして加入。

2007年2月発売の23rdシングル『道』、3月発売の5thアルバム『EXILE EVOLUTION』は共にオリコン1位を獲得。

2009年～ 新生EXILE

2009年3月1日、「EXILE GENERATION」の全容を発表。2代目J Soul B.の7人を新たに加え14人となって新生EXILEをスタートさせた。

パフォーマー

HIRO

ヒロ、神奈川県横浜市、1969年6月-

リーダーで、所属事務所LDHの社長。所属アーティストのマネジメントからダンススクール、アパレルブランドの運営まで、ビジネスの舵取りを担う。元ZOOのメンバー。「絶対負けねえ」が口癖。

高校を卒業した後、1989年に、テレビ番組「DADA」のダンスコンテストで、LMDに参加した。結果HIROは準優勝を飾り、そのコンテストを観ていたスカウトに声を掛けられ、ZOOの一員となる。

1990年にリリースしたシングル「Careless Dance」でデビュー。当時のダンサー達の生活ぶりは「フリーターよりもヒドい」と、卑下されるほど。しかし、翌1991年に「Choo Choo TRAIN」がミリオンヒットしたことで、状況は一変。ダンスが日本に認められ始め、ZOOはスターダムの頂点に君臨する。しかしながら1995年、メンバー内にギャラの格差、仕事の進め方、待遇の違いなどに対する不満が爆発し、ZOOは解散。

HIROは「落ち目の人間に世間は冷たい。芸能界的に言えば俺は死んだも同然だった」と話していた。当時のボーカルであったSASAが「作詞・作曲家としての活動に専念したい」という理由で、脱退。

MATSU

マツ、神奈川県川崎市、1975年5月-

HIROに影響され、16歳のときダンスに出会い、18歳のとき本格的に始めた。1996年、ダンスチーム「BABY NAIL」結成。1998年、「J.S.B」加入後「J Soul B.」のメンバーとなる。

MAKIDAI

マキダイ、神奈川県横浜市、1975年10月-

中学3年生のときの文化祭にてダンスに目覚める。10代の頃から「アンダーグラウンド・ストリート・キッズ」というグループを結成し、都内の駅前で踊っていたという。HIRO曰く、「BABY NAILイチのダークホース」。ZOOのメンバーが講師をしていたダンススタジオの生徒で、高校生の時からよくクラブやディスコに出入りする。神奈川大学経済学部に入學するも2年で中退。1996年、MATSUと共に「BABY NAIL」を結成、ニューヨークへ留学しダンスの修養を積む。Hip Hop/R&Bに精通しており、クラブDJとしての顔も持つ。ニューヨークに渡っていた頃、語学学校に行っていたため、英語が堪能である。

USA

ウサ、神奈川県横浜市、1977年2月-

「BABY NAIL」加入後、「J.S.B」加入。「J Soul B.」のメンバーとなる。

AKIRA

アキラ、静岡県磐田市、1981年8月-

子供の頃はサッカーに熱中した少年であった。

ダンスを始めたのはHIROに憧れたのがきっかけで、16歳から本格的に始めた。長い手足を使った

パントマイム系のダンスを得意としている。渋谷のクラブで踊っていた時にそれを偶然見ているMAKIDAIとUSAの目にとまり、「Rather Unique」のパフォーマーとして加入した。

KENCHI

ケンチ、1979年9月-、神奈川県横須賀市出身

上地雄輔と幼いころからの友達である。メンバー曰く「器用な性格」とのこと。ダンス甲子園をTVで見て、自分も踊れるようになりたいと思い、18歳の時からダンスを始める。

キマグレンは地元の後輩である。

KEIJI

ケイジ、1980年1月-、宮城県出身

初代J Soul B.に憧れを抱き、19歳よりダンスを始める。23歳の頃に「EXILEみたいなアーティストになりたい」という思いから上京を決意。上京後、ダンススクールに通い、ストリートでも連日朝までレッスンに励む。

TETSUYA

テツヤ、1981年2月-、神奈川県横須賀市。

俳優である上地雄輔と幼いころからの友達。水泳が得意。19歳よりダンスを始める。

NAOTO

ナオト、1983年8月-、埼玉県所沢市出身。

高校3年生のとき、ダンス部の部長になったのをきっかけにダンスに目覚める。スクールには通わず、ビデオを見ながら、独学でダンスの練習を行った。

NAOKI

ナオキ、1984年11月-、千葉県印西市出身。

メンバーに「NAOKIは腹筋が凄いんですよ」と言われ、テレビでよく披露している。首を使った倒立も特技。

ヴォーカル

ATSUSHI

アツシ、埼玉県越谷市、1980年4月-。

4歳より高校卒業時までクラシックピアノを習う。中学の頃から周りに「歌が上手いな」と言われていたという。

坊主頭にサングラスがトレードマーク。理由として、格好をつける自分に嫌気がさしたからと述べている。

2005年の終わり頃から喉の酷使により、ポリープを患い、SHUN脱退後から第二章開幕の間に手術を受ける。ATSUSHIはSHUNの口から脱退を告げられたとき、不安に苛まれ酒を飲まなくては寝られない日々が続いた。努力家で完璧主義者である。

TAKAHIRO

タカヒロ、長崎県佐世保市、1984年12月-。

沖縄空手を12年やり、有段者。高校卒業後は両親が経営する美容室を継ぐために福岡美容専門学校に入学。書道8段。

NESMITH

ネスミス、1983年8月-、熊本県出身。

アフリカ系アメリカ人の父と日本人の母親を持つ、黒人のハーフである。幼少期には肌が黒いこともあり、心ない言葉も浴びせられた。2006年4月、『追伸』で“NESMITH”としてソロデビュー。

SHOKICHI

ショウキチ、1985年10月-、北海道苫小牧市出身

「凄いヤツがいるな、会ってみよう」とパフォーマー達がSHOKICHIに声を掛けたことから、新生J Soul B. VOCALオーディションの話が舞い込む。そして、2007年1月、J Soul B.メンバーに決定し、念願の歌手としてのデビューが決まった。

*初めの頃の給料は、15万円プラス歩合。J Soul Brothersでの売れなかった時期は、給料は6~10万位で、観客0人で生活に困窮。

シングル

2001年

1st 9月 Your eyes only

2nd Style

2002年

3rd Fly Away

4th song for you

5th Cross~never say die~

6th EX-STYLE~Kiss You~

2003年

7th We Will~あの場所で~

8th Breezin'~Together~

9th LET ME LUV U DOWN feat.ZEEBRA & MACCHO (OZROSAURUS)

10th Choo Choo TRAIN

11th Eternal...

12th ki・zu・na

13th O'ver

2004年

14th Carry On/運命のヒト

15th real world

16th HEART of GOLD

17th HERO

2005年

18th EXIT

19th ただ...逢いたくて

2006年

20th YES!

21st Everything

2007年

22nd Lovers Again

23rd 道

24th SUMMER TIME LOVE

25th 時の描片～トキノカケラ～/24karats

26th I Believe

2008年

27th Pure/You're my sunshine

28th The Birthday～Ti Amo～

29th LAST CHRISTMAS

2009年

30th THE MONSTER～Someday～

31st THE HURRICANE ～FIREWORKS～

松崎のカヴァー「愛のメモリー」では、鼻息まで聞こえて来るような、苦しそうに唄う感じが面白かった。下手ではないが、上手いとも言にくいレベルの歌手である。「バラ色の人生」「フィアンセになりたい」「今夜、桃色クラブで」「抱かれない男」など、ダンス音楽風だったりカーニバル風だったり、ときにトリッキーだったり、華やかで騒々しく、まるで万華鏡のようなテイストが面白い。

(詞・曲 及川光博)

(死んでもいい) 楽しく楽しくイエイエイエイエイエイエ 楽しく楽しくイエイエイエイエイエイエ
たまにしか出さない 甘えた声が ワシづかみするのです ボクの心臓を イタリアンディナーも 港の夜景も キミの好奇心----

(収集プロフィール)

及川 光博(おいかわ みつひろ 1969年10月-)は東京都大田区出身のミュージシャン、シンガーソングライター、俳優。成城学園中学校・高学、成城大学法学部卒。

キャラクター

愛称はミッチー。同時にこれを「職業」とも自称。

長所は「理想主義」で、短所は「完璧主義」と自ら語る。彼は普通、所属事務所が行うタレントとしてのプロデュースを、自らが指針を決め行う。また歌手としてはライブのコンセプト、構成、演出、振り付けなどすべて自らが案を出し取り仕切る。

また、彼はファンを大切に、ファンからの手紙、メール、そしてコンサートの開演前にファンに配られるアンケートなどには、時間が無くても及川自ら目を通す。女性のファンを「ベイビー」、男性のファンを「男子」と呼ぶ。

俳優業など、他の仕事がどんなに多忙でも、毎年の全国ツアーは欠かさない。ツアーライブは自らの「生き様発表会」としている。彼のコンサート・ライブは観客を巻き込み、ファンが踊りまくることで有名。ファンがポンポンを持参しそれを持って踊ることが恒例となっている楽曲「死んでもいい」。また、ライブ参加の際にはファンがコスプレをすることも多い。一概にアニメのコスプレというわけではなく、白衣やメガネといったコスプレが多い。白衣が多いのは、初期の及川の中の人格のキャラクターに「精神科医」というものが存在していた為。

初期の頃には、自分の中には7人の人格がいるとし、それぞれのキャラクターを演じていた(実際には7人以上のキャラクターがいた)。楽曲にも登場している花椿蘭丸は、その一人。その他は、振り付け師や精神科医などがいた。現在では、それぞれの人格は統合され、及川光博として存在していると、本人は語っている。

*見目麗しい容顔と育ちのいい物腰で、歌と踊りを巧みにこなし、時には意表を突くジョークを連発して婦女子の羨望をひとりじめする。うーん、まさにかつての少女マンガの中でしか出会えなかったような男性像。レイト90'sに、「職業=王子様(←しかし98年にさらりと王子廃業宣言)」として突如現れた及川光博は、まさしくそういう青年。

96年にシングル「モラリティー」でデビュー。以降、「東京ファンク」なるテーマを掲げて、アルバム『理想論』(96年)、『嘘とロマン』(98年)、『欲望凶鑑』(99年)の3部作を完成させる。ソ

ウルファンク(オマー・ハキム、ウィル・リーといった名うてのプレイヤーとも共演経験あり)に接近しつつも、歌メロは一貫して黄金期歌謡曲のテイストを誇示し、〈マニャックとキャッチー〉の狭間を行き来するような世界観を築いた。

また、"ノン・カテゴライズ"というポリシーのもと、音楽活動以外に声優/役者(舞台・ドラマ・映画)にも進出し、テレビドラマ『白い巨塔』『ミステリー民俗学者 八雲樹』のほか、映画『春の雪』『キューティーハニー』など代表作多数。果ては『続・欲望凶鑑』なる写真詩集でオール・ヌードまで披露、世間の度肝を抜いた。

広範囲で活躍するアーティストだが、あまたの付け焼き刃的マルチ・タレントとは一線を画す。なぜなら「自分」という素材が他人より恵まれていることを熟知しながら、さらにひとつの素材として冷静に自己プロデュースできるからだ。ステージ上での演出やブラウン管での一挙手一投足、及び発言に隙がないことから、それは十分に窺い知れるだろう。ミッチーのあまりある自己愛は、そんじょそこらのナルシストとは偏差値の高さが俄然異なるのだ。

*「FUNKASIA☆」2曲目にDANCE☆MAN作曲の「Shinin' Star」を持ってくるミッチーのアルバムは、ポップでエレガントなダンス・ミュージックが目白押し。ブラック・ミュージックをリスペクトしたソウルフルなタッチで、ミッチーの世界観にマッチングし豪華絢爛に。

*「ゴールドシンガー」役者としての活躍が目立つミッチーが贈る、昭和「センチメンタル」歌謡曲カバー・アルバム。布施明や郷ひろみのハマりっぷりはもちろん、C-C-Bやチェッカーズを持ってくるあたりはさすが80's謳歌世代。

*「愛のメモリー」（詞：たかたかし/曲：馬飼野康二）松崎しげるのヒット曲をエレガンスかつピュア、そしてスタイリッシュにカバーした、デビュー10年目第1弾シングル。吸い込まれそうな三白眼とムンムの熱気で迫るミッチーの、過剰なぐらいの愛がしっとり染み込んだ、大人のための歌謡ラブ・ソング。

*「光」。「S.D.R.」から「バラ色の人生」まで、95～2000年までの代表曲14曲を本人がセレクト。ビジュアルが魅力の彼ならではのスペシャルDVD。

*「RAINBOW-MAN」TVアニメ「バトルスピリッツ少年突破バシン」オープニング曲の「GO AHEAD!!」、ロックな「ポン酢・ポンザー・ポンゼスト」、バラード「運命のひと」をはさみ込み、ミッチーにしては抑え気味ともいえる、アダルトなソウルファンク・チューンで構成したアルバム。とはいえ、キラキラ感とセクシーさは期待どおりの一枚といえる。

*「Sparkling Girl」約3年ぶりのシングル。メイン・ソングである「Sparkling Girl」はタイトルもその内容も、彼らしい明るくはじけた夢に満ちたラブ・ソングで、「Shinin' Star☆」とともに軽快なダンス・ナンバー。

「王子」という呼称について

デビュー以来、自らを「王子」と名乗っていたが、1998年8月22日、富士急ハイランドコニファーフォレストで行われたワンマンショー「魔宮の聖戦」で「王子」を辞めることを宣言。当時の王子ブームも手伝って、安易に「王子、王子」と括られてしまう（主にマスコミにより）ことを嫌がったようである。

ヒストリー

学童時代、「町内会の喉自慢コンテストではいつも優勝していた」とファンクラブイベントの温泉ツアーで自ら語っていたことがある。小学校ではいじめられていたそうだが、児童会長を務めていた（父はPTA会長だった）。中学時代はバスケット部に所属。この中学時代、バレンタインデーに廊下の端から端まで歩くと両手に持ちきれない程大量のチョコレートを女子から贈られ、翌日にクラスの男子全員から無視されるという悲しくも笑えるエピソードをTV番組『おしゃれカンケイ』で本人が語っている。高校時代はグラウンドホッケー部に所属し、キャプテンも務めていたと同時に、女子ダンス部のコーチも務めていた。大学時代は更に様々なサークルに所属し、マルチな才能を開花させていった。

カウントダウンライブのコスプレ

毎年、大晦日に行われるカウントダウンライブ「ゆくミッチーくるミッチー」のオープニングでもコスプレで登場している。披露しているのはシャアをパクった「赤い彗星のニャア」をはじめとし、『サイボーグ009』、『宇宙戦艦ヤマト』、『ルパン三世』（緑のジャケットバージョン）、『ガッチャマン』、『ベルサイユのばら』など、主に1970 - 1980年代に一世風靡したアニメ作品のもの。

美意識

独特の美意識を持っており、ライブでの衣装やセットはどれもそのツアーのコンセプトに合った芸術性の高いもの。しかし、ライブに飛び入り参加した唐沢寿明に、「カーテンみたいな柄だ」と着ていた服を評され、ショックを受けていた。

プリンスと及川

プリンスの大ファンである。好きな曲は「Sexy Dancer」。コンサートのアンコール曲としても有名な「S.D.R.」はプリンスの「D.M.S.R.」へのオマージュと思われる。

ミュージシャンとして

シングル

S.D.R（自主制作盤）

※「S.D.R.」は「真理・道徳・理想論」のそれぞれの単語の頭文字。

モラリティー（1996年5月、東芝EMI）

求めすぎてる?僕。（1996、〃）

悲しみロケット2号（1996、〃）

三日月姫（1997、〃）

その術を僕は知らない（1997、〃）

フィアンセになりたい（1997、〃）

僕のゼリー／今夜、桃色クラブで。（1998、〃）

バラ色の人生（1999、〃）

パズルの欠片（2000、〃）

CRAZY A GO GO!!（2000、〃）

ココロノヤミ（2001、〃）

天使のうた（2001、〃）

強烈ロマンス（2002、ワーナー）「ミツキヨ」名義。忌野清志郎とのユニット。

ラブソング (2003、＼)

愛のメモリー (2005、TRICKSTAR)

家庭内デート (2006、＼) 「やな家」名義。斉藤由貴との音楽ユニット。

Sparkling Girl (2008、TRICKSTAR)

アルバム

理想論 (1996、東芝EMI)

嘘とロマン (1998、＼)

欲望図鑑 (1999、＼)

ニヒリズム (1999、＼) ベストアルバム

聖域～サンクチュアリ～ (2001、＼)

禁猟区～サンクチュアリ～ (2002、＼) ライブアルバム

流星 (2002、ワーナーミュージック・ジャパン)

愛と芸術の日々 (2003、東芝EMI) スペシャルCDボックス

セルロイドの夜 (2003、Project-T) 「東馬 健」名義。

ヒカリモノ (2004、ワーナーミュージック・ジャパン)

GOLD SINGER (2004、TRICKSTAR RECORDS/喝采) カヴァーアルバム

夜想曲～ノクターン～ (2005、＼)

FUNKASIA☆ (2007、＼)

映画

少女革命ウテナ アドゥレセンス黙示録 (1999年) - 鳳暁生 役 (アニメ映画。劇場版で声優として)

漂流街 (2000年) - コウ 役

連弾 (2001年) - 谷村正樹 役

天国から来た男たち (2001年) - 柏木 役

盲獣VS一寸法師 (2002年) - 露屋 役

1980 (2003年) - 東馬健 役

キューティーハニー (2004年) - ブラック・クロー 役

CASSHERN (2004年) - 内藤薫 役

IZO (2004年) - 沖田総司 役

春の雪 (2005年) - 洞院宮治典王 役

明日の記憶 (2006年) - 吉田武宏 役

日本沈没 (2006年) - 結城達也 役

大奥 (2006年) - 間部越前守詮房 役

20世紀少年第1章 (2008年) - ロックバンドのボーカル 役

クローンは故郷をめざす (2009年) - 初主演映画 高原耕平とそのクローン2体 計3役

プライド (2009年) - 神野隆 役

舞台

毛皮のマリー (2000年、寺山修司原作・美輪明宏主演演出)

昨深夜、鈴木一平を10曲聴いたあと、龍雲を7曲聴く。私は俗っぽいド演歌系も大好きだが、このラインのような、静謐で思慮深い世界を基調とした、抒情派・社会派・純情派も好きなのだ。さてこの曲は、現在のフリーター・派遣切りなどの現実を先取りしたといわれる作品。聴いていると、雇われる者、弱い立場の圧迫される者、強い術を持たない者などの、苦しみや嘆きが、ありありと浮かんで来るようだ。私も勤めていた頃、この立場に近かったので、かつての怒りや憎しみが、ありありと甦ってしまうのだ。私は30数年、少しの努力と、我慢と辛抱を続けて、やっと何とか年金生活に倒れこんだ。でも、その前に倒れ傷ついて、自殺したり、精神を破壊されてしまう、多くの人々。私の身近でも、10人以上の犠牲者が浮かぶ。個人の力ではどうにもならない問題だけれど。

通いなれたこの道も今日限り 桜の咲くころ楽しみだった 机の荷物を片付けたなら
あとは帰るしかなかった ねぎらいもなく 肩をたたかれ 冷たい風の中放り出されて たと
えわずかな一滴の雨でも 海に捧げた命は---向けようのない怒りとともに 言いようのないほど
虚しさ覚え 人は時代にもてあそばれながらも 愛する者を守るため 生きてゆく生きて----
(収集プロフィール)

永井 龍雲（ながい りゅううん、1957年11月-）は福岡県豊津町出身のシンガーS。福岡県立豊津高校卒業。

略歴

中学時代より、フォーク愛好会を作り音楽活動を開始。高校卒業後、大学受験に挑むが、挑戦した4つの大学受験全てに失敗し、本格的にミュージシャンを目指すこととなった。

1978年キャニオンレコードより「想い」でデビュー。1979年5枚目のシングル『道標（しるべ）ない旅』がCMソング効果もありスマッシュヒット。1989年五木ひろしの『暖簾』の作詞で第22回日本作詞大賞「優秀作品賞」受賞。1992年日本コロムビアに移籍。有名なビートたけしのオールナイトニッポン木曜1部後の2部の担当をしていた。

杉田二郎40周年記念ベストアルバムに、作詞した曲が含まれている。

*地味な活動を続けるうちに、何やら時代が勝手にこの人にすり寄ってきたみたいだ。個人的には中西康博のアレンジの方が龍雲らしいかなと思う。

*「龍雲/発熱」79年発表の2ndアルバムがこれ。女々しいと言われるほど切ない気持ちを素直に歌っている。キュンと胸をしめつけられる思いを、龍雲の優しくのびるヴォーカルはロマンチックに伝えている。「砂浜」には妙に懐かしく思えるポップ感覚が活かされていたのを確認。

*「龍雲ファースト」叙情派フォークを歌い続ける永井。澄んだ美しい声で、時に淡々と、時に明るく歌うさまは今も魅力的だ。それにしても、このサウンドのアナログ感は、今はどうやっても出せないだろう。

*「激流」ポップコン出身のシンガー・ソングライターの97年の作品。超ベテランとしていい意味で「変わらない」日本のフォークの世界を聴かせる。「こういう歌しかうたいたくない」という意志を、ムダのないバックアップが支える。

*「夢は眠っていないか？」作家としても活躍するシンガー・ソングライター、永井龍雲のシン

グル。作詞を音楽評論家の富澤一誠が、作曲を自身が手がけたナンバーで、団塊の世代に向けたメッセージを細やかなヴォーカルに乗せて表現している。

*「カトレア」龍雲と同世代の中年にさしかかった夫婦の情感が静かに歌われていく。青春の想い出と過ぎ去った歲月への戸惑いを何気ない情景に託して歌っているいくつかの歌。青春時代には想像さえできなかった中年になった自分の想いがさり気なく歌われる大人の歌。アルバムは、デビューして17年になる龍雲も、さすがに洗練されてきたよう。優しさを分かりやすい形にして提示している。ここでも、さまよう青春の尻尾を切り捨てられないでいる歌をうたっているのが、龍雲らしい。軟弱さの彼方に必死さが垣間見えるのだ。

シングル

想い (1978.3)

星月夜(1978)

ひと握りの幸福 (1978)

つまさき坂 (1979)

道標 (しるべ) ない旅(1979)

悲しい時代に (1980)

儂 (ゆめ) 物語 (1980)

桜桃忌～おもいみだれて～ (1981)

カリフォルニア伝言 (1981)

たそがれ (1982)

マイ・ハート～虹を追う二人～ (1984)

ハート・ブレイク (1984)

いとしき人よ語れ (1985)

駅から始まる物語 (1986)

今度 生まれて来るとしたなら (1992)

捨て猫 (1993)

飛鳥 (1994)

真夏のカクテル (1994)

恋の花 (1996)

帰郷 (1996)

蘇る夏 (1997)

夢の灯り (1998)

当世酒場唄 (1999)

鳥のようなもの／遠い人 (2002)

セイリング マイ ウェイ／君よ 強くなれ (2002)

アルバム

龍雲ファースト (1978.5)

発熱 (1979)

暖寒（1979）

夜・風・雨（1980）

風炎（1981）

風のカクテル（1982）

STAND BY（1984）

或る時（1985）

砂漠（すな）の道（1992）

捨て猫 ～トルバドールを気取って～（1993）

カトレア（1994）

激流（1997）

龍雲ベスト'97（1997）ベストアルバム

永井龍雲 唄語り「酒」（2000）

Slow down（2001）

永井龍雲ベスト・コレクション 龍雲1978～1986（2002）ベストアルバム

25色の肖像（2002）

風樹（2004）

沖縄物語（2006）

二人とも、その若さからは考えられないほどの、驚異的な歌唱力である。そして歌唱面からの、曲の構成力も凄いスゴイ、と言うしかない。二人の掛け合いも心地よく、とても良いコンビネーションだ。曲自身も、ファンキーでエターナルなブライトリーに乗って、心地よく軽やかだ。

(詞・曲 MIRIYAH&SHOTA)

君に出会えてよかった 切ないけれどよかった ひとりの夜もそばにいてくれた 世界にたったひとりの君に出会えてよかった 思い出は 夜の空 星になり 輝くよずっと孤独だった 壊れた心の---深夜0時過ぎの 街に1人きり泣きたいのに強がってる さっきの喧嘩 思い出して 自分に苛立って----

(収集プロフィール)

清水翔太 (しみずしょうた 1989~) は、大阪府出身のR&B歌手、ソングライター。

2008年2月、「HOME」でデビュー。

略歴

カラオケ店を営む祖母の元で、3歳の頃からカラオケで唄を歌い始める。中学時代には、学校になじめず引きこもりをしていたこともあった。

卒業後には、地元大阪の音楽学校「キャレス大阪校」でゴスペルを学ぶ。この頃、ソウルミュージックに魅せられたことをきっかけに作詞、作曲などのソングライティング、アレンジを行うようになる。

2006年7月、読売テレビとソニーによる全国ボーカリストオーディションに参加し、ファイナルまで残る。その後、ソニーと契約、デビューを果たした。

地元・大阪のスクールでゴスペルを学び、ソウル・ミュージックに魅せられたことをきっかけに、作詞・作曲、そしてアレンジまでこなす天才肌のシンガー・ソングライターにまで成長する。時に力強く、時に儂く歌い上げ、感情豊かな歌唱からラップまでこなせる日本では稀有なマルチな存在だ。因みに尊敬するアーティストは、ダニー・ハサウェイ、マーヴィン・ゲイ、レイ・チャールズ。

07年秋、ニューヨークの音楽の殿堂「アポロシアター」のステージに平成生まれの日本人として初めて出演。地元の新聞から「日本で最もセンセーショナルな歌手になる」と絶賛される。そして08年3月、ソニー傘下のレーベルから、「HOME」でメジャー・デビュー。10代の男性シンガーソングライターとして史上初のオリコン初登場5位を記録。リリース記念で行われた地元・大阪でのフリー・ライブでは約4,000人を動員する快挙を成し遂げた。同年6月、遂にニューヨークから招待という形で、セントラルパークに3万人を動員した『JAPAN DAY』のステージに登壇。地元のニューヨーカーはもちろん、アメリカの有名アーティストらも観覧に訪れた。

*「HOME」平成生まれのシンガー・ソングライター、清水翔太のデビュー・シングル。自分を支えてくれる大切な人や場所(HOME)についての、実体験から発せられた感情描写が涙を誘う渾身の仕上がりだ。

*1stアルバム『Umbrella』をリリースし、平成生まれ初のオリコン週間2位を記録。そして、2度目となるアポロシアターのステージに立ち、ニューヨークハーレムの目抜き通りに『SHOTA

SHIMIZU』の文字が躍った。

*「アイシテル」（若き愛の痛み）をテーマに贈るラヴ・ソングで、ノスタルジックな歌詞やメロディは夕暮れの切なさのような印象を残す。

*「My Treasure」2008年のデビュー曲「HOME」、続く「アイシテル」とヒット連発しているシンガー・ソングライターのサード・シングル。R&Bテイストのサウンドに乗って、日常生活の心象風景をストレートに唄っているところに好感。夢は叶っても叶わなくても、がむしゃらに頑張っている「今」がいつか宝物になる、というメッセージが込められた感動のナンバーだ。

*「美しき日々よ」ピアノの旋律が美しい、別れの季節にぴったりの切ないラヴ・ソングに仕上がっている。唯一無二の「声」を全面に押し出した楽曲だ。

*「Umbrella」平成生まれのJ-R&Bシンガーのファースト・フル・アルバム。素直でゴージャスなメロディはもちろん、自分の喜びや悲しみをダイレクトに語る日本語リックが何よりチャームング。この若さでなければ歌えなかった経験や記憶をシンプルに歌い上げた佳作。

音楽活動

デビュー以前

2007年7月発売の童子-Tの楽曲「One Love」にゲスト参加。作詞でも共作した。同年9月発売のセリーヌ・ディオンのトリビュート・アルバム「Tribute To Celine Dion」には、加藤ミリヤと共に「アイム・ユア・エンジェル」で参加。

11月にはアメリカ合衆国ニューヨーク、アポロ・シアターの「アマチュアナイト」に平成生まれの日本人として初出場し（ただし、プロモーションも兼ねた別枠での特別ゲスト出演）、地元紙では「確実に100万人に1人の逸材」として絶賛された。

2008年2月、「HOME」でデビュー。この楽曲は、日本レコード協会より着うたフルによる音楽配信でダブル・プラチナ、CDパッケージでゴールドの認定を受けている。4月には、ライフ・ジェニングスの新作アルバム『ライフ・チェンジ』の日本盤収録曲ミッドナイト・トレインに参加。6月には、2作目のシングル「アイシテル」を発売。

あまり私の聴く機会のない、若手有力アーティスト。私の友人で、この類いの音楽を称して、まるでお経みたい、という人がいる。単調で、聴いていると飽き飽きしてくるのだという。アラ・シックスティーの世代では、大半の人がそう思うのもやむを得ない。ただ、日本のアラ・ヒフティー以上は、適応力に優れた人が多い（推定で70%前後）ので、そのうちに慣れて、自分たちも唄いだすかも知れない。

（詞・曲 ケツメイシ）

ずっと友だち だが時は経ち 変わりゆく街の中で 共に育ち この街から力溜め一からのスタートを切った君に幸あれ----

（収録プロフィール）

ケツメイシは、男性4人で構成されるヒップホップ&レゲエユニット。1993年（平成5年）に結成され、1996年（平成8年）に現在のメンバーで新たに発足して活動を開始した。

概要

グループ名の由来は、中国で古代より下剤などに使用されている薬草「決明子（けつめいし）」で、薬草の効用になぞらえて「全てを出し尽くす」という意味。メンバーの中の2人は東京薬科大学出身で、薬剤師免許も取得しており、外資系の製薬会社の勤務歴もある。またメンバーの2人は兵庫県神戸市出身で、神戸市中央区の神戸国際会館で開かれたライブでは「地元に戻ってきて嬉しい」と神戸のファンにメッセージを送った。ライブでは下ネタ混じりのMCが好評であり、最初は笑わせて最後は泣かすとの定評がある。

メンバー

Ryo（りょう、1972年11月-）MC担当 神戸市生まれ。2歳の時、東京都港区白金に移り住む。獨協高校、東京薬科大学卒業。最年長であり、影のリーダーとも言われる。かなりのラーメン好き。メジャーデビュー前に結婚、2人の子供がいる。父親は順天堂大学名誉教授、心臓血管外科学医の田中淳。父親はかなり厳しいらしく、今でもRyoは父親との会話は敬語。

Ryoji（りょうじ、1974年12月-）Vo担当 神戸市灘区生まれ、東京都八王子市育ち。現在の妻はタレントの石川亜沙美。2006年7月に石川とできちゃった結婚。Ryojiは2度の離婚を経て3度目の結婚。

大蔵（ダイゾウ、1976年3月-）MC担当 ケツメイシのリーダーである。兵庫県 神戸市東灘区生まれ、神奈川県横浜市育ち。東京薬科大学卒業。

DJ KOHNO（ディージェイ コウノ、1977年6月-）DJ担当 広島県廿日市市出身。2003年に結婚。2006年6月に第1子（長女）、2007年2月に長男が誕生。

略歴等

1993年に「ケツメイシ」として活動を開始。

トヨタ自動車の運営サイト「GAZOO.com」のCMにてTV初出演。使われた楽曲は『こっちおいで』。

NHKから2005年の「紅白歌合戦」への出場を依頼されるが、辞退した。

ミュージックビデオは、著名人や俳優を起用したものが多い。

有名人にもファンが多く、ベッキー、島谷ひとみ、上戸彩、サッカー選手の大黒将志、田中達也などが有名。柴田英嗣がプライベートで後輩の芸人達と組んでいるシバメイシとは番組の中でも共演をするなど交流も深い。

『よる☆かぜ』は、香港の歌手陳冠希（エディソン・チャン）に『陳冠希edison夜風』というタイトルでカバーされ、台湾で1位になった。

『トモダチ』は、「若者の心を打つアーティスト、歌詞」として現代社会の教科書に載り、紹介されたことがある。

ライブは缶ビールを飲みながら行う。大蔵の一气飲みは早くて有名である。

大蔵はライブでよく「頑張っている自分に拍手!!」と言う。

大蔵は鍼灸師・薬剤師、RYOは薬剤師の資格を持っている。

「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」に4回参加している。

RYO以外のメンバーはサッカーが好きで、「ケツメイシFC」というフットサルチームを作り活動している。

RYOは2000年に脱サラ。

*「手紙」アンダーグラウンドなヒップホップシーンには固執せず、ケミストリーなどのリミックスを手がけて話題を呼んでいるケツメイシ。独特のリリックセンスを駆使した新曲。

*「トモダチ」覚えやすいメロディと日常を表現した歌詞で共感を呼ぶケツメイシ。ニュー・シングルは、友人との出会いと別れの季節、初春にぴったりの一作。

*鍵盤音のリフをモチーフに、ゆったりと伸びやかに展開していくサウンドにのせたヴォーカルは朗々たる響きをたたえ、ラップは時折、細やかなフックを与える。決してハデさはないものの、その音楽性の奥行きと豊かな響きは、「花鳥風月」のインストでも明らかだ。

*純愛ブームに翻弄される泣きたがりオンナ連中(私も含む)に喝を入れる、入魂のマキシ。美しくなめらかなメロディと、それに則って濃やかに語られる「涙」の描写は、こらえきれないほど。流石の一言に尽きる、号泣モノ。このまま、日本ヒップホップ界の頼れる兄貴でいてほしい。

*「旅人」15枚目のシングルは、哀愁迫りくるロマンティックな幕開け。新しい自分をつかむための旅立ちや、心を開放していくことは、その人自身を成長させる大切な儀式。強い信念を、優しくも浮遊感を持ったソフィスティケイテッドな音景色に乗せ、しっかりと伝えている。

*「さくら」シンプルなエイト・ビートとたおやかなイメージを生み出すストリングスを中心としたトラックのなかで舞うのは、「さくら」の季節の切なさをたたえたメロディ&ライム。彼らのヒップホップが持つポップネスは、さらに深化を続けている。

*通算17枚目のシングルは、ケツメイシ流のポップ・サウンドが光るスプリング・ナンバー。メンバーの人生観から生まれた「走り出さなければ夢は叶わない」というメッセージと、その陰に潜む内省さに説得力が感じられる。温かいメロディとの相性も抜群だ。

*やっぱり夏はケツメでしょ！ 「よる☆かぜ」以降、素敵なサマー・チューンで夏を演出してくれる彼らがまたしてもやってくれました。エビちゃんのCMでも話題のナンバーで日焼け確実。リゾート感覚満載で、メロディもフロウもトラックもすべてが軽快で爽やか。

*ケツノ5「ケツメイシのような」で通じる独特のメロディ&ラップの世界はすでに円熟の域に。

2、4、10、13曲目のシングル曲はあくまでポップに、「VS」のようなハードコアな曲もいいスペースに。ラップを超えた「いい曲」をとことん突き詰める4人の気迫勝ち。

*初のウィンター・ソング。「聖なる夜に」は彼女との初めての冬に寄せる思いをハート・ウォームに綴り、新たな定番クリスマス・ソングになりそうな好曲。「冬物語」もこれからの冬本番を切なくも温かく彩り、「ずっと二人で」の軽快なグルーヴィさも心地よく胸に響く。

*映画「陰日向に咲く」主題歌。映画のテーマに沿って「出会い」をテーマにしつつ、美しいピアノとストリングスを活かしたアレンジ、心地よく流れるビート、せつないメロディはまさにケツメイシの王道。

*6枚目を数える「ケツノポリス」、前回は赤ジャケだったのに対し今回は青ジャケ。いわばケツメイシ版「青盤」とも言うべき、夢や希望や未来の詰まった珠玉の名曲がたっぷり。ヒップホップやレゲエの枠をスルリと飛び越えた、洗練されたサウンドを聴かせる。

インディーズ

こっちおいで（1999年12月15日）

埼玉県朝霞市の六畳一間の公団住宅で制作したもの。ケツノポリス2に収録されているケツメの作り方はこの曲ができるまでのエピソードが歌詞になっていて、こっちおいでのサビが引用されている。

新生活（2000年4月）

2004年にメジャーレーベルより再発売。

海（2000）

2004年にメジャーレーベルより再発売。

メジャー

ファミリア（2001年4月）

PVにはメンバーの昔の写真が映っている。

夕日～泣き虫先生の3年戦争mix～

チャック全開

よる☆かぜ（2001）

お疲れsummerランチ快腸!!

よる☆かぜ～夏シャバダversion～

手紙（2001）

スペースシャワー

手紙～未来

手紙～現在～

手紙 過去～

トモダチ（2002）

初のオリコンシングルのトップ10入り。

3分ブッキング

花鳥風月（2002）

花鳥風月～inst～

花鳥風月～Ryoji Relax～

花鳥風月～YENIGUMAN MIX～

花鳥風月～DJ KOHNO Remix～

はじまりの合図（2003）

門限やぶり

夏の思い出（2003）

気楽に行こう

太陽（2003）

行けるとこまで

涙（2004）

PVはダイノジが出演しており、ドラマ仕立て。

伝説男

君にBUMP（2004）

そばにいて

海～シオサイ30φmix～

よる☆かぜ～FPM disco tropicana～

さくら（2005）

ケツメンサンバ

新生活～アコースティックmix～

旅人（2006）

いま会いに行く

若気のいたり

さくら(SUGIURUMN REMIX)

男女6人夏物語（2006）

夏とビールとロックンロール

あなたに冷やし中華

君にBUMP～スカイメイシMix～

トレイン（2007年4月）

カーニバル

懲りない男

また君に会える（2007）

ダンス

サマーデイズ

聖なる夜に/冬物語（2007）

ずっと二人で

出会いのかけら(2008)

あなたに会えてよかった

都会の夜

インディーズ

ケツノポリス (2000)

メジャー

ケツノポリス2 (2002)

ケツノポリス3 (2003)

ケツノポリス4 (2005)

ケツノポリス5 (2007)

ケツノポリス6 (2008)

参加作品

浜崎あゆみ「Boys&Girls」 (1999)

山下達郎「SONORITE」 (2005)

2.Kissから始まるミステリー feat.RYO (from ケツメイシ)

12.お客様が神様です / DJ KOHNO (from ケツメイシ) feat.GAKU-MC

MCU「A Peacetime MCU」 (2005)

6.いいわけ feat.Ryoji

Dragon Ash「INDEPENDIENTE」 (2007)

関連

YANAGIMAN - デビュー当初より、ケツメイシのほとんどの曲の楽曲プロデュースを手掛けている。作曲家、編曲家。

NAOKI-T - 『夏の思い出』『ケツノポリス3』以降加わったプロデューサー。彼の手がけた『さくら』でPopフィールドにより認知される結果となった。デビュー当初からのファンにはあまり好かれていない。

彼のアーティスト・ワールドは、その押しの強い騒がしさが、やや苦手の私だが、きちんと聴いてみると、独自の価値観が、前面に押し出されていて面白い。「人生という名の列車」が、知名度が高いが、私は「スタートライン」や「今日も君が好き」のほうが、心に残った。

(収集プロフィール)

馬場 俊英 (ばば としひで、1967～) は、日本の男性シンガーS。

67年埼玉生まれ、馬場俊英。彼は自分の音楽で、まるでロード・ムーヴィのような音風景を描出し、あたかも青春映画のような甘酸っぱい心情を紡ぎ出す。長いキャリアのなかでも自分の方向性を見失わず、一貫したポップ・センスで柔らかな音と優しくも力強い言葉をリスナーに運んでくれる。そんな馬場俊英は、誰もが愛すべきアーティスト・アーティストである。

*まっすぐな力強さと優しさにあふれたメッセージ・ソングで、多くの人の共感を呼びそうな作品だ。

*すでに40代の彼だが、その作品には青臭いほど若いと思うような作品もあり、また年相応の包容性を感じる作品もあり。サウンド、ヴォーカル、メロディはとても自然で嫌みがない。

*飾らない深くあたたかい声、人生の哀感と希望をまっすぐに綴る詞、等身大のバンド・サウンド。人間性が見える音楽だ。

*力強さとやさしさを兼ね備えた歌声から、器の大きい人だというのは伝わってくるものの、オーソドックスな音作りが災いしてか、今ひとつ地味な感じがしないでもない。山崎まさよしとかが好き人にはグッとくるような気もするが。

*都会的な匂いと大らかな感じが同居するシンガー・ソングライターの2ndアルバム。男っぽい声がまずいい。そしてアレンジのセンスがまた素晴らしく、サウンドを幅広いものになっている。ストレートなロック・テイストと細やかな音作りの配分が絶品。

*いずれもきっちりしたメロディに、歌の言葉が聴きとりやすい歌声が乗る。歌詞は、ほのかにロマンがただよい、きれいにまとまっている。

*オーソドックスなポップスだが、メロディにも歌声にもどこか温かみがあり、詞はあくまでもポジティブ。素朴とまでは言わないがどこかほのぼのともしていて、街ではなく「町」で、ひたむきに生きる青年像が浮かんでくる。どぎつくないのが、個性。

略歴

1985年、埼玉県立熊谷西高校卒業

1983年 - 1992年バンド「サンズトレイン」名義でインディー・レーベルより2枚のアルバムをリリース。

1993年、バンドを解散しソロ活動をスタート。

1994年、アプローチしたデモテープがディレクターの耳に止まり、1995年発売の佐藤聖子のシングルに自作曲「Heartbeats Groove」が採用される。以降、佐藤聖子のブレインライターとして活動。佐藤聖子のヒット曲である「恋をするなら」を初めとする作品を手掛ける他、森口博子らに楽曲を提供。

1996年2月21日、シングル『星を待ってる』でフォーライフよりデビュー。以後合計7枚のシング

ルと3枚のアルバムをリリースし、2000年にフォーライフとの契約終了。

2001年、多数のライブ活動と平行して、自主レーベル・UP ON THE ROOF RECORDSを設立。9月10日、4thアルバム『フクロウの唄』リリース。

2002年、A-netとUP ON THE ROOF RE. のダブルネームで8月30日、5thアルバム『鴨川』をリリース。また、オムニバスCD『a day』に参加。

2003年、キャッシュソングに所属。ボブ・サップのデビュー曲の作詞・作曲を始め、他アーティストへの楽曲提供にも再び前向きに取り組む。

JFN系全国ネット「ASAHI SUPER DRY ACCESS ALL AREA」（パーソナリティはおちまさと）にて「コブクロ&馬場俊英コラボレーション企画」として「BOYS ON THE RUN」をレコーディング。

2005年1月、FM東京系JFN全国ネットの番組内で「人生という名の列車」を書き下ろし、大反響を受ける。2月、6年ぶり8枚目のシングル「今日も君が好き／この街で」をリリース。3月、2年間在籍したキャッシュソング株式会社を離れフリーに。5月、フォーライフと再契約、レコーディングを行う。8月、シングル『BOYS ON THE RUN 4 SONGS』でメジャー復帰。また、NO PLANのミニアルバムに「人生という名の列車」を楽曲提供。

2006年1月、NO PLANが唄う内村光良初映画監督作品の『ピーナッツ』の主題歌「君の中の少年」を書き下ろす。

同年4月12日、ASAHI SUPER DRY ACCESS ALL AREAで大反響だった「人生という名の列車」が収録されたアルバム『人生という名の列車』をリリース。オリコンアルバムチャート初登場29位を記録。

2006年12月31日、日本テレビ系『Theサンデー』に出演し、「今日も君が好き」を披露。出演後、視聴者から大反響となり、翌回（2007年1月14日放送）の放送ではそのシーンが再放送された。

2007年12月放送の第58回NHK紅白歌合戦に初出場し、「スタートライン～新しい風」を歌唱。実質的なリストラを経験し、デビュー11年目にしての快挙は話題を呼ぶ。

2008年7月1日、自身のブログでレコード会社をワーナーに移籍する事を発表。

2008年10月、新幹線0系営業終了にともなう「夢の超特急 ありがとう0系新幹線キャンペーン」公式テーマソングを担当。曲名は「君がくれた未来」。「ありがとう0系新幹線スペシャルサイト」中のスペシャルムービーで全曲を聴くことが出来る。11月26日から着うた配信が、12月10日からフル配信が開始された。CDではシングル『世界中のアンサー』（2009年3月11日発売）のカップリングに収録された。

2008年12月23日に自身初となる大阪城ホールでの単独ライブを開催。

* 人生という名の列車

FM東京系JFN全国ネットの番組内の企画で書き下ろされた曲。当初1回だけのオンエアーの予定だったが、大きな反響のため、番組の最終回（3月）まで、何度かオンエアーされた。9分半に及ぶ大作で、曲のコンセプトは「30歳代の男性が感動できる唄」である。

シングル

1st「星を待ってる」 (1996/02)

2nd「100倍の微笑み」 (1996)

3rd「明日はどっちだ」 (1997)

4th「センチメンタルシティ マラソン」 (1997)

5thシングル「ティラノサウルスの恋/君は恋人で、恋人で友達で」 (1997)

6thシングル「愛する」 (1998)

7thシングル「どんなときだって幸せをさがしていた」 (1998)

8thシングル「今日も君が好き」 (2005/2/23発売)

9thシングル「BOYS ON THE RUN 4 SONGS」 (2005)

10thシングル「一瞬のトワイライト/旅人たちのうた」 (2006)

11thシングル「ただ君を待つ/ブルーバード ~僕は夢の影のように」 (2006)

12thシングル「君はレースの途中のランナー/小さな頃のように/働楽 ~ドウラク」 (2007)

13thシングル「スタートライン 4 SONGS」 (2007)

14thシングル「いつか君に追い風が」 (2008)

15thシングル「世界中のアンサー」 (2009)

アルバム

1stアルバム「もうすぐゴング」 (1997)

One To One

Heartbeats Groove (Album Mix)

「優しい雨のように」を覚えていますか？

明日はどっちだ

ムードなムード

夢

恋をするなら～ムーンライト ランデブー

100倍の微笑み

夕焼けの法則

星を待ってる (Album Version)

心のサンシャイン

2ndアルバム「DOWN THE RIVER」 (1998)

ダウン ザ リバー

ティラノサウルスの恋

虹を見たかい？

高速道路

砂丘

センチメンタルシティ マラソン

愛する

ミセス・ユー

3rdアルバム「OVER THE MOUNTAIN」 (1998)

OVER THE MOUNTAIN ～あの山越えて

汗(ミチ改め)～あの事件(ヤマ)越えて

どんなときだって幸せをさがしていた (Early Dawn Version)

君に会いたい

夜空23時59分

車は愚かな哲学者たちを乗せて月明かりの中をゆく

イヌとフリスビー

ロードショーのあのメロディ

【Bonus Track】 どんなときだって幸せをさがしていた (Single Version)

4thアルバム「フクロウの唄」 (2001)

ここさ

針と糸

ボーイズ・オン・ザ・ラン

春のレイン

本日のコーヒー

フクロウの唄

プリズナー

怪物達の古戦場

Something Blue～きっといいこと

I write a book

5thアルバム「鴨川」 (2002)

7thアルバム「人生という名の列車」 (2006)

ボーイズ・オン・ザ・ラン～Album version～

君の中の少年

風の羽衣

STATION

一瞬のトワイライト

今日も君が好き～Album version～

涙がこぼれそう

アイビー

人生という名の列車

遠くで 近くで

スタートライン～Album version～

旅人たちのうた～Album version～

8thアルバム「青春映画が好きだった」 (2007)

君はレースの途中のランナー

青春ラジオ

ただ君を待つ

スタートライン～新しい風
多摩川土手～君へのメッセージ
草野球

八月のレイン

ひとつだけ

言いたいことは I Love You

小さな頃のように

明日へのフリーウェイ

働楽～ドウラク

主人公

主な楽曲提供

佐藤聖子「恋をするなら」（1995）作詞・作曲

森口博子「Home Town」（1995）作曲

椎名法子「言葉になんてできない」（2000）作曲

LaRA「楽しいデートのあとには」（2001）作曲

inconnue「運命」（2001年8月22日）作曲（金森佳朗との合作）

STEEL「Calling you」（2001）作曲

織田裕二「真珠」「蜃気楼」（2003）作詞・作曲（金森佳朗との合作）

A・cappellers「口笛の鳴る丘」「夜風のセレナーデ」（2003）作詞・作曲

秋川雅史「鼓動」（2008）作詞・作曲

ジャニーズ系で、私が理解できる最後のグループかも知れない。約30年の、隔たりがあるのだ。もう少し、あと10年くらいは、追いかけてみたいが。彼等は、きちんと聴いてみると、歌唱力はまあまあだが、意外にもいい曲を歌っている。

(詞・曲 Takuya Harada)

空に輝くよキラリ星がじわりにじんできよ 悲しいほどキレイだね---星に願うといつか叶うというけれど 夢の中でしか僕ら永遠に----

(収集プロフィール)

嵐(あらし)は、日本の男性アイドルグループ。

概要

1999年、ジャニーズJr.内で人気の高かった人物から選出され結成された男性アイドル歌手グループ。同年9月15日にデビュー記者会見を行い、11月3日に『A・RA・SHI』でCDデビューを果たす。

グループ結成、およびCDデビューは、当人たちには十分に知らされないまま進められたもので、結成会見までほとんど話したことがないメンバーがいるほど唐突の出来事であり、嵐というグループとしての持ち味はもちろん、結束もCDデビューと並行して図らなければならなかった。結成時から各メンバーの知名度、人気は高かったが、結成後しばらくの間はジャニーズJr.活動の場を同じくすることが多く、その人気もJr.の延長であったことは否めない。

2002年よりメンバーのソロ活動(『木更津キャッツアイ』(櫻井)、『ごくせん』(松本)など)が充実しはじめたことをきっかけに、ジャニーズJr.ではない、ひとつのアイドルグループ嵐としての人気が定着。

99年9月、ハワイ・ホノルル沖のクルーズ客船にて結成及びCDデビュー会見を行い、2ヵ月後に1stシングル「A・RA・SHI」でデビュー。00年4月に初のコンサート・ツアー『嵐 FIRST CONCERT 2000』を開催し、01年11月には所属レコード会社を<ポニーキャニオン>から<ジェイ・ストーム>へ移籍。以来、「a Day in Our Life」「WISH」「Love so sweet」「Happiness」と連続してヒットを飛ばしている。

08年6月、SMAPやKinKi Kidsに続き、五大ドーム・ツアーを敢行。同年9月にはグループ2度目となるアジア・ツアー(東京、台北、ソウル、上海)を開催。また、この年のオリコン年間シングルランキングで「truth/風の向こうへ」「One Love」が1位、2位を独占し、デビューから10年目で初めて年間シングル1位を獲得。

二宮がハリウッド映画『硫黄島からの手紙』に出演、松本はTVドラマ&映画『花より男子』の主演を飾り大ヒットを記録、大野は手作りのアート作品を収めた写真集を発売。

*星空の美しさと人と人との絆を歌った彼らのシングルは、「流星の絆」の主題歌。ピアノの繊細な響きが随所で利いている。「僕が僕のすべて」は悩みながらも一歩踏み出そうとする決意を歌った青春ソング。

*愛しさや切なさといった、ありったけの想いを極上のメロディに乗せて綴った、嵐らしさ全開のポップ・チューンだ。

*映画「花より男子ファイナル」の主題歌。愛を高らかに歌い上げる究極のラブ・ソングになっている。カップリングの「How to fly」もまた、前向きな力強い作品。

*元気ハツラツ！ 彩度・明度ともに最高値なサウンド、爽やかなハーモニーをカジュアルに歌い上げるポップ・ナンバー。新しい季節を迎える情熱や不安や高揚感をみなぎるエネルギーで思いっきりブチ上げた、フレンドシップにあふれる最強メッセージ・ソングだ。

*「Step and Go」卒業～旅立ちの季節・早春を意識したナンバー。さびしさの中にも、希望に満ちた前向きなメッセージが込められた美しい仕上がりだ。

*ユニゾンの魅力が十二分に発揮された、メロディアスなポップス。5人の優れたリズム感が大いに発揮されている。

メンバー

大野智（おおの さとし、1980年11月-、東京都出身）嵐のリーダー・メインボーカル

櫻井翔（さくらい しょう、1982年1月-、東京都出身）ラップ担当

相葉雅紀（あいば まさき、1982年12月-、千葉県出身）

二宮和也（にのみや かずなり、1983年6月-、東京都出身）

松本潤（まつもと じゅん、1983年8月-、東京都出身）

年譜

1999年11月3日 『A・RA・SHI』でCDデビュー

前々日に行われた握手会には約8万人のファンが殺到した。

デビューCD『A・RA・SHI』は結成後2ヵ月で発売されたにもかかわらず、初回出荷枚数は36万枚（曲が決定する以前から発売が決まった時点で枚数は決定していた）、発売1週間の初動売上は約56万枚（オリコン調べ、デビューCDとしては当時歴代1位）、累計売上約97万枚に達した。

2000年4月6日 初のコンサートツアー『嵐 FIRST CONCERT 2000』を開催

2001年10月3日 初の冠番組『真夜中の嵐』が放送開始

2001年11月7日 所属レコード会社をポニーキャニオンからジェイ・ストームへ移籍

2002年3月 相葉雅紀が肺気胸のため入院し、4人で活動

映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』で復帰。

2002年10月18日 メンバー5人全員での初主演映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』が公開。

2004年8月21日、8月22日 『24時間テレビ「愛は地球を救う」』第27代メインパーソナリティを務める

大野智がTシャツのデザインを手がける。

番組終盤には相葉雅紀がメンバーへの手紙を読み上げ、メンバーの涙をさそった。

2006年3月11日 二宮和也がアメリカ映画『硫黄島からの手紙』撮影のため渡米

4月25日に帰国するまで、4人での活動になった

2006年7月31日 キャンペーン『JET STORM』でタイ王国、台湾、韓国の3ヶ国をわずか1日で回り、アジア進出を大々的にPR

2007年4月4日 3本目の主演映画『黄色い涙』が公開

2007年4月29日 東京ドームで初の単独公演を開催、約5万5000人を動員

2007年 『Happiness』が9月度の月間シングルランキングで1位を獲得し、グループ初の月間1位を果たす

2007年 オリコンの年間シングルランキングで『Love so sweet』が4位になり、グループ初の年間トップ10入りを果たす

2008年 SMAP、KinKi Kidsに続き、五大ドームツアーを行う

ライブ初日の6月1日、名古屋ドームのリハーサル内で櫻井が舞台から転落。全治1カ月の右手の骨折と足の捻挫となり、当日のライブでは踊らず立って歌い、自由の利く左手で観客を盛り上げた。

2008年8月30日、8月31日 『24時間テレビ』第31代メインパーソナリティーを務める
番組終盤には二宮和也がメンバーへの手紙を読み上げる。

2008年9月 - 11月 2度目となるアジアツアー（東京、台北、ソウル、上海）を開催

東京公演は国立競技場で行われ、単独アーティストとして同所での開催はSMAP、DREAMS COME TRUEについて3組目の快挙となった。

2008年 年間オリコンシングルランキングで『truth / 風の向こうへ』と『One Love』が1位、2位を独占

デビュー以来10年目で初めて年間シングル1位を獲得する。

年間シングルの1位、2位独占は1989年のプリンセス・プリンセス以来19年ぶりであり、宮史郎とぴんからトリオ、ピンク・レディー、光GENJI、プリンセス・プリンセスについて史上5組目の快挙となった。

結成まで

大野は当時Musical Academyのメンバーだったが、ジャニーズJr.のレコーディングを手伝ってほしいと頼まれ承諾。大野はそれまでに2度、事務所に辞意を伝えていた為、デビューの話を持ち出した事務所の指示で、9月初頭にレコーディングを行なっている。その際、ラップも歌っており、「メロとラップ、どっちがいい?」と聞かれ、「メロ」と答えた為メロディ担当となった。嵐のメインボーカル。

櫻井は当時、嵐を一時的な物と考えており、『1999年ワールドカップバレーボール』のイメージキャラクターとしての仕事が終われば、ユニットは解散してまたジャニーズJr.に戻るものと思っていた為、メンバー入りを引き受けた。

櫻井、二宮、松本は夏前からレコーディングや振り付けを行っていたが、CDデビューすることは知らされていなかった（当時、ジャニーズJr.にはCDデビューには至らない数々のユニットが存在した）。

メンバー5人が初めて揃ったのは、デビュー記者会見を行うハワイ州に渡る3日前。一度4人で集められた所に、二宮といつも一緒にいた相葉がいないのを見て、社長が二宮、松本に「YOU達なんで相葉ちゃん入れてあげないんだよ」と問い詰め、社長がその場で相葉に「パスポートを持っているか」と電話をし、相葉が「持っている」と返事をしたことで相葉の嵐加入が決定した。

ハワイ州には各自別々に行き、ハワイ州に着いて5人揃ってからデビューすることを聞かされた。

後に雑誌『H』のインタビューで、「もともと櫻井、二宮、松本の3人でグループを結成する予

定だったが、『相葉と大野も加入させたほうがいい』と3人で提案し、5人のグループになった」と答えている。

特徴

デビュー当時、グループ内の年齢差が3歳以内というのはジャニーズ事務所でも珍しかった。

庶民的な雰囲気と面白さで今の位置を維持している。

アイドルらしからぬ趣味を有していることを自覚している。アンダーグラウンド、アキバ系、文化系、マイナー、シュールなどと自称。

アイドルの枠を超えたキャラの濃さと特有のうだうだなノリが売りである。

メンバーの仲の良さについては内外から定評がある。

シングル

A・RA・SHI（1999年11月）

SUNRISE日本 / HORIZON（2000年4月）

台風ジェネレーション -Typhoon Generation-（2000）

感謝カンゲキ雨嵐（2000）

君のために僕がいる（2001）

時代（2001年8月1日）

a Day in Our Life（2002）

ナイスな心意気（2002）

PIKA☆NCHI（2002）

とまどいながら（2003）

ハダシの未来 / 言葉より大切なもの（2003）

PIKA★★NCHI DOUBLE（2004）

瞳の中のGalaxy / Hero（2004）

サクラ咲ケ（2005）

WISH（2005）

きっと大丈夫（2006）

アオゾラペダル（2006）

Love so sweet（2007）

We can make it!（2007）

Happiness（2007）

Step and Go（2008）

One Love（2008）

truth / 風の向こうへ（2008）

Beautiful days（2008）

オリジナルアルバム

ARASHI No.1～嵐は嵐を呼ぶ～（2001）

HERE WE GO!（2002）

How's it going?（2003）

いざッ、Now (2004)

One (2005)

ARASHIC (2006)

Time (2007)

Dream "A" live (2008)

映画

ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY (2002年)

ピカ☆☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY (2004年)

黄色い涙 (2007年)

プロフィールでは、サラ・ヴォーン、キャロン・ウィーラー等の影響を受けたとなっている。私が初めて聴いて感じたのは、やはり宇多田ヒカルとの、相似点が多いということ。発声も一部、近い部分がある。私の世代だと、このタイプのアーティストは評価しづらい所がある。洋楽は、オールディーズが主だったから。けれど、その音楽性は優れているとって、過褒ではないだろう。今後の展開が楽しみな、アーティストのひとりである。

(詞・JUJU/E-3 曲・E-3)

不安につつまれキミが泣いている まだ誰も知らない明日を決め付けることは---忘れられないことがキミを苦しめる 悲しみに捕らわれないでボクの目を見つめ返して---

(収集プロフィール)

JUJU (ジュジュ) は、ニューヨーク在住の日本人女性シンガーソングライター。

来歴

12歳の頃よりジャズシンガーを志していた。高校3年生になっても進路が決まらないJUJUを心配した先生が大学進学をしつこく勧めるのに嫌気が差し「歌手になりたい」と告げる。先生には「君は確かに歌が上手いがプロの世界は厳しい。叶いそうにない夢を見て現実逃避をするのはやめなさい」と猛反対を受けたが、最終的には「そこまで言うのだったら、君はもういいよ。」とあきらめられたものの納得させた。その後、観光で訪れたニューヨークに一目ぼれし、半年後に単身渡米。以来、NYで生活している。

NYで出会った作家のE-3やDJ HIROnycらと作り始めた音楽作品が日本で評判を呼び始め、デビュー前に映画「凶気の桜」の主題歌制作に協力した。しかし、その後は順風満帆とはいかず2004年のメジャーデビューシングル、2ndシングルともにセールスが振るわなかった為、以降の2年間は全てパッケージ作品のリリースとなった。JUJUはセールス面での失敗の原因を『長らく日本を離れていたせいで日本の音楽シーンのことが全く分からなかった。だから、自分勝手な音楽を作っていた』と語っている。

不調が続きレーベルより、「次の作品が売れなければ契約を解除する」と宣告される。模索を続け、最後のメジャーリリースかも知れないと思い、2006年11月にリリースした「奇跡を望むなら...」が話題を集める。USEN総合チャートに22週連続チャートインを記録し、2007年USEN年間総合チャート1位を記録するヒットとなった。

2008年4月から、12ヶ月連続のカヴァーライブ「ジュジュ苑」を開催する。同年10月10日、ニューヨークで凱旋ライブ「JUJU苑 in NY」を行った、また日本記念日協会はこの日を「JUJUの日」として正式認定。

*ニューヨーク在住の女性ジャズ・ヴォーカリスト。NYの息吹を吸収したかのような洗練された歌声が魅力だ。

12歳の頃よりジャズ・シンガーを志し、京都にて音楽活動を重ねるも18歳で単身渡米。ジャズはもとよりR&B/ヒップホップ/ソウル/ラテン/ハウスといったNYサウンドを自分の資質とする。その活動がストリートで噂となり、01年頃よりフィーチャリング等で多数の作品に参加。窪塚洋介主演映画『凶気の桜』(02年)への楽曲提供もそんな活動の中の1つ。

そして04年、1stシングル「光の中へ」で満を持してデビュー。06年にリリースした3rdシングル「奇跡を望むなら...」はUSEN総合チャート1位獲得、並びに22週連続チャート・インという異例の超ロング・ヒットを記録。07年にはシングル3曲、さらにユーズリミックス、ビリー・ジョエル、デバージなどの洋楽カバー曲を含む1stミニ・アルバム『Open Your Heart ～素顔のまま～』をリリースした。

NYでは、ストリート・ブランドのマネージャーも務めており、07年には自身のブランドもスタートしている。

*切なさを感じさせる歌声で「ひたむきな想い」を綴った、感動のロック・バラード。

*「君のすべてに」のアンサー・ソングが登場した。Spontaniaをフィーチャーした「素直になれたら」は切なく苦しい女性の気持ちを歌った曲で、新境地を開いたロック・ナンバーの「I can be free」、バラードも絶品だ。

*映画「しあわせのかおり」主題歌でもある「空」は、凜とした姿勢を感じさせるバラード。せつないスロー・チューン「Missin' U」、スタイリッシュな仕上がりのカバー曲「Street Life」を含む7作目のシングルは、独特の響きを持つヴォーカルの多彩な表情を堪能させてくれる。

*ソウル？ クラブ感覚とともに今風ジャズを展開する。在ニューヨーク/京都出身女性歌手1年ぶりのセカンド・ミニ。話題はデルタ・グッドレムとの共演曲「LIVE! TOGETHER? Tokyo Girls Anthem?」や3曲のカヴァーに集まりそうだが、なかでも荒井由実作「海を見ていた午後」、そしてホーンズ響くスウィングーなオリジナル「My Life」が注目。

*ニューヨークを拠点に活動するシンガーの、2007年度USEN総合チャート1位となった「奇跡を望むなら...」に続くシングル。抜群の歌唱力と表現力で愛の強さを歌う。

*ジャズ、R&B、ラテンといった幅広い音楽性をしなやかに身につけた女性シンガー、JUJUのファースト・フル・アルバム。生楽器のおだやかなグルーヴが印象的な「奇跡を望むなら...」、ファンク/ラテンの要素を取り入れた「Song for you」など13曲を収録。

*フジテレビ系アニメ「モノノ怪」のEDテーマになったタイトル曲は、伸びやかなハイ・トーン・ヴォイスで爽やかにバラードを歌い切った。「COME, FLY WITH ME」は映画「Jam Films」(2005年)の主題歌。「Something About Us」はダフト・パンクの知られざる名曲をカバー。NY仕込みの洗練されたお洒落な一枚。

*JUJUのミニ・アルバム。曲中に挿入される英語詞の部分もまったく違和感なく、英詞のナンバーでは洋楽アーティストのような洗練度。ユーズリミックス、ビリー・ジョエルなどのカバーも、彼女のためにあったナンバーだったかのよう。

*「光の中へ」に続く2ndシングルは、甘く力強い輝きに満ち、ジャンルを巧みに超越するヴォーカリゼーションと、NYでの音楽経験が活かされた「今」の空気感が広がる世界観が炸裂するナンバー。

*そのシルキーかつ芳醇なプラチナム・ヴォイスで届けるデビュー曲は、スーパー・ホーン・セクション「CHOPS」が参加したラテン・アレンジのナンバー。

人物

芸名の由来はウェイン・ショーターのアルバム「JuJu」から。

本名は非公表だったが2007年4月16日放送の「HEY!HEY!HEY!MUSIC CHAMP」で本名が「ジュン」だと公言、また同年6月6日放送の「スペシャボーイズ」でその漢字が「淳」であることを明かした。初めて買ったCDはスウィング・アウト・シスターのアルバム「ベター・トゥ・トラベル」。

影響を受けたアーティストはサラ・ヴォーン、キャロン・ウィーラー、レディ・ミス・キアー。
シングル

光の中へ（2004年8月25日）

CRAVIN'（2004年11月26日）

奇跡を望むなら...（2006年11月）

ナツノハナ（2007年8月）

Wish for snow／奇跡を望むなら...Xmas story（2007年12月）

どんなに遠くても...（2008）

空（2008）

素直になれたら／I can be free（2008）

やさしさに溢れるように（2009）

明日がくるなら（2009 予定）

ミニアルバム

Open Your Heart～素顔のままで～（2007年6月）

My Life（2008）

アルバム

Wonderful Life（2007年10月10日）

What's Love?（2009）

参加作品

発売日 曲名

収録された作品

2001年9月19日 セックスフレンド feat. JUJU

K DUB SHINE 「Save The Children」

2001年10月11日 MEANING OF LIFE feat. Hi-Timez+JUJU

DJ MASTERKEY 「DADDY'S HOUSE VOL.1」

2002年10月17日 Family(is one of nature's masterplaces)

「凶気の桜 オリジナル・サウンドトラック」

2002年10月17日 I CONFESS

「凶気の桜 オリジナル・サウンドトラック」

2002年10月17日 過去のない未来

「凶気の桜 オリジナル・サウンドトラック」

2003年7月1日 In-mail feat. JUJU

童子-T 「In-mail feat. JUJU」

2003年7月30日 Horoscope Love feat. JUJU

CHRIS 「Love me or not」

2003年11月12日 FREE YOUR MIND feat. JUJU

DJ MASTERKEY 「DADDY'S HOUSE VOL.2」

2005年1月7日 COME, FLY WITH ME

Original Soundtrack 「Jam Films S」

2005年9月22日 How you feel feat. JUJU

Hi-Timez 「GOO GOO HOO」

Friends feat. Mummy-D, JUJU

テレビ等でときどき見かけるが、取り上げるに当って、ユーチューブで4、5曲聴いてみた。予想より、ずっと歌唱力がある人だ。ダンス等のパフォーマンスもいい。私の好きな、島谷ひとみのダンスナンバーを、もっと激しく野生的にした感じがある。むろん、安室奈美恵やマックス、浜崎あゆみなどの影響もあるけれど。いい曲に恵まれれば、大バケするかも知れない。

「JUNGLE DANCE」(詞・shungo. 曲・Martin Ankelius)

生い茂ったビル都会はジャングル 皆、見失ってく---純な夢---出逢いを警戒しすぎちゃNo!

(収集プロフィール)

谷村奈南(たにむらなな、1987～)は、日本の歌手。

デビューまで

北海道札幌市生まれ、大阪府池田市育ち。3歳から8歳まで父親の仕事の関係でハワイと大阪を往復する生活を送る。その後ロサンゼルスに長期滞在。音楽好きの両親の影響とハワイでの生活で、幼少の頃から常に音楽(洋楽)がある環境だった。「気がついたら歌っていた」という彼女は、大好きなピアノにもこの頃から没頭。日本に帰国後は中学受験のため勉強一色の生活を送る。合格した帝塚山中学校では負けず嫌いの性格から日本史と国語以外は常に学年トップの成績を保ち続けた。

*「ミスマガジン2006」ではセミファイナルに進出する。

歌手デビュー

帝塚山高校3年の春に大阪で行われた歌のイベントに得意の英語の歌で参加。音楽プロダクションの目に止まり、デビューが決定。

2006年、青山学院大学法学部への受験・入学を経て、ミス青学に出馬。この時点では将来の目標をアナウンサーとしていた。2007年5月、SONIC GROOVEよりシングル『Again』でデビュー。2ndシングル『Say Good-bye』のプロモーション・ビデオがYahoo!動画のアクセス数で週間1位を記録。

2008年初頭、音楽サイトMSNミュージックの「今年ブレイクが期待されるアーティスト」の投票で1位を獲得。BARKSが2008年4月に配信した3rdシングル『JUNGLE DANCE』についての記事「G乳・推定90cm超、扇情的な映像の中身...」が、提供先のYahoo!ニュースにおいて、「総合アクセスランキング」で1位を獲得。

3rdシングル『JUNGLE DANCE』のCD+DVD盤が、リリース前にもかかわらず、「Amazon.co.jp ランキング」で10位近くまで順位を上げる(CD盤の同ランキングは2,000位前半)。さらに、Amazonでは、1人1個の注文に制限された。

2008年後期、オリコンが調査を実施した「最もブレイクしそうな新人女性アーティスト[5]」(10～20代の男女1000人が対象)のアンケートで同年9月にデビューした3人組音楽ユニット・GIRL NEXT DOOR(千紗)に次ぎ2位にランキングされる。

2009年2月18日発売の5thシングル『Crazy For You』のプロモーション・ビデオ(先行配信)がYahoo!動画のアクセス数で週間1位を記録。

*パワフルな歌声とセクシーなダンスが魅力の彼女らしい、表現力豊かな仕上がりとなっている

。

*「If I'm not the one」はドラマ「四つの嘘」の主題歌でこれまでとは違ったしっとりとしたバラード、「SEXY SENORITA」はうって変わってラテン・ダンス・ナンバーと、2種類の谷村奈南が楽しめる。

*キュートなルックスと卓越したダンス・パフォーマンスをフィーチャーしたラテン・ナンバー

。

今回は、影響を受けたというマイケル・ジャクソンにも通じるクールなダンスR&Bナンバー。子供の頃にハワイに住んでいたというだけあって、英語もきわめて自然だ。

*力強くも艶やかなヴォーカルに加え、幼少期から洋楽に触れてきたことで育まれた抜群の音楽センスを披露している。

*谷村奈南のデビュー・シングル。伸びやかでパワフルな歌声と海外生活で培った芯の強さが魅力だ。

人物

帝塚山中学校・高等学校卒業、青山学院大学法学部在学中。同学部には歌手のNEWS加藤成亮とステファニーなどがいる。

初めてライブに行ったアーティストは、ハワイで親に連れられて観たマイケル・ジャクソン。

趣向

苦手なので、試験科目に日本史と国語がない青山学院大を受験した。

好きなアーティストはクリスティーナ・アギレラ。

好きなお笑い芸人は山崎邦正とFUJIWARAの藤本敏史。藤本は中学生の時に見て以来ファンになり、「憧れの人」と語る。

好きな男性のタイプは面白くてセクシーな人、一緒にいて楽しい人。

好きな言葉は「感謝」。幼少から両親に感謝の気持ちの大切さを教えられてきたため、自身も大切にしているという。

好きな街は大阪。本人曰く「地元なのでテンションが上がる」。

開けているピアス総数は11カ所。

シングル

1st Again 2007年5月 オリコン55位

2nd Say Good-bye 2007

3rd JUNGLE DANCE 2008

4th If I'm not the one/SEXY SENORITA 2008 8位 c/w 『忘れないよ』

5th Crazy For You 2009 10位

クミコの存在を知ったのは、10年まえくらい。その後も、テレビでたまに見かけるくらい。私は彼女について、深くは知らないのだ。ユーチューブ等で、7、8曲聴いてみた。柔らかな低めの主声、直球で胸を打つ高音。シャンソンから出てきた歌手特有の臭みがあまりなく、予想していたイメージよりもずっと上手い。アルバムの収録曲を見ると、フォーク、ポップスから、なんと「北の宿から」「アカシアの雨がやむとき」、さらには昭和前期の歌謡曲まで、幅広く歌っている。ひょっとしたら、昭和末期から陳腐化の激しい歌謡曲の世界で、新しい地平を切り開いてゆける一人かも知れない。

「祈り」 (詞・GOD BREATH 曲・佐々木祐滋)

別れがくると知っていたけど 本当の気持ち言えなかった 色とりどりの折鶴たちに こっそり話しかけていました 愛する人たちのやさしさ 見るものすべて---

(収集プロフィール)

クミコ(1954年9月-)は、茨城県水戸市生まれ(母親の里帰り出産による)の歌手。以前の名は高橋久美子、高橋クミコ。早稲田大学教育学部卒業。

略歴

演劇を志し早稲田大学に入学するが、不条理劇の中で唄うシーンがあり、唄で表現することに目覚め、劇団を退団。大学卒業前、友人に誘われバンドにピアニストとして参加。その後、バンドを辞めたその友人の代わりにボーカルを担当する。

1978年24歳の時「ヤマハ・ポップコン」こと第16回「ヤマハポピュラーソングコンテスト」の予選を勝ち抜いて(「関東甲信越大会」では歌詞を忘れてしまったが、何かが評価されて先に進めた)、つま恋本選会に出場。ボーカルを斉藤久美子(後のクミコ)がつとめた「ホンキートンク」の「どしゃぶり ずぶぬれしどろもどろ」は優秀曲に入選する。同年日本代表の1人に選ばれ、第9回「世界歌謡祭」にソロ歌手、斉藤久美子として出場したが、予選で落選し本選に進めなかった。この時のグランプリ曲は円広志の「夢想花」だった。

レコード会社から予定されていた収録済みのデビュー盤はボツになり、挫折を味わう。その後長い間、小さなスペースで少数の熱心なファンや永六輔などの支援者に支えられながら唄い続けた。ホール・コンサートがメインの活動となるのは2003年秋以降である。

1982年6月、27歳の時、日本におけるシャンソニエの老舗だった銀座「銀巴里」のオーディションに合格し、プロデビューする。1987年、ミュージカル「レ・ミゼラブル」の日本初演にアンサンブルの一員として出演。同年7月に高橋久美子の名でLPアルバム『POKKOWA PA?』をリリース。32歳での遅いデビュー盤だった。

1980年代後半から「渋谷ジャン・ジャン」に出演し始め、10時劇場「六輔七転八倒九百円十時」へのゲスト出演、10時劇場「高橋久美子の唄う『音楽図鑑』」、「世紀末コンサート」、「高橋クミコの『ステキな唄』」シリーズなどを1999年まで続ける。ほかには新橋「アダムス」などのシャンソニエや青山円形劇場、南青山MANDALAが主な活躍の場所だった。パントマイムのマルセ太郎、俳優の篠井英介との共演も行う。

1996年、「茶目子の一日」や「お定のモリタート」など、昭和の名曲や快・怪作を歌うアルバ

ム『世紀末の円舞曲（ワルツ）』を東芝EMIよりリリース。

一般に知られるようになる最初のきっかけは2000年の『AURA』。『世紀末の円舞曲（ワルツ）』とライブを聴き「街角の歌姫」クミコの唄に感動した作詞家・松本隆のプロデュース・全編作詞になるアルバムだった。

さらなる大きな転換点はavex io移籍後の初アルバム『愛の讃歌』に収録された、バルバラのシャンソンに詩人の覚和歌子が原詞を離れて作詞した「わが麗しき恋物語」という曲で、2002年、48歳の時。ニッポン放送のアナウンサー・上柳昌彦が「うえやなぎまさひこのサプライズ!」で取り上げるなど、ラジオやテレビの番組によってクミコを知らない人々にも紹介されることとなる。たまたま聴いて涙してしまったと評判が広まり、じわじわと世に知られるようになっていった。その後も覚和歌子作詞になる「わたしは青空」（作曲／三木たかし）、「さよならを私から」（作曲／荻原慎太郎、佐々木聡作。韓国の若手人気歌手、イ・ギチャンが「セサラム（三人）」と題してカバー）、「人生のメリーゴーランド」（作曲／久石譲）などの話題作が続いている。2007年2月には『十年～70年代の歌たち～』をリリース。イッセー尾形、江國香織、大石静、残間里江子、椎名誠、立木義浩、筑紫哲也、弘兼憲史、藤原美智子、吉永みち子が選出した“クミコに歌わせたい思い出の70年代の歌たち”10曲をクミコ流の解釈で表現。また中島みゆき書き下ろしの「十年」も話題となった。

7月にはそれまでの集大成となるCD8枚+DVDの『コンプリート・クミコ・ボックス～二十五年～』をリリース。絶版になっていたかつての音源も復刻された。9月には映画「エディット・ピアフ～愛の讃歌～」の公開に合わせて『クミコ meets ピアフ』をリリースし、エディット・ピアフの唄を本格的に取り上げた。

2008年3月には『友よ!～あの出発ち（たびだち）を“青春”と呼ぼう～』をリリース。70年代中心の男歌10曲をカバー、福岡の同世代の主婦、智子がクミコに提供した新曲「ブラボー!」も収録されている。

2009年2月には手紙の朗読と歌で綴る—ミュージカル仕立ての歌語り「届かなかったラブレター」Vol.1—をミュージカル界の貴公子、井上芳雄と二人で共演した。

シャンソン歌手と形容されることもあるが、レパートリーにはシャンソンより、オリジナル、戦前戦後の日本と世界の歌謡曲やポピュラーソングが多い。美しく明晰な日本語で、ジャンルを問わず本当に唄いたいものだけを唄ってきた。

唄とお喋りの大きな落差や、独特の感性で綴られる文章もファンの人気が高い。

*「十年～70年代の歌たち～」に続いて、マイ・ペースや甲斐バンドらの懐かしいJ-POPナンバーを取り上げているが、音楽を愛し続けてきた福岡の主婦が書いた「ブラボー!」も注目の一曲だ。歌詞と同化したような説得力ですべて彼女の歌に生まれ変わっている。

*「愛の讃歌」「バラ色の人生」で愛することの素晴らしさを、「雀のように」で女の人生を、とクミコが本格的シャンソンを徐々に歌い上げている。

*シャンソン歌手・クミコの25年の軌跡をCD8枚とDVDに収録。78年のポピュラー・ソング・コンテストで「ホンキートンク」のメンバーとして歌った曲から「高橋久美子」「高橋クミコ」、2007年現在の「クミコ」までの活動を遡れる。87年発表のファースト・アルバム「POKKOWA

PA?」は溝口肇プロデュースで、シャンソン色の希薄な歌唱だった。96年の「世紀末の円舞曲」での「茶目子の一日」「煙草屋の娘」などは、昭和初期の雰囲気想像させコミカルに歌う。クミコ・ワールドはシャンソンで括りきれない。松本隆・筒美京平コンビが「クミコ」の歌声に惚れ込んで制作された2000年の「AURA」。女性の鋭利な視線による岩谷時子の詞を歌った2004年の越路吹雪カバー「イカルの星」。さらにオリジナル・アルバム未収録曲まで聴くと、「クミコ」の幅広さを再確認できる。

*中島みゆき書き下ろしの「十年」で始まるカバー曲集。70年代の街に流れていた歌をクミコがうたうとき、そこには場違いな質感と乾いた情感が横溢。そこが凄い。なかでもディランIIの「プカプカ」で、とんでもなく面白い世界を作りだしている。別の歌だ。

*やっとシャンソンに回帰したクミコのベスト。若き日の銀巴里でのライブ音源「バイバイ・リバイバル」、LP「POKKOWA PA?」からの「Unknown Trip」なども収録。シャンソンを意識させず、言葉を大事にした歌から湧き出る情感をテーマにした歌を聴かせる。

*ベテラン・シンガーのシングルは、出会いから少しずつ燃え上がってゆく女心の変化をドラマティックに歌いあげている。死ぬほど愛し合っても、ふたりしてダメになる前に身を引いてしまわなければと、とってしまう大人だからできる恋の歌、哀しいね。

*セリフのように心に染み入る彼女の魅力を凝縮した1枚。

*1年ぶりの新作は彼女が内包する世界の広さを堪能できる選曲。韓国の作品に日本語詞をつけた(2)(7)はアレンジの巧みさもあって、見事に彼女の歌になった。(3)(5)(12)はナマで聴いてみたい。「瑠璃色の地球」コンビの作品(9)は日本産シャンソンのスタンダードになりそうな佳曲。

*この人の詞は極めて日常的な言葉の羅列なのになんとも新鮮な感じがする。いや、近ごろの流行歌の歌詞が少なからず言葉の垂れ流しになっているからこそ、普段の言葉で唄われるとショックを受けるようになってしまったのか。これぞ「声に出して読める日本語の歌詞」だ。

*シャンソンを唄い続けてきた人だけに、言葉というものに細かく神経を配り、一つひとつの「世界」を明確に浮かび上がらせる技はさすがだ。歌を芝居にまで昇華できる数少ないシンガーとして、そして聴く側にも人生経験が求められる「歌」は、もっと注目されるべきだろう。

*大正から昭和の前半の歌と、それをイメージした歌、あるいは歌唱で、魔物が出没するというたそがれどきを顕したアルバム。正統的な発声、澄んだ明るい声がかえって怖さを倍加している。編曲というよりも、完全にクミコのオリジナルにしているところがすごい。

*彼女の歌声には、何処かノスタルジックな匂いを感じてしまう。非常に日本的な声質と言うのだろうか、ストリングスを中心としたしっとり懐かしさを持ち響くデジタルな音空間と、高橋クミコの陰を含んだ歌声とのマッチには、妙な心地好さを感じてしまう。

シングル

接吻（2000年 カップリング「鳥の歌」東芝EMI）

お帰りなさい（2001 カップリング「情熱」東芝EMI）

幽霊・わすれな歌（2002 avex io）

わが麗しき恋物語（2003 avex io）

さいごの抱擁（2003 avex io）

わたしは青空（2004 カップリング「口づけ」avex io）

さよならを私から（2005 カップリング「ほほえみの唄」avex io）

届かなかったラブレター（2009 カップリング「車輪」井上芳雄とデュエット avex io）

アルバム

POKKOWA PA?（ポッコワ・パ 1987 Sound World）

MACHI（1994 イースタンゲイル）

世紀末の円舞曲（1996 東芝EMI）

AURA（2000 全曲作詞・松本隆 東芝EMI）

愛の讃歌（2002 avex io）

愛しかないとき（2003 avex io）

イカルス之星－越路吹雪を歌う（2004 avex io）

わたしは青空－2004 コクーン・ライブ（2005 CD及びDVD avex io）

クミコ・ベスト－わが麗しき恋物語（2006 avex io）

十年～70年代の歌たち～（2007 avex io）

コンプリート・クミコ・ボックス ～二十五年～（2007 CD8枚＋DVD avex io）

クミコ meets ピアフ（2007 avex io）

友よ!～あの出発ち（たびだち）を“青春”と呼ぼう～（2008 avex io）

著書

「ヘコタレナイー人生はまわり道したっていいじゃない」（主婦と生活社 2003.10）

「わが麗しき歌物語」（講談社 2007.3）

私はほかの人達ほど乗り気になれないのだが、いい曲であるのは確かだ。秋元の歌唱力も、この年代ではずば抜けているだろう。声もいいし、そこはかとなく哀愁をおびた魅力がある。ユーチューブで試聴したところ、演歌や歌謡曲も器用にこなすが、やはりバラードやシャンソンのほうが、より向いている。

小鳥たちは 何を騒ぐの 甘い果実が---他人と比較べる幸せなんて いらぬ あなたの視線が---ああこの世に生まれめぐりあう奇跡----

(収集プロフィール)

秋元 順子（あきもと じゅんこ、1947～）は日本の女性歌手。東京都江東区深川生まれ。ハワイアンバンド出身であるが幅広いジャンルを歌う。

2008年の第59回NHK紅白歌合戦に初出場したが、61歳での初出場は紅組史上歴代最高齢記録である。初出場歌手会見の報道によれば「団塊世代の星」。

*歌手生活の始まりはハワイアンバンドであるが、スタンダードジャズやシャンソン、カンツォーネ、ラテン、ポップス、民謡、歌謡曲...などジャンルを問わず幅広くライブ活動をする中、デビュー曲「マディソン郡の恋」と出会い04年4月にインディーズで発売。映画「マディソン郡の橋」をモチーフにした切ない大人の恋物語を、ルンバのリズムにのせた哀愁溢れるアレンジと、秋元順子の伸びやかで心に沁みる歌声が一度聞いたら忘れられないと大評判に。インディーズ発売直後から口コミで広がり、有線問い合わせランキングで連続1位になり、05年7月、58歳でメジャーデビュー。

従来の歌謡歌手の中であって“ありそうでなかった”魅力ある中低音の情感溢れる歌声が中高年を中心に圧倒的に支持される。そんな中で08年1月に発表された「愛のままで---」は、大人の愛を歌いあげる秋元順子の真骨頂といえるナンバー。ポップスでも演歌でもない彼女の音楽はマチュア世代(40代以降の成熟した大人)へ向けた歌謡の新たな潮流として注目され、08年「第59回紅白歌合戦」に女性歌手としては歴代最高齢での初出場を果たす。

*映画、小説ともに大ヒットとなった「マディソン郡の橋」をテーマとした作品。ラテン・リズムを採り入れた渋いアレンジで、大人の心情にフィットする切ない言葉を歌う、21世紀の歌謡ポップス。

*女性はいくつになっても女性であることがわかるアルバムで、ボサ・ノヴァやジャズなどの幅広いテイストを備えた、成熟したヴォーカルが歌にリアリティを添える。平凡な日常の幸せを描いた「ひだまり」などのヒット性も高い。

*アコーディオンの音色から始まる、哀しげで人間臭い演歌の世界感。彼女の深い歌声は、人生の酸いも甘いも噛み分けた練達の響きで、非常に説得力があり落ち着く。ドラマティックに展開する楽曲もしかり、人の数だけ人生あり、と喚起させてくれる曲である。

*大人のラブ・ソングを得意とするヴォーカリスト、秋元順子の1stアルバム。団塊世代のラブ・ソングとしてカラオケ大会などでお馴染みの「マディソン郡の恋」や「枯葉」といった楽曲を収録。

趣味は自動車の運転。特技はフラワーアレンジメント。

家業は花屋である。

幼少時は児童劇団に所属し、時代劇女優志望だった。

おやじギャグを多く発する。

2009年2月に徹子の部屋にゲスト出演し「愛のままで...」を唄った。

シングル

「マディソン郡の恋」（作詞・作曲：星桂三）2005年7月

c/w 「月の浜辺」（作詞：長平俊一、作曲・編曲：花岡優平）

「雨の旅人」（作詞・作曲・編曲：花岡優平）2007

c/w 「ロンリーナイト・東京」（作詞・作曲・編曲：花岡優平）

「愛のままで...」（作詞・作曲・編曲：花岡優平）2008

c/w 「忘れもの」（作詞：花岡美奈子、作曲・編曲：花岡優平）

2009年1月26日付オリコン週間シングルチャートで（ソロでの）史上最年長1位を

最近、知った方である。プロフィールを見ると、すでにかかなりの活動歴があるようだ。古い歌謡曲のカヴァーも、ムードよく、新機軸を取り入れながらもそつなくこなしている。オリジナルに関しては、まだ個性がやや薄い感じだ。表現の志向が、あいまいさを含めているのかも知れないが。

(詞・曲 畠山美由紀)

緑色に潤む風が 無口な花を撫でる時に あなたの声 思い出すわ 君のことがよく分かるよ 何気もなく横顔の----

(収集プロフィール)

畠山 美由紀 (はたけやま みゆき、1972-) は宮城県気仙沼市出身のシンガーソングライターである。10人編成バンドDouble Famousや男女ユニットPort of Notesのボーカリストをつとめ、2001年にソロデビュー。

リトル・クリーチャーズの青柳拓次率いるダブル・フェイスや小島大介(g)とのユニット、ポート・オブ・ノーツでヴォーカリストとして活躍するシンガー・ソングライター、畠山美由紀。清涼感をたたえながらもソウルフルに響くヴォーカリゼーションが大きな魅力である。01年9月には、マキシ「輝く月が照らす夜」でソロ・デビュー。フリー・ソウルっぽいジャジー&メロウなサウンドに、柔らかなヴォーカルが被さり、何とも気品あふれるファンキネスを創出させるのに成功。

*スカパラが最もエキゾだった時代にバンマスだったASA-CHANGプロデュース。しかも往時の歌謡曲やスタンダードのカヴァーとくれば、おもしろくないはずがない。畠山の歌声も、無駄な自意識を排しておおらかだ。

*ノラ・ジョーンズ「ドント・ノー・ホワイ」の作者として知られるジェシー・ハリスのプロデュース&演奏のもと、畠山美由紀の美しい歌声が最大限に輝いた傑作。新曲、童謡、ビートルズ・カヴァーなどを織り交ぜ、夢のようなアコースティック・ポップ・ワールドがここに。

*ハナレグミの永積タカシが作曲、クラムボンの原田郁子が作詞を手がけたメロウ・ソウルな「愛のメロディ」。三者三様な個性の顔合わせは、それまでの畠山の楽曲には希薄な「ほんわか」とした装いを伴いながら素敵に着地。従来路線を踏襲した「クレマチスよ」での、しっとりとした歌声も当然魅力的。

*スロー・テンポでの噛み締めるような語り口はもう圧倒的に独自の世界。ペダル・スティール・ギターとの相性のよさが際立っている。いまだに癒えていない古傷を思い出させる音楽であり、その意味でヘヴィだ。

*インディーズで話題のユニット、ポート・オブ・ノーツからソロ・デビュー。日本語のもつ美しさが穏やかなメロディに乗せて透明な声で歌われる。

*爽やかで心地よく広がるサウンド、そして芯の通った透明感のある歌声に惹き込まれる。カップリングは一転し、切なさがメロディに乗って心に訴えかける曲。ふんわりとやさしく包み込む作品。

*70年代風のメロウなポップ感覚と、しっかりとしたヴォーカル。同名のソロ・デビュー作から

のカットで、ポート・オブ・ノーツの作品でもあったカップリング曲にはアン・サリーが参加する。英語の自作曲がどこまで理解されるかが課題。

*マニアックな世界かもと思いながら聴き始めたら、先入観をモロに引っ繰り返す快作。スマートで品の良いポップスに仕上げられている。それも付け焼き刃のポップス味ではなく、芯まで火の通った本格派の「商品」。

*豊富なセッション経験を持つシンガー。包容力のある力強いヴォーカルから発せられる歌には、すでに確立された音楽性・世界観があり、安心して聴ける。ヴァイオリンの調べが印象的なスタジオ・ライブが秀逸。

シングル

輝く月が照らす夜 (2001年9月)

遠い灯、遠い場所 (2002年3月)

Diving into your mind (2002)

海が欲しいのに/眠ってしまいたい (2003)

愛にメロディ (2005)

アルバム

Diving into your mind (2002年3月)

WILD AND GENTLE (2003)

リフレクション (2006)

Summer Clouds, Summer Rain (2007)

カバーアルバム

Fragile (2002年9月26日)

LIVE AT GLORIA CHAPEL-The Great American Songbook- (2004)

DVD

LIVE“Fragile”2005 at GLORIA CHAPEL (2006)

参加作

富田ラボ「シップビルディング」 (2003年2月5日)

4. 耐え難くも甘い季節 (feat. 畠山美由紀)

What's Love? 「温故知新」 (2003年3月5日)

11. 知床旅情<What's Love?+ 畠山美由紀&こだま和文>

IT'S ONLY ROCK'N' ROLL (BUT WE LIKE IT) (2003年3月12日) ローリング・ストーンズへのトリビュート・アルバム

1. (I CAN'T GET NO) SATISFACTION (MIYUKI HATAKEYAMA+saigenji)

Felicidade A Tribute to Joao Gilberto (2003年9月3日) ジョアン・ジルベルトへのトリビュート・アルバム

ベサメムーチョ (CHORO CLUB & 畠山美由紀)

真冬物語 (2004年1月1日) 「堀込泰行, ハナレグミ, 畠山美由紀」 名義

SUGIURUMN 「star baby」 (2004年5月21日)

1. star baby (feat.miyuki hatakeyama)
2. star baby (YODA's sunset of ES VEDRA mix)
- SUGIURUMN 「Our history is made in the night」 (2004年6月)
- Soul Bossa Trio 「songs and melodies」 (2004年6月)
4. Alison (feat.畠山美由紀)
- Sandii 「Sandii's LEMURIAN HEART」 (2004年7月)
- 11 Llorando Se Fue ランバダ
- Re-Enter the Dragon (2004年9月) ブルース・リーへのトリビュート・アルバム
- Disc1-5. 明日天気になーれ (パシフィック231 featuring畠山美由紀)
- 沖仁 「New day to be seen」 (2005年5月)
2. Will I ever see your face again (feat.畠山美由紀)
- Apple Of Her Eye りんごの子守唄 (2005年11月) 日本の女性シンガーによるビートルズのカバ
ー集
- 1.Here Comes The Sun
- 宮川弾アンサンブル「pied-piper」 (2006年10月)
3. waitin' feat.畠山美由紀
- 菅野よう子「CMようこ」 (2008年5月2日)
14. Melody ('06 日立企業広告「つくろう。」 TV-CMソング)
- コンサート
- Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライブ 2004 (2004年10月14日)

オーケストラにも負けない、迫力のある歌唱。日本人の歌唱とは、違う味わいのある語感。巧みなハーモニー。日本のアイドルは、ときにビックリするような歌唱力の人がいるが、こちらは、さすがに底力がある。

(詞・Jamie Jonesほか 曲・Jamie Jones)

僕は一体どうしたんだろう 君に逢った時からは 独りで生きてる気がしない--君と永遠願おう 愛に理由はいらない 広い世界でこの幸せに---

(収集プロフィール)

東方神起(とうほうしんき、トンバンシンギ、TOHOSHINKI)は、韓国の男性5人組の歌手(ボーカル)グループである。コーラス、アカペラ、ダンスをこなす。日本では、2005年4月にデビューを果たす。日韓を中心にアジアで活動中。

“東方神起”とは「アジアの神が起きる」という意味合い。

*総じて86~88年の間に生まれたティーン・ユニットである東方神起は、クインテット編成のコーラス・グループ。10代の若さでありながらア・カペラも巧みにこなし、さらにメンバー全員がリードを取れる歌唱力。

04年、そんな彼らが祖国・韓国でデビューすると、そのイケイケなルックスと歌心の賜物か、大ブレイク。同年に初来日し、05年4月に日本デビューを果たした。

*日本のそれとは違い、確実な歌唱力とコーラス・ワークをものにする。彼らは「アイドル・グループ」という範疇に収まりきれない、大きな器を持っている。

せつないメロディのラブ・バラードで、各メンバーが代わる代わる歌い、それぞれのスウィートな歌声が堪能できる。特にサビでのファルセットが聴きもの。カップリングのア・カペラもハーモニーが見事。

*「Beautiful you」は満を持して発表される壮大なスケール感を持ったナンバー。「千年恋歌」は、ペ・ヨンジュン主演ドラマ「太王四神記」の主題歌だ。

*JEJUNGのリード・ヴォーカルをフューチャーしている。ロックっぽいドラマティックなサウンドがJEJUNGの情感たっぷりの歌声を盛り上げ、彼の魅力を引き出している。

*アップ・テンポでダンサブルな「If...!?!」、バラードの「Rainy Night」と両曲とも、アメリカやイギリスのボーイズ・グループのような存在感にあふれており、感情のこもった日本語の歌も魅力的。

超メロウで洋楽志向なR&Bやビートがバリバリ利いたダンス曲などを盛り込んだクール&ワイルドな仕上がり。強靱なカリスマ性と匂い立つほどの男性美をまざまざと表現し、ヴォーカル・グループとしての実力を知らしめる。

16枚目は、シボレーMWのCM曲になった耳なじみのいいクールなナンバー。心臓の鼓動のようなベース、ドラムに日本語の歌詞を乗せた。

*パンキッシュなイントロやコミカルなリズム&ヴォーカル・アレンジなど、正統派花美男のイメージを刷新するようなハートも弾むウキウキ☆ポップ・ナンバー。「Together」のキッズ・コーラスのヴァージョンは親子で楽しんで!

*14枚目のシングル。ストリングスとピアノをひっそりと添え、ドラマティック&エモーショナルなヴォーカルを最前面に押し出したラブ・バラード。楽曲の世界観を鮮やかに表現するその歌声。

概要

2003年にエス エム・エンタテインメントの練習生の中から選抜され結成。翌2004年1月に韓国でCDデビューすると、コーラスの美しさでたちまちトップアイドルの仲間入りを果たし、その後アジア各国でも人気を獲得。2006年、2008年に韓国のゴールデンディスク大賞を受賞した。日本では、2005年4月に「Stay With Me Tonight」を発表し、新人アーティストとして、デビューを果たす。

メンバー

CHANGMIN (MAX) / チャンミン (マックス)

ハングル表記：최강창민 漢字表記：最強昌珉 ハイパート担当

1988年2月生まれ、家族構成：父（高校の国語教師）・母・妹（2人）

慶熙大學校 芸術デザイン学部 ポストモダン音楽科在学中

YUNHO (U-Know) / ユンホ (ユノ)

※東方神起のリーダー

ハングル表記：유노윤호 漢字表記：瑜鹵允浩 ローパート・ラップ担当

1986年2月生まれ、家族構成：父・母・妹

明知大學校 公演芸術学部在学中

JEJUNG (HERO) / ジェジュン (ヒーロー)

ジェジュンを参照

ハングル表記：영웅재중 漢字表記：英雄在中 メインパート担当

1986年1月生まれ、家族構成：父・母・姉（8人）の末っ子。

河南高等學校卒業

（デビュー前、歌手になるために一回高校休学）

YUCHUN (Micky) / ユチョン (ミッキー)

ハングル表記：믹키유천 漢字表記：秘奇有天 ミドルローパート・ラップ担当

1986年6月生まれ、家族構成：父・母・弟

慶熙大學校 芸術デザイン学部

ポストモダン音楽科在学中 小学校高学年からデビュー前までアメリカで暮らす。

JUNSU (Xiah) / ジュンス (シア) ミドルハイパート担当

1987年1月生まれ、（申請の関係で、実際は1986年12月）

家族構成：父（ピザ屋経営）・母・兄（1人）（二卵性の双子）

明知大學校 公演芸術学部在学中

シングル

1 Stay With Me Tonight 2005年4月 作詞: 澤本嘉光・小山内舞 作曲: 羽岡佳

2 Somebody To Love 2005 作詞: 澤本嘉光・小山内舞 作曲: 羽岡佳

3 My Destiny 2005 作詞: 小山内舞 作曲: 松浦晃久

4 明日は来るから 2006 作詞: 妹尾武・小山内舞 作曲: 妹尾武

15 Together 2007 作詞: H.U.B. 作曲: 原 広明

16 Purple Line 2008 作詞: 園田凌士 作曲: Yoo,young jin

17 Two hearts/WILD SOUL

(CHANGMIN from 東方神起) 2008 作詞: H.U.B. 作曲: AKIRA

作詞: 園田凌士 作曲: corin

18 Runaway/My Girlfriend

(YUCHUN from 東方神起) 2008 作詞: H.U.B. 作曲: AKIRA

作詞: YUCHUN 作曲: JUN SUYAMA

19 If...!/?/Rainy Night

(JUNSU from 東方神起) 2008 作詞: H.U.B. 作曲: AKIRA

作詞: H.U.B. 作曲: JUNSU

20 Close to you/Crazy Life

(YUNHO from 東方神起) 2008 作詞: H.U.B. 作曲: AKIRA

作詞: H.U.B. 作曲: Marcus Johnsonほか

21 Keyword/Maze (JEJUNG from 東方神起) 2008 作詞: H.U.B. 作曲: AKIRA

作詞: 園田凌士 作曲: ICHIRO FUJIYA

22 Beautiful you/千年恋歌 2008 作詞: H.U.B. 作曲: Steve Smithほか 作詞: H.U.B. 作曲: 久石譲

23 どうして君を好きになってしまったんだろう? 2008 作詞: Lambsey 作曲: Fredrik“Fredro”ほか

24 呪文 -MIROTIC- 2008 作詞: RYOJI SONODA 作曲: Sigvardtほか

25 Bolero/Kiss The Baby Sky/忘れないで 2009

受賞歴

☆ 2008年11月 「第15回韓国芸能芸術賞」 男性ダンス歌手賞/韓国

☆ 2007年1月 「第2回SEED アワード 音楽授賞式」 アジア最高人気賞/タイ

特徴

東方神起は、J-POP・K-POPを主にしている。一部の楽曲「HUG」などは、日本語・韓国語・中国語・英語のバージョンを収録。日本盤は、日本語バージョンが基本である（一部で英語バージョンの収録）。

日本のLIVEでは、日本語楽曲のスタイルで活動している。日本でK-POPのLIVE活動は行っていない（2008年現在）。日本以外のLIVEでは、K-POPを主としているがJ-POP（日本語楽曲）も歌い、ソロ曲で個々のパフォーマンスを披露する場合もある。ちなみに韓国・日本・台湾デビューしている。

ライブでは、アカペラやコーラスを活かした聴かせるバラード、ソウルフルなR&B、ダンサーを交えダンスパフォーマンスで魅せるダンサブルな曲まで様々なジャンルの曲を歌うが、アルバムのコンセプトに合わせた選曲で、バンドを加えたりするなどし、その都度趣きをかえている。

2005 - 2008年 日本へ、そしてアジアへ駆ける

韓国デビューしてから瞬く間にトップグループとなった折の2004年末に生活拠点を日本に移す。5

人一緒に暮らしながら、文化や慣習・日本語の習得とダンス・ボイストレーニングを並行させ、2005年4月、日本デビューをする。10代の5人は一時的なホームシックを克服、その後日韓を往復しながら半々の活動を行なうようになる。メンバー間の仲は良い。2006年からは、日本国内のLIVE活動をしながらか国へ進出していく。後半に韓国活動を再開、年末に音楽賞総なめのグランドスラムを達成している（受賞歴などを参照）。2007年～2008年半ばになると、より本腰をいれ日本中心の音楽活動に比重を置き、韓国活動は事実上休止状態とする。日本での知名度を徐々に広めていく。アジアLIVEツアーへも力を注いだ（中国・タイでCF出演）。また、2008年にメンバー全員が20代となり、9月からは1年7か月ぶりとなる韓国活動を復帰。ダンサーのケニー・ウォーマルド（ジャスティン・ティンバーレイク、クリス・ブラウン、クリスティーナ・アギレラプロデュース）が振付担当した「呪文 -MIROTIC-」を発表した（韓国では「扇動的」であるとして有害指定された。

ユーロビートをベースにしたダンス音楽を、今風にリノベーションした、力強いポップス。5曲、6曲試聴したが、なかなかいい。この曲は、全編にわたる強めの打ち込みと、前へ前へと奔っていくクロストレードなインパクトがいい。千紗の歌唱も、倅田来未に近い力量がある。

(詞・千紗/Kenn Kato 曲・鈴木大輔)

なんとなく不意に、振り向いた途端 あなたと視線が重なった---恋はいつだって矛盾に溢れて揺れる想いに惑わされる----

(収集プロフィール)

GIRL NEXT DOOR (ガールネクストドア) は、日本の音楽ユニット。

*女性ヴォーカル、千紗を中心としたユニット。デビュー作から多くのメディアに採り上げられるなど、勢いに乗る3人の前向きなパワーが伝えられている。

*懐かしさを感じせるダンス・ビートとポップなメロディを軸に、千紗の軽快な歌を押し出す作風。どこかで聴いたことのあるような親しみやすさは心地よい。

*デビュー作の勢いそのままに、迷いや不安さえ吹き飛ばし、前へ進む力を与えてくれる爽やかなアップ・チューンに。

*紅一点ヴォーカルに、キーボード(作曲)、ギターの三人組ユニットによるデビュー作。パンチの利いた「偶然の確率」はTBS系「王様のブランチ」エンディングなどでもおなじみ。しっとりとした「Breath」、開放感あふれる「red ribbon?運命の人?」を含め、E.L.T.を思わせる伸びやかなヴォーカルが際立つ。

*女性ヴォーカルにコンポーザー、ギタリストという男女3人組ユニット。初期のEvery Little Thingを彷彿とさせる、エイベックスお得意のデジタル・サウンドがインパクト抜群のアップ・チューン。

概要

2008年6月14日に、avexが設立20周年記念にふさわしい「社運を賭けた」大型新人アーティストとして発表したユニットである。同社史上初の「Produced by avex trax」のアーティストである。

英語で「身近な親しみのある女の子」という意味の慣用句が、ユニット名の由来である。

来歴

関西を中心にダンスパフォーマンスで活躍していた千紗がavexにスカウトされ、スクールの特待生としてレッスンを受けていた際、鈴木大輔の曲を歌ってみたものが社長の松浦勝人の目にとまり、デビューが決定。ギタリストを探す際に、鈴木大輔が友人であった井上裕治に声をかけ、3人のメンバーが確定する。

第59回NHK紅白歌合戦に紅組から出場した。

メンバー

千紗 (ちさ、1985年11月-)

兵庫県篠山市出身。兵庫県立篠山鳳鳴高等学校卒業。血液型AB型。ボーカル・作詞担当。以前は、Ma-Kiss (マーキス) のメンバー、CHISAとして活動していた。

井上裕治（いのうえ ゆうじ、1978年9月-）

福島県出身。ギター担当。元WISH*のメンバー（ギター・作曲担当）。

鈴木大輔（すずき だいすけ、1978年10月-）

神奈川県出身。キーボード・作曲担当。作曲家・編曲家としても活動している。以前は、Rubii
・ day after tomorrowのメンバー（キーボード・作曲担当）、歌スタ!!のウタイビトハンターとして活動していた。

シングル

偶然の確率（CD+DVD）（2008）

Drive away/幸福の条件（CD+DVD）（2008）

情熱の代償/ESCAPE（CD+DVD）（2008）

アルバム

GIRL NEXT DOOR（CD+DVD）（2008）

途中で転調してからが、楽しく快い。スマップの後が出てこない、と思っていたら、やっとこのグループが出てきた。勿論、まだまだだけど。この曲は、何かはよく分からないけど、アピールするものがある。

文芸社より「華の昭和名歌150選」定価1、155円を発売中。宜しければ、ネットでも買えます。

(詞・youth case 曲・加藤裕介)

伝えたくて伝わらなくて時には素直になれずに泣いた季節を越えた僕らは 今とても輝いてるよ---百年先も愛を誓うよ 君は僕の全てさ 信じている ただ信じてる---

(収集プロフィール)

嵐(あらし)は、日本の男性アイドルグループ。所属はジャニーズ事務所、レコードレーベルはジェイ・ストーム。

*超人気男子アイドル・グループ。マブなルックスとキレのあるダンシング、親しみやすいキャラで女子のハートを熱く焦がす。メンバーは、相葉雅紀、大野智、櫻井翔、二宮和也、松本潤の5人。

*99年のデビュー曲「A・RA・SHI」以来、「SUNRISE日本/HORISEN」「台風ジェネレーション」「感謝カンゲキ雨嵐」「君のために僕がいる」「時代」……と連続してヒットを飛ばしている。また、メンバー各々が俳優業などで個性を発揮し、活躍中だ。

元気ハツラツ! 彩度・明度ともに最高値なサウンド、爽やかなハーモニーをカジュアルに歌い上げるポップ・ナンバー。新しい季節を迎える情熱や不安や高揚感をみなぎるエネルギーで思いっきりブチ上げた、フレンドシップにあふれる最強メッセージ・ソングだ。

*「Happiness」は、ユニゾンの魅力が十二分に発揮された、メロディアスなポップス。5人の優れたリズム感が大いに発揮されている。櫻井も作詞に参加した「Still...」は、新たな始まりのために今歩き出そう、と歌う前向きなナンバー。

*キャッチーなサビ・フレーズ、鮮やかな転調とオープンなメロディ、アップ・ビートなラップも加えて文字どおり盛りだくさんなタイトル曲。かけ合いのコーラス・ワークもすっかり慣れたふうで、役者やタレントとしてではなく、ミュージシャンとしても著しい成長を見せている。

*映画「花より男子ファイナル」の主題歌。内容は、愛を高らかに歌い上げる究極のラブ・ソングになっている。カップリングの「How to fly」もまた、前向きな力強い作品。

*ドラマ「流星の絆」の主題歌。愛しさや切なさといった、ありったけの想いを極上のメロディに乗せて綴った、嵐らしさ全開のポップ・チューンだ。

概要

1999年、ジャニーズJr.内で人気の高かった人物から選出され結成された男性アイドル歌手グループ。同年9月15日 デビュー記者会見を行い、11月3日『A・RA・SHI』でCDデビューを果たす。グループ結成、およびCDデビューは、当人たちには十分に知らされないまま進められたもので、結成会見までほとんど話したことの無いメンバーがいるほど唐突の出来事であり、嵐というグループとしての持ち味はもちろん、結束もCDデビューと並行して図らなければならなかった。結成

時から各メンバーの知名度、人気は高かったが、結成後しばらくの間はジャニーズJr.活動の場を同じくすることが多く、その人気もJr.の延長であったことは否めない。2002年よりメンバーのソロ活動（『木更津キャッツアイ』（櫻井）、『ごくせん』（松本）など）が充実しはじめたことをきっかけに、ジャニーズJr.ではない、ひとつのアイドルグループ嵐としての人気が定着。音楽活動、テレビドラマ、映画、バラエティ番組などメンバー各人がそれぞれの個性を活かしながら活動を行なっている。また2008年頃からは、CDのセールスも以前に比べ、高い水準を記録している。

メンバー

大野智（おおの さとし、1980年11月-、東京都出身）嵐のリーダー・メインボーカル

櫻井翔（さくらい しょう、1982年1月-、東京都出身）ラップ担当

相葉雅紀（あいば まさき、1982年12月-、千葉県出身）

二宮和也（にのみや かずなり、1983年6月-、東京都出身）

松本潤（まつもと じゅん、1983年8月-、東京都出身）

年譜

1999年9月15日 ハワイ州ホノルル沖のクルーズ客船にてデビュー記者会見。

嵐の結成、およびCDデビューが発表された。

1999年11月3日 『A・RA・SHI』でCDデビュー

前々日に行われた握手会には約8万人のファンが殺到し話題になった。

デビューCD『A・RA・SHI』は結成後2ヵ月で発売されたにもかかわらず、初回出荷枚数は36万枚（曲が決定する以前から発売が決まった時点で枚数は決定していた）、発売1週間の初動売上は約56万枚（オリコン調べ、デビューCDとしては当時歴代1位）、累計売上約97万枚。

2000年4月6日 初のコンサートツアー『嵐 FIRST CONCERT 2000』を開催。

2001年10月3日 初の冠番組『真夜中の嵐』が放送開始。

2001年11月7日 所属レコード会社をポニーキャニオンからジェイ・ストームへ移籍。

ポニーキャニオンから発売されたCDはすべて廃盤となったため、翌年5月16日、ポニーキャニオン在籍時のシングル曲を収めた『嵐 Single Collection 1999-2001』が発売されている。

2002年3月 相葉雅紀が肺気胸のため入院し、4人で活動する。

映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』で復帰。

2002年10月18日 メンバー5人全員での初主演映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY』が公開。

主題歌、挿入歌も担当。

2004年3月1日 初主演映画の続編『ピカ☆☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY』が公開。

前作同様主題歌、挿入歌共に担当。

2004年8月21日、8月22日 『24時間テレビ「愛は地球を救う」』第27代メインパーソナリティを務める。

大野智がTシャツのデザインを手がける。

番組終盤には相葉雅紀がメンバーへの手紙を読み上げ、メンバーの涙をさそった。

2006年3月11日 二宮和也がアメリカ映画『硫黄島からの手紙』撮影のため渡米。

4月25日に帰国するまで、4人での活動に。

2006年7月31日 キャンペーン『JET STORM』でタイ王国、台湾、韓国の3ヶ国をわずか1日で回り、アジア進出を大々的にPR。

2006年9月16日、9月17日 台北市でコンサートを開催。

2006年11月11日、11月12日 ソウル特別市でコンサートを開催。

2007年4月4日 3本目の主演映画『黄色い涙』が公開。

2007年4月29日 東京ドームで初の単独公演を開催、約5万5000人を動員。

2007年 『Happiness』が9月度の月間シングルランキングで1位を獲得し、グループ初の月間1位を果たす。

2007年 オリコンの年間シングルランキングで『Love so sweet』が4位になり、グループ初の年間トップ10入りを果たす。

2008年 SMAP、KinKi Kidsに続き、五大ドームツアーを行う。

ライブ初日の6月1日、名古屋ドームのリハーサル内で櫻井が舞台から転落。全治1カ月の右手の骨折と足の捻挫となり、当日のライブでは踊らず立って歌い、自由の利く左手で観客を盛り上げた。

2008年8月30日、8月31日 『24時間テレビ』第31代メインパーソナリティーを務める。

番組終盤には二宮和也がメンバーへの手紙を読み上げる。

2008年9月 - 11月 2度目となるアジアツアー（東京、台北、ソウル、上海）を開催。

結成まで

櫻井、二宮、松本は夏前からレコーディングや振り付けを行っていたが、CDデビューすることは知らされていなかった（当時、ジャニーズJr.にはCDデビューには至らない数々のユニットが存在した）。

後に雑誌『H』のインタビューで、「もともと櫻井、二宮、松本の3人でグループを結成する予定だったが、『相葉と大野も加入させたほうがいい』と3人で提案し、5人のグループになった」と答えている。

特徴

デビュー当時、グループ内の年齢差が3歳以内というのはジャニーズ事務所でも珍しかった。

庶民的な雰囲気と面白さで今の位置を維持している。

アイドルらしからぬ趣味を有していることを自覚している。アンダーグラウンド、アキバ系、文化系、マイナー、シュールなどと自称。

アイドルの枠を超えたキャラの濃さと特有のうだうだなノリが売りである。

メンバーの仲の良さについては内外から定評がある。

メンバー同士で誕生日プレゼントを贈り合っている。また海外に行った際には、メンバーへの土産を買って帰る。

メンバーでカラオケに行くことがある。その際は「嵐愛」として自分達の歌を歌い、全員で「良い歌だね」と再確認することもあるという。

シングル

A・RA・SHI (1999年11月3日)
SUNRISE日本 / HORIZON (2000)
台風ジェネレーション (2000)
感謝カンゲキ雨嵐 (2000)
君のために僕がいる (2001)
時代 (2001)
a Day in Our Life (2002)
ナイスな心意気 (2002)
PIKA☆NCHI (2002)
とまどいながら (2003)
ハダシの未来 / 言葉より大切なもの (2003)
PIKA★★NCHI DOUBLE (2004)
瞳の中のGalaxy / Hero (2004)
サクラ咲ケ (2005)
WISH (2005)
きっと大丈夫 (2006)
アオゾラペダル (2006)
Love so sweet (2007)
We can make it! (2007)
Happiness (2007)
Step and Go (2008)
One Love (2008)
truth / 風の向こうへ (2008)
Beautiful days (2008)
オリジナルアルバム
ARASHI No.1～嵐は嵐を呼ぶ～ (2001)
HERE WE GO! (2002)
How's it going? (2003)
いざッ、Now (2004)
One (2005)
ARASHIC (2006)
Time (2007)
Dream "A" live (2008)
映画
ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだけどHAPPY (2002年)
ピカ☆☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY (2004年)
黄色い涙 (2007年)

私は、お笑い系の人たちや、おネエ系の人たちも大好きだし、プロスポーツの人たちも大好きである。勿論、一般的？な人々も。私自身は、アンバリッドで、片隅で生きるしかない人なのだけれど。これはこれで、侘び・サビの世界を追求できる？かも、などと前向きに考えている。

中村については、紅白等ですでに衆知のとおりなので、これについては直接の言及はしない。声質については、あまり私の好みではないが、その歌い上げる世界は、新鮮な歌詞で、優しさと、苦汁とリアリズムに満ちている。アーティストとしての才能も、かなりのグレードである。いままでにない分野、というか、領域を拓いているので、その重要性はきわめて高いのである。

(詞・曲 中村中)

触れるまでもなく先の事が見えてしまうなんて そんなつまらない恋を---忘れた頃にもう一度会えたら仲良くしてね----

(収集プロフィール)

中村中(なかむら あたる、1985～)は、日本のシンガーソングライター、俳優。東京都墨田区出身。

*圧倒的な歌唱力とメッセージ性の高い歌詞など、申し分のない逸材だ。

デビュー前より100曲以上の持ち歌があり、岩崎宏美に楽曲提供もした中村中のシングル第1弾。題名からして独特のセンスが息づくが、浮気後の心模様をクールな視点で綴り、その歌声には年齢以上の落ち着きと、酸いも甘いも噛み分けた深みを感じられる。

すでに作曲家としても評価を得ている実力派シンガー・ソングライター。岩崎宏美に提供したナンバーのセルフ・カバーで、日常の葛藤を綴った歌詞が魅力。今後の躍進が期待できる逸材だ。

セカンド・シングル。ただし楽曲自体は自主制作で実質的なデビュー作品として発表された思い入れいっぱい作品であり、ほんの幼少の頃から歌うことだけに向き合ってきたという彼女の一番深いところを表わす。

各種イベント・ライブへの出演で知名度を上げている、実力派女性シンガー・ソングライター。亀田誠治も絶賛する逸材で、本作でもその高い作詞能力と作曲センスを十二分に発揮している。

*今までにリリースした2枚のシングルイメージを覆すかのようなパワフルでストレートなナンバー。音抜けのよいサウンドで、存在感たっぷりの彼女の声が生々しく伝わってくる。

障害の告白で注目された彼女だが、楽曲の本質は性を越えたひとりの人間としての魅力にあることを証明している。

*障害を告白、というニュースとは関係なく、シンガー・ソングライターとしての素晴らしい才能。10代という季節が持つ葛藤、軋轢、絶望、その向こうにあるわずかな光を指し示そうとする決意。「さよなら十代」の壮絶ヴォーカルがすごい。

「天までとどけ」からのリカット・シングルで、黒沢清監督初の本格ミステリー映画「叫」の主題歌。人間の深い復讐心をテーマにした映画本編と彼女特有の生々しい世界観が、見事にマッチしている。

脳に響く歌声と呼ばれる女性シンガー・ソングライターの4枚目のシングル。ゆったりたおやかな

メロディとオーボエ、ハープ、ヴィブラフォンなどを駆使した大陸的なサウンドをバックに、草原大地を駆け抜ける風のようなヴォーカルを聴かせてくれる。

「I LOVE YOU」という常套的なフレーズでは表現しきれない深い愛をテーマにした、濃厚なラブ・ソング。心に訴えかけてくる歌声が魅力だ。

深みのあるアダルト・ヴォイスが映し出すヘヴィな愛の世界。2005年から活動するシンガー・ソングライター。湿り気を帯びた昭和歌謡の香りを放ちながらも、その唯一無二の存在感をジワジワと知らしめていくような印象を与える。

彼女の得意分野といえる昭和歌謡テイストのスロー・ナンバーで、圧倒的な存在感と独自性を提示している。

昭和歌謡というか昭和演歌といえるようなコテコテのバラードで、場末における一途な恋心を、まっすぐで情熱的なヴォーカルで聴かせる。独自の世界観が見事にできあがっていて、「2000年代歌謡歌姫」的な立ち位置を確立。

2007年には紅白歌合戦出場も果たした中村中のセカンド・アルバム。そこでも歌われた代表曲「友達の詩」にある透明感とは裏腹に、どろどろとした情念を感じさせる作品集だ。昭和歌謡というか、阿久悠が作った歌の世界観に通じるものを感じる。

実力派シンガー・ソングライター、中村中の1stアルバム。15歳の時に書いた「友達の詩」などのシングル曲を中心に収録。性同一性障害の告白で注目された彼女だが、楽曲の本質は性を超えたひとりの人間としての魅力にあることを証明している。

2008年7月公開の映画「ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌」主題歌を収めたシングル。人間と妖怪の許されざる恋を発端とした物語にちなんで、「離れていてもたくましく生きるあなたでいてね」という思いが綴られている。珠玉のバラード。

歌謡曲という概念が薄れて久しいが、歌謡曲の濃厚さと華やかさを武器にして、J-POPシーンに颯爽と登場した一人のアーティストがいる。それが中村中である。幼い頃から歌に親しんでいたが、変声期に差し掛かった頃から自分の声に違和感を感じるようになると、その想いをピアノにぶつけ思春期特有の様々な感情を曲作りに昇華していくこととなる。05年に自主制作盤『友達の詩』発売、06年2月には岩崎宏美のアルバム『Natural』に楽曲提供し、知る人ぞ知る存在になってゆく。そして06年6月、「汚れた下着」でメジャー・デビュー。同年9月には15歳の時に初めて作った楽曲「友達の詩」をシングル・リリース、同時期に自らが性同一性障害であることをカミング・アウトし各方面から注目が集まった。「友達の詩」は楽曲の素晴らしさもあって爆発的ヒットを記録している。07年1月には、1stアルバム『天までとどけ』を発表、耳なじみの良いメロディと深い歌詞で、実力の高さを見せつけた。

中村中という、男性でも女性でもない名前、そして「手をつなぐだけでいい、いつかまた会ったら友達のままでいさせて」と歌う「友達の詩」。中村中というアーティストは、女性として生きたいと願う切なる想いと、女性としての幸せを求めても叶わない哀しみに満ち溢れているのかもしれない。だが自らの秘密を告白し、前に進む決意を表した彼女の今後が楽しみである。

略歴

幼少の頃より音楽に触れる。歌が好きになるきっかけとなったのは歌謡曲。母親が口ずさんでい

た研ナオコの「泣かせて」を聴いてからであるという。

10代初めより独学でピアノを習得。千葉県成田市に住んでいた時、中学の音楽の先生からも音楽を習う。15歳の頃より作詞作曲を始める。中学3年生の頃より路上ライブを行い、ストリートミュージシャンとして活動するようになる。後に高校を中退し、本格的に音楽活動を始める。

2004年

3月28日、第5回かつしかバンドフェスティバルにてグランプリを受賞。同大会でのソロボーカルの受賞は史上初。

11月、ヤマハ音楽振興会主催のTEEN'S MUSIC FESTIVAL 2004の全国大会に出場する。

2005年

6月28日、P-PRO Musicからインディーズ盤『友達の詩』を1000枚限定で発売。

2006年

2月22日発売の岩崎宏美のアルバム『Natural』に楽曲「友達の詩」を提供。作家としても片鱗を見せる。

6月28日、自身の21歳の誕生日にシングル『汚れた下着』でavex traxからメジャーデビュー。この5日前の6月23日に未発表の楽曲「愚痴」を、着うたにてメジャーデビューに先駆けて配信。

9月6日、『友達の詩』を2枚目のシングルとして発売。

9月11日、性同一性障害であることをオフィシャルサイトにて公表。スポーツ報知芸能欄に記事が掲載され、その後多くのテレビ番組などで特集が組まれるきっかけとなった。

9月29日、フジテレビ系『僕らの音楽』で特集が組まれる。

2007年

1月1日、初のアルバム『天までとどけ』を発売。

2月21日、アルバムから『風になる』をシングルカットして発売。翌日の2月22日には未発表の新曲「まだ熱いくちびる」を、着うたにて限定配信する。

6月8日、TBS系『中居正広の金曜日のスマたちへ』で特集が組まれる。

6月27日、5枚目のシングル『リンゴ売り』を発売。

10月10日、フジテレビ系『笑っていいとも!』のテレフォンショッキングコーナーに生出演（夏木マリからの紹介）。

11月21日、6枚目のシングル『裸電球』を発売。

12月5日、2枚目のアルバム『私を抱いて下さい』を発売。

12月31日、第58回NHK紅白歌合戦に紅組で初出場。戸籍に記載された性別が男性であるソロシンガーが紅組で出場するのは紅白歌合戦史上中村が初めてである。

2008年

2月、テレビ番組『Channel a』（tvkほか）で山梨県旧上九一色村の廃校直前の小学校を訪問した。

7月9日、7枚目のシングル『風立ちぬ』を発売。

9月26日、テレビ朝日系『ツジツマ』内放送のドラマ「マゼンタに気をつけろ」で、初めてドラマ原案を手掛ける。

人物

両親は幼少期に離婚し、母親のもとで育つ。また、兄と姉がおり、3人兄弟の末っ子である。両親が離婚してから、千葉県成田市に住んでいた時期もある。

子供のころは歌うことを好んで楽器には興味を示さなかった。しかし、10歳の時に合唱コンクールがあり、懸命に歌う中村の姿が同級生には疎ましく思われ、中村は同級生と一緒に歌う気をなくす。歌わない選択肢として指揮者とピアノの伴奏者があったが、指揮者はすでに決まっていたので、中村は伴奏者になった。そして、独学でピアノを修得。さらに、10代初めの変声期、変っていく声への違和感から歌うことに苦痛を感じることもさへあり、これがきっかけとなってドラムなどの楽器を演奏、さらに作詞作曲をするようになった。

中学校の吹奏楽部に所属する傍ら、複数のバンドを掛け持ちし、ギターやドラムなど、様々な楽器に触れる。中学校の卒業する間近にして出会った地元のストリートミュージシャンに啓発されて、路上ライブをやるようになる。

性同一性障害を抱えており、戸籍上の性別は男性であるが、精神は女性。ただし、本人は「男という自覚も、女としての実感もない」といった感覚である事が窺える。本人が性別に対する違和感を自覚したのは小学生の時、好きな男の子が出来た時だった。その事が原因で、同級生からイジメを受けたという。

尊敬する歌手としてちあきなおみ、槇原敬之、大黒摩季、小田和正、森山直太郎の名前をあげている。男性歌手が歌うラブソングが好きで、とりわけ「槇原さんは私にとって神様みたいな存在です。」と語る。

2006年からは舞台を中心に俳優としても活動するようになったが、これについては「演技も歌うことと同様に捉えている」と語っており、表現者として歌手と俳優も同じことであると考えている。

シングル

汚れた下着（2006年6月28日発売）

友達の詩（2006発売）

私の中の「いい女」（2006発売）

風になる（2007発売）

リンゴ売り（2007発売）

裸電球（2007発売）

風立ちぬ（2008発売）

全国松竹系公開映画『ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌』主題歌

アルバム

天までとどけ（2007発売）

私を抱いて下さい（2007発売）

提供作品

岩崎宏美「友達の詩」（2006年）

AAA「チューインガム」（2006年）

戸田恵子「強がり」（2007年）

未発表曲

未来の僕へ

Nostalgie

煙草

廃れた玩具

線香花火

羅針盤

恋の歌から朗々とした曲まで、素直に自然に唄いあげる、素晴らしい歌唱力とっていい。特に、この曲はシニアな私にも、迫ってくるブレイブがある。

(詞・曲 Dawn Ann Thomas)

If you haven't change your mind そばにいてほしいよTonight 強がることに疲れたの 幼すぎたの---たとえば誰かのためじゃなくあなたのために 歌いたいこの歌を---

(収集プロフィール)

伊藤由奈(いとう ゆな、Yuna Ito、1983～)は、日本の歌手、女優。ハワイ出身。国籍はアメリカ。父親は日本人、母親はアメリカ人。ロサンゼルス生まれ、高校卒業までハワイで暮らす。趣味は料理。

原作コミック/映画/アニメと各メディアで史上空前のメガヒットとなった作品『NANA』の映画第1作(05年公開)において、劇中バンドのヴォーカリスト・芹澤レイラ役として抜擢され、同時に劇中歌「ENDLESS STORY」をREIRA starring YUNA ITO名義で歌手デビュー。この曲はオリコンチャート8週連続ベスト5入りという、新人アーティストとしては異例のヒットを記録した。以降もフジテレビ系ドラマ『アンフェア』主題歌「Faith」、映画『LIMIT OF LOVE 海猿』主題歌「Precious」などに次々と起用され、07年1月には1stアルバム『HEART』をリリース。その後、元Def TechのMicroとの「Mahaloha」やギタリスト、押尾コータローとの「Urban Mermaid」、セリーヌ・ディオンの夢の共演を実現した「あなたがいる限り ～A WORLD TO BELIEVE IN～」など話題のコラボ作品を次々と発表。

アップ・テンポなダンス・チューンから壮大なバラード系まで、あらゆる曲調を歌いこなす歌唱力/表現力には高い評価が集まっている。

清潔感あふれる歌声が印象的に響くせつなさあふれるミディアム・バラードとなっている。透明感あふれる歌声は艶を増し、さながら清らかな春風のように、聴き手の心をときめかせてくれる。

何も恐れず、自分の気持ちに正直に生きていこうよ、というポジティブなメッセージを含んだ、軽やかでキュートなポップ・チューン。四つ打ちのミディアム・ビートのうえでオーガニックな音像を響かせる、押尾のアコースティック・ギターも気持ちいい。

「いつまでも輝いていたい」と願うすべての女性たちへ贈るCheer-upチューンで、伊藤由奈の等身大のメッセージが綴られている。

人気漫画が原作の映画「NANA」をきっかけにブレイクした女優兼シンガー。テレビ・ドラマ「アンフェア」の劇場映画版「アンフェア the movie」の主題歌「I'm Here」を収録。艶と伸びのある声色はまさに和製マライア。

バラードの印象が強いが、高い安定感を誇る美声とリズム感はダンス・トラックでもしっかりと発揮。

映画「NANA」で劇的なデビューを果たした新世代歌姫のサード・シングル。タイトル曲の朗々と盛り上がる壮大なバラードは、これぞ彼女の真骨頂。カップリングの軽快なポップスやダンス・ナンバーもキュートに愛らしく歌いこなし、シンガーとしての幅の広さを見せている。

「ENDLESS STORY」を彷彿とさせるメロウなラブ・バラード。ノーランズ風のファンキーなポップス。どちらも切々と歌う日本語とスモーギーな英語のバランスが絶妙で引き込まれる。劇中のクライマックスで歌い上げられる壮大なバラード、挿入歌となる華やかなと、滑らかな中に繊細なフェイクをきかせる、その巧みなヴォーカルを堪能させてくれる。

人物

青木さやかの大ファンである。青木がMCを担当する「音楽戦士 MUSIC FIGHTER」に出演したとき、自分のことを「青木マニア」と言って「テレビ見てて青木さんが出たらそのままチャンネルストップ」とコメントしていた。他にも「小島よしおが気になる」とラジオ番組で公表している。

好きな食べ物であり得意の料理がアドボ（フィリピン料理）。「HEY!HEY!HEY!MUSIC CHAMP」で調理してみせた。日本に来てから友人に教わったらしい。

マライア・キャリーの大ファンで、歌手を目指すキッカケになったのもマライアの曲である。J-POPではCrystal KayやDOUBLEが好き。

日本に来たての頃は、通勤電車のラッシュ時の混雑(ハワイには電車が走っていないのでそれを珍しがって)や高速道路の渋滞を体験したかったようである。実際に体験して「私忙しいと思った。」という。

日本で歌手デビューする前の2003年に韓国ファッション誌でモデルデビューしていた。

2007年にガシー・レンカー・ジャパンの「プロアクティブ」のCMに出演。生まれ故郷のハワイで初の水着姿を見せた。また、miss youのPVでも水着姿を披露している。

来歴

2004年、オーディションにより映画「NANA」の芹澤レイラ役に起用され、翌2005年9月7日、その劇中歌「ENDLESS STORY」（REIRA starring YUNA ITO名義）でデビュー。オリコン週間シングルチャートにおいて初登場から8週連続ベスト5入りするヒットとなり、最高2位を記録した。

2005年12月31日、NHK「第56回NHK紅白歌合戦」に初出場。同年12月21日放送の「ワンナイR&R」では、バラエティにも進出している。

2006年5月3日リリース「Precious」は、同年公開の邦画実写映画で興行収入第1位となった「LIMIT OF LOVE 海猿」の主題歌としてヒットし、最高3位を記録。

ダイハツ・クーのCMソングとして「These Boots Are Made For Walkin'」（リー・ヘイズルウッド作曲によるナンシー・シナトラのヒット曲。うたばんのオープニングテーマであり、ジェシカ・シンプソンもカバーしヒット）を歌う。

2007年1月24日、1stアルバム『HEART』発売。オリコンチャート初登場1位を獲得。

2008年1月16日、セリーヌ・ディオンのコラボレーションシングル『あなたがいる限り〜A WORLD TO BELIEVE IN〜』発売。

シングル

発売 タイトル

1st 2005年9月 ENDLESS STORY

2nd 2006年3月 Faith/Pureyes

3rd 2006年5月 Precious

4th 2006年8月 stuck on you

5th 2006 losin'

6th 2006 Truth

7th 2007 I'm Here

8th 2007 Mahaloha

9th 2007 Urban Mermaid

10th 2008 あなたがいる限り ～A WORLD TO BELIEVE IN～

11th 2008 miss you

アルバム

1st 2007年1月24日 HEART

2nd 2008年2月20日 WISH

タイアップ

曲名 タイアップ

ENDLESS STORY 東宝配給映画「NANA-ナナ-」劇中歌

JOURNEY 東宝配給映画「NANA-ナナ-」挿入歌

Faith フジテレビ・関西テレビ系ドラマ「アンフェア」主題歌

フジテレビ・関西テレビ系ドラマ「アンフェア the special『コード・ブレイキング～暗号解読』」主題歌

Pureyes オフテクス「バイオクレンゼロ」CMソング

Precious 東宝配給映画「LIMIT OF LOVE 海猿」主題歌

These boots are made for walkin' ダイハツ「COO」CMソング

losin' AXNドラマ「LOST シーズン2」インスパイアソング

Truth 東宝配給映画「NANA 2」劇中歌

Take Me Away 東宝配給映画「NANA 2」挿入歌

I'm Here 東宝配給映画「アンフェア the movie」主題歌

Reason Why 東宝配給映画「アンフェア the movie」劇中歌

Mahaloha レーベルモバイル「レコード会社直営」サウンド」CMソング

Urban Mermaid ユニリーバ・ジャパン「LUX Super Rich Shine」CMソング

Colorful フジテレビ系「めざましどようび」10～12月度テーマソング

あなたがいる限り

～A WORLD TO BELIEVE IN～ au「LISMO」CMソング

Unite As One コナミ「TIME HOLLOW -奪われた過去を求めて-」エンディングテーマ

コナミ「TIME HOLLOW -奪われた過去を求めて-」CMソング

Tokyo Days ガシー・レンカー・ジャパン「プロアクティブ」CMソング

miss you 伊藤園「ビタミンフルーツ」CMソング

ケータイ小説「天使の恋」インスパイアソング

GATE 東宝配給映画「GATE」主題歌

LOVE MACHINE GUN ケータイ小説「天使の恋」テーマソング

映画

NANA-ナナ- (2005年、東宝) - 芹澤レイラ (TRAPNESTのボーカル) 役

NANA 2 (2006年、東宝) - 芹澤レイラ 役

受賞歴

2005年

日本有線大賞最優秀新人賞 (ENDLESS STORY)

日本レコード大賞特別賞 (NANAの2曲／2005年、ENDLESS STORY)

2006年

日本ゴールドディスク大賞ニューアーティスト・オブ・ザ・イヤー (ENDLESS STORY)

2007年

日本ゴールドディスク大賞ザ・ベスト10ソング・バイ・ダウンロード

テレビで何十回と見ているのだが、私にとって彼女の印象は薄いのだ。大ヒットしている時も、ワイドショーで騒がれている時も。何故なのか、よく判らないが。彼女は、残念なことに、芸能関係のルールで何年か干されて、大きくなるタイミングを逃してしまったようだ。アミ自身は、無理のない、ナチュラルでハートフルな歌声。歌唱力も高く、メロディーもミディアムでいい。歌詞も、現代をヴィヴィッドに、映し出している。

(詞・鈴木亜美 曲・渡辺徹)

いつもの靴を脱ぎ捨て 踊り続けるわたしを---乾いた咽喉を冷たく 口づけで潤してよ 飛び込める胸がある 止まない音----

(収録プロフィール)

鈴木 亜美 (すずき あみ、1982～) は日本の女性歌手、女優、ダンサーである。神奈川県座間市出身。日出女子高等学校卒業。

人気テレビ番組『ASAYAN』のオーディションでグランプリ獲得、98年に小室哲哉プロデュースのもとデビュー。押しもおされぬビッグ・アイドルに。好奇心にみちた瞳、きりりとした口元、愛くるしい笑顔、スレンダーな肢体、アイドル史上最強のルックスをもつ。CMでの元気澆刺なはじけっぷり、ステージでの威風堂々とした姿、写真集での物憂げな表情に、われわれ独身男性は言うにおよばず、どれほど多くの日本国民が励まされたことか。また、ステージ衣装のデザインや作詞といったアーティスティックな側面もキラリと光る。彼女の高校卒業と時を同じくして発表された、初の作詞曲「Don't need to say good bye」では、卒業は別れではなく出発である、と高らかに宣言。斉藤由貴の「卒業」と並び、卒業ソングの新しいスタンダードとなるであろう。さらに注目すべきは、松田聖子や河合奈保子といった、80年代初頭のある意味典型的なアイドルのキャラクターを踏襲している点ではないか。自らのことをアミーゴと名乗り、人間臭いリアリズムを徹底的に排除したパブリック・イメージを打ち出す。正統派アイドル不毛の90年代後半に、鈴木あみが受け入れられたというのは驚愕に値する。

01年にアルバム『FUN for FAN』をリリースして以後、事務所との契約トラブルにより芸能活動を休止。その後裁判の終結により活動を再開させ、自主レーベルから「強いキズナ」(CDブック)「FOREVER LOVE」などをリリースしていたが、05年1月1日を持って<エイベックス>に所属が決定した。同年3月に移籍第1弾シングル「Delightful」をリリースし、10月には、約5年半ぶりとなるオリジナル・アルバム『AROUND THE WORLD』を発表。4年以上のブランクを感じさせない彼女のキュートな歌声が、ファンのみならず音楽リスナーの心をも掴んだ。

06年7月、自身が作詞を担当し、レーベル・メイトである大塚 愛が他アーティストへ初の楽曲提供を行ったシングル「Like a Love?」をリリースし、8月には<エイベックス>主催の夏フェス『a-nation'06』でオープニング・アクトを努めた。

07年2月から3週連続にわたり、Buffalo Daughter、THC!!、キリンジとのコラボレーション・シングルをリリース、3月には数々のアーティスト・クリエイターとのコラボレーションが実現した“join”アルバム『CONNETTA』を発表。鈴木亜美の新たな一面を垣間見せ、今後の成長ぶりがさらに期待できる1枚に仕上がっている。

* アッパーかつ繊細なクラブ・サウンドに挑戦したナンバーで、歌手デビュー10周年を迎え、さらに磨きのかかったパフォーマンスを披露している。

歌声から醸し出されるほんのりとした色気は、ジリジリとアガっていくビートのループ感を艶かしく響かせる。ポップという一線を超える手前で。

Buffalo Daughterやキリンジらとのコラボにより、鈴木亜美のイメージを覆した「joins」シリーズ。中田ヤスタカ(capsule)とのエレクトリック・ディスコ・サウンドは、ヴォーカルすらも大胆にエフェクト加工した、ダンス音楽としての「本気」度が刺激的。

本人作詞、大塚愛が作曲したもの。大塚愛らしい可愛いメロディと鈴木亜美が描く恋物語がピッタリはまった、ちょっぴり切なさ含んだミディアム・ナンバー。

頭の中を麻痺させるようなビートの洪水のなか、鈴木亜美のヴォーカルがホット&クールに浮かび上がってくる。

シンガーとしての立ち位置をはっきりと意識した鈴木亜美のプロとしての仕事ぶりがまぶしいマキシ・シングルだ。軽くも重くもない、正統派のポップ・ソングを丁寧に紡いでいる。

経歴

1998年-2001年：ソニーデビュー。

1998年、『ASAYAN』（テレビ東京）の『ボーカリストオーディション ファイナル』で30万票を集め見事1位になり小室哲哉のプロデュースで歌手デビュー。本名の鈴木亜美から小室案により「鈴木あみ」として歌手デビュー。小学生時代から親しまれていた「あみーゴ」の愛称で若者から絶大な人気を集め一躍ビッグアイドルに。

1999年1月25日に写真集『amigo』を発売すると、徹夜組500人も含め5000人ものファンが銀座・福家書店に握手を求めて集まる。発売から6日で早くも20万部を突破する異例の売れ行きとなった。ファーストアルバム『SA』はデビュー以来発売した全シングルに新曲収録という事実上のベストアルバム形態で発売され、250万枚を売り上げる大ヒットとなり、更に人気の勢いは収まらず、続いて発売されたシングル『BE TOGETHER』もオリコンで初登場1位となり100万枚を超えるヒット曲になる。続けてシングル『OUR DAYS』もオリコン1位に。

2000年春の日本武道館公演では、それまで広末涼子が保持していた女性歌手の最年少武道館公演記録を抜く。チケットは数分で完売となった。4月発売されたシングル『THANK YOU 4 EVERY DAY EVERY BODY』もオリコンで1位となり、その夏に全国アリーナツアーを果たす。2枚目のアルバムが1枚目に続き1位となり、初動売上枚数が100万枚を超える。NHK総合テレビのテレビドラマ『ドラマDモード深く潜れ〜八犬伝2001〜』でテレビドラマ初主演。

しかしながら、2000年末に所属事務所とのトラブルが起こり、同年の紅白歌合戦、翌年春までのCM出演などを最後に、いったん事実上の引退状態に追い込まれるに至った。このトラブルでは、当時所属していたエージェンシーコミュニケーション事務所の社長が脱税で逮捕され、それに対して事務所からの説明がなかったことで信頼関係が崩れたとして、裁判になった。さらに元の事務所だけでなくレコード会社ソニー・ミュージックにも契約終了を求めて訴訟を起こし、裁判は長期化し休業状態になる。

2002年-2004年：インディーズ時

2002年7月25日、文藝春秋から写真集『亜美'02夏』を発売。さらに11月14日には公式サイトを開設。開設からの2日間で約20万ものアクセスが集中した。

2003年、9月25日に文藝春秋からDVD付き写真集「ami book」を発売。実に2年半ぶりに「動く」鈴木亜美がメディアに流れることとなった。そして同11月4日、長期化していたレコード会社ソニー・ミュージックとの裁判が、和解という形で終結。以後、本格的に歌手活動再開に向け動き出す。

そして2004年4月22日、文藝春秋から新曲シングルと写真集「強いキズナ」をセットで発売。レコード会社との契約がないため出版社から書籍扱いで発売する事になった。結果成功し、トーハンの2004年4月27日付ベストセラーランキング・単行本ノンフィクション部門で1位になり、最終的に15万部以上を売り上げた。8月11日にはシングル「FOREVER LOVE」を自主レーベルAMITYから発売。

2005年-現在

2005年1月1日よりエイベックスに移籍。2月に移籍第一弾楽曲「Hopeful」で限定配信リリースされた。3月には「Reality」以来のメジャー復帰シングル「Delightful」発売、オリコン初登場3位を記録した。そして、10月12日には実に5年半ぶり、エイベックス移籍後初となるオリジナル・アルバム『AROUND THE WORLD』をリリース、オリコン初登場5位を記録した。

2007年は、アーティストとのコラボレーション企画"join"でスタート。“join”とは、彼女がさまざまなアーティストの楽曲に参加することによって、彼女の新たな新境地を開拓するという企画である。

同年8月22日には音楽グループcapsuleのリーダ中田ヤスタカとの“join”4枚目のシングルを発表。この作品から刺激的なクラブミュージックにも試みた。クラブミュージックに、個性的でダンスポップな楽曲様々なアーティストとコラボした、そして"join"アルバムの2作目『DOLCE』が2008年2月6日に発売された。

2008年7月に、デビュー10周年を迎える。このために、7月2日に中田ヤスタカによるプロデュース記念シングル『ONE』を発売。

シングル

Delightful (2005年3月)

Eventful (2005年5月)

ねがいごと (2005)

AROUND THE WORLD (2005)

リトル クリスタル (2005)

Fantastic (2006)

Alright! (2006)

Like a Love? (2006)

O. K. Funky God (2007)

それもきっとしあわせ (2007)

FREE FREE/SUPER MUSIC MAKER (2007)

Potential Breakup Song (2007)

ONE (2008)

can't stop the DISCO (2008)

デビュー10周年記念シングル第2弾

アルバム

AROUND THE WORLD (2005年10月)

CONNETTA (2007年3月)

DOLCE (2008)

リミックスアルバム

AMix WORLD (2006)

限定配信曲

Hopeful (2005年2月) - エイベックス移籍第一弾楽曲。

Eventful (Bulldozer Remix) (2005)

美女と野獣 (2006)

ディズニー映画『美女と野獣』テーマソング。

鈴木あみ 名義 (1998年-2001年)

シングル

love the island (1998年7月)

alone in my room (1998年9月)

all night long (1998)

white key (1998)

Nothing Without You (1999)

Don't leave me behind/Silent Stream (1999)

BE TOGETHER (1999)

TM NETWORKのカヴァー曲

OUR DAYS (1999年9月29日)

HAPPY NEW MILLENNIUM (1999)

Don't need to say good bye (2000)

THANK YOU 4 EVERY DAY EVERY BODY (2000)

Reality/Dancin' in Hip-Hop (2000)

アルバム

SA (1999年3月25日)

infinity eighteen vol. 1 (2000年2月)

INFINITY EIGHTEEN Vol. 2 (2000年4月)

ベストアルバム

FUN for FAN (2001年5月)

シングルの最高売り上げが100万枚。

アルバムの最高売り上げが250万枚。